

第5次日吉津村総合計画(基本計画)

一人ひとりが輝き 夢はぐくむ村づくり

実 施 計 画

(平成20年度～22年度)

○基本計画(後期5年間／平成18年度～22年度)

第1章 人を愛する豊かな心をそだてよう

第2章 健康で笑顔のある明るい家庭をつくろう

第3章 仕事を愛し情熱とほこりをもって働こう

第4章 自然を守り住みよい郷土をつくろう

第5章 進んで学び、明日の文化を築こう

* 日吉津村第5次総合計画(平成13～22年度)について、平成18年3月、その基本構想(10年間)を見直すとともに、後期5年間の基本計画(平成18～22年度)を策定しました。全5章からなる基本計画に記載された各種施策について、後期3年次、平成20年度から3年間の計画を定めたものが、この実施計画です。(この実施計画は3か年のローリング方式により毎年改定します。)

<第1章 人を愛する豊かな心を育てよう>

1. 生涯学習のむらづくり

施 策	担当課	P	備 考
①学校、家庭、地域の連携	教育委員会	1	
②読書及び図書活動ネットワーク構築	教育委員会	2	
③ふれあいフェスタの充実	教育委員会	3	
④生涯学習のむらづくり推進大会の開催	教育委員会	4	

2. 学校教育の振興

1) 就学前教育

施 策	担当課	P	備 考
①教育機関相互の連携	教育委員会	5	
②家庭教育・子育て支援の推進	教育委員会	6	

2) 義務教育

(1) 小学校教育

施 策	担当課	P	備 考
①活力ある学校づくり	教育委員会	7	
②社会に適応できる子どもの育成	教育委員会	8	
③特別支援教育の充実	教育委員会	9	
④小学校体育館・講堂の早期新築	教育委員会	10	
⑤開かれた学校教育の実践	教育委員会	11	
⑥教職員の資質の向上	教育委員会	12	

(2) 中学校教育

施 策	担当課	P	備 考
①教育機能の整備	教育委員会	13	
②社会教育分野の取り組み	教育委員会	14	
③関係組織の強化	教育委員会	15	

3. 社会教育と公民館活動

施 策	担当課	P	備 考
①学習機会、内容の拡充	教育委員会	16	
〃 (かがやき学級)	教育委員会	17	
②各種団体・グループの育成と指導者養成	教育委員会	18	
③学習への支援	教育委員会	19	
④各種イベントの開催(盆踊り大会)	教育委員会	20	
〃 (芸能大会)	教育委員会	21	
⑤図書の充実と中央公民館図書室の拡充	教育委員会	22	
⑥民俗資料館の管理運営と地域文化振興	教育委員会	23	

4. 社会体育の振興

1) スポーツ・レクリエーション活動

施 策	担当課	P	備 考
①村民総スポーツの推進	教育委員会	24	
②各種大会の開催	教育委員会	25	
③少年スポーツの健全育成	教育委員会	26	
④指導者の確保・育成	教育委員会	27	

2) スポーツ施設の整備

施 策	担当課	P	備 考
①施設の適正管理と有効利用	教育委員会	28	
②スポーツ施設の充実	教育委員会	29	

5. 人権尊重・同和問題への取り組み

施 策	担当課	P	備 考
①審議会の設置と総合計画の策定	教育委員会	30	
②人権・同和教育研修の充実	教育委員会	31	
〃 (人権擁護委員)	住民課	32	
〃 (行政職員)	総務課	33	
〃 (行政職員の派遣研修)	住民課	34	
③村同和教育推進協議会の活動推進	教育委員会	35	

6. 男女共同参画社会の実現

施 策	担当課	P	備 考
①男女共同参画社会の実現と行動計画の策定	住民課	36	
②活動の支援と人材育成	住民課	37	
③参画の推進	住民課	38	
④支援施策の充実(企業・事業所への推進)	住民課	39	
〃 (DV、セクシャルハラスメント対策)	福祉保健課	40	
〃 (子育て支援)	福祉保健課	41	

7. ボランティアの育成・支援

施 策	担当課	P	備 考
①ボランティア活動の推進	地域振興課	42	
②相談体制の確立と支援	地域振興課	43	

第1章 人を愛する豊かな心をそだてよう		実施主体	(○)村直営 ()団体 ()その他		
1.生涯学習のむらづくり	施 策	(P29) ①学校、家庭、地域の連携	実施期間	継続	団体等 村内各種団体、組織と連携

平成 20 年度実施計画				平成 19 年度実施状況					
1) 目的と到達目標		2) 事業内容(具体的な施策)		4) 平成19年度の施策の実施状況と成果・課題					
<p>■目的</p> <p>学校、家庭、地域の連携を図りながら、学習内容や手段の充実、図書活動の活性化、学習情報の提供などに努め、学習条件の整備と推進体制の強化を図る。</p> <p>■到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校・家庭・地域が連携した学習プログラムの実践 ・学習プログラム、支援システムの具現化 ・学校・家庭・地域が連携したネットワークづくり 		<p>◇「GUTS日吉津っ子」育成事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学社(学校教育・社会教育)連携、融合による子育てプログラム「GUTS 日吉津っ子」の実践 ・講演会・研修会の開催 		<p>■実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校・家庭・地域が連携する子育てプログラム「GUTS 日吉津っ子」を村内外にPR。 ・「GUTS 日吉津っ子」計画の育成推奨事業を中心に実践。 <p>■成果等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「GUTS 日吉津っ子」計画が少しずつではあるが、村民に浸透してきた。 ・村内に子育てサポーターが増えつつあり、地域の子どもは地域みんなで育てるという意識が芽生え始めてきた。 <p>■課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後、いかに学校・家庭・地域がバランスよく協働を進めることができるか、そして、その取り組みをむらづくりにどう繋げることができるか課題である。 					
3) 実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5) 施策評価					
年度	実績	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成 19 年度	実績	報償費等	357	一般財源	平成 19 年度 施策評価 (庁内評価)	学習条件の整備等に、学校・家庭・地域の連携の重要度は極めて高い A	少予算で事業が実施できた A	C	参画と協働の実践および人材育成 B
平成 20 年度	予算	報償費等	239	一般財源					
平成 21 年度	計画	報償費等	239	一般財源	平成 19 年度 施策評価 (外部評価)				
平成 22 年度	計画	報償費等	239	一般財源					

第1章 人を愛する豊かな心をそだてよう		実施主体 (○)村直営 ()団体 ()その他		
1.生涯学習のむらづくり	施策 (P30) ②読書及び図書活動のネットワーク構築		実施期間	H17～継続

平成 20 年度実施計画				平成 19 年度実施状況				
1)目的と到達目標		2)事業内容(具体的な施策)		4)平成19年度の施策の実施状況と成果・課題				
<p>■目的</p> <p>生涯学習の重要拠点となるよう、小学校、保育所などと連携することで、子どもたちの読書活動の活発化を図る。</p> <p>また、村民の読書支援をする。</p>		<p>◇県立図書館のWEB予約サービスの利用促進</p> <p>◇県立図書館のセット図書、貸出しサービスの利用促進(各施設への団体貸出)</p> <p>◇図書管理システム電算化に向けて蔵書・利用状況などの情報管理・実態調査</p>		<p>■実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・WEB予約サービスによる貸出件数 143 件(49 件増)。 ・団体貸出(単元学習用 朝読書用図書)3,360 冊。 ・子育てサークル活動場所・社会福祉センター喫茶室への出前図書。 ・利用者登録カード発行 57 名。 				
<p>■到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県立図書館を中心としたネットワーク構築と図書館サービスの提供 				<p>■成果等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書室で確保できていない図書を県立図書館の蔵書にてカバーすることができた。 ・他の図書館と同様の図書館サービスを提供できることで、利用者の読書意欲・学習意欲の支援協力ができた。 				
				<p>■課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者登録については通常の図書室利用者の登録率が低い。 ・現在の図書貸出方法がカード記入式では、登録の必要性が薄い。 ・利用者の増加とともに図書の管理上、利用者登録が必要。 				
3)実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5)施策評価				
年度	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成 19 年度	実績	—		平成 19 年度 施策評価 (庁内評価)	村民の読書支援等に、小学校や保育所等との連携の重要度は極めて高い A	貸出件数が増加 B	広く村民や各種団体に広報することが必要 B	C
平成 20 年度	予算 需用費	20	一般財源					
平成 21 年度	計画 備品購入費等	500	一般財源	平成 19 年度 施策評価 (外部評価)				
平成 22 年度	計画 備品購入費等	500	一般財源					

第1章 人を愛する豊かな心をそだてよう		実施主体	()村直営 (○)団体 (○)その他		
1.生涯学習のむらづくり	施 策	(P30) ③ふれあいフェスタの充実(文化の部)	実施期間	継続	団体等 ふれあいフェスタ実行委員会

平成 20 年度実施計画				平成 19 年度実施状況					
1) 目的と到達目標		2) 事業内容(具体的な施策)		4) 平成19年度の施策の実施状況と成果・課題					
■目的 公民館グループ活動発表の場としての作品展示、村民一般の作品展示等を通して、創作意欲の振興を高めるとともに、村民の文化意識の向上と交流を図る。		◇ふれあいフェスタ ・毎年11月第1土・日(2日間開催) ・会場…トレセンアリーナ内、ロビー ・作品展示(公民館グループ・小学校・保育所・自治会婦人部等各種団体・村民一般) ・小学生体験コーナー設置(囲碁グループ) ・点てだしの実施(茶道グループ)		■実施状況 ・11月3,4日開催(出展者数 36団体・7個人、作品展示会場入場者数 1,347人)。新規出展団体…かがやき学級・茶道グループ。					
■到達目標 ・村民一般の出展の増加				■成果等 ・多様な団体・グループ、村民一般などの作品の出展があり、村民全体の文化活動の成果を発表することができた。 ・搬入、搬出等すべて出展者が自分たちで行うことで、自立と協働が進んだ。 ・広場のイベントとの相乗効果で多くの方が鑑賞し、生活文化意識の向上と交流が図られた。					
				■課題 ・会場配置(レイアウト)が毎年変化がないので、検討の必要がある。					
3) 実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5) 施策評価					
年度	実績	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成19年度	実績	役務費等	30	一般財源	平成19年度 施策評価 (庁内評価)	村民の創作意欲を高め、生活文化の振興を図り、重要度は極めて高い A	出展者が自ら搬入、搬出を行う B	村民全体の文化活動の成果が発表出来た B	自立と協働性が高まった B
平成20年度	予算	役務費等	28	一般財源					
平成21年度	計画	役務費等	28	一般財源	平成19年度 施策評価 (外部評価)				
平成22年度	計画	役務費等	28	一般財源					

第1章 人を愛する豊かな心をそだてよう		実施主体	(○)村直営 ()団体 ()その他		
1.生涯学習のむらづくり	施 策	(P30) ④生涯学習のむらづくり推進大会の開催	実施期間	H4～継続	団体等

平成 20 年度実施計画				平成 19 年度実施状況					
1) 目的と到達目標		2) 事業内容(具体的な施策)		4) 平成19年度の施策の実施状況と成果・課題					
■目的 本村の生涯学習活動について報告しあい、新しい学習課題や今後の方向性について認識を深め、それぞれの実践力を高める場として開催する。		◇生涯学習むらづくり推進大会 村内の先進的実践事例の発表や紹介、講演を通して、時代に即した学習課題克服のための助言をいただく ・パネルディスカッション ・記念講演		■実施状況 ・学社連携・融合による子育てプログラム「GUTS 日吉津っ子」の実践一年目の振り返りと今後の方向性をテーマに開催した。インタビューダイアログ、記念講演。					
■到達目標 ・村内の実践家の発掘 ・村民個々の実践に向けてのきっかけとなる場を提供				■成果等 ・子育てプログラム実践一年目の現状を話し合うことによって、成果や課題が明らかになった。 ・話し合いを踏まえた講演内容で、課題解決のヒントや今後の方向性が見えてきた。 ・村民に対しても、改めて取り組みを周知するよい機会となった。					
				■課題 ・今回見えた課題の整理。また、大会の参加者だけではなく、いかに村民全体に広く周知、浸透できるかが課題。					
3) 実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5) 施策評価					
年度	実績	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成 19 年度	実績	報償費	140	一般財源	平成 19 年度 施策評価 (庁内評価)	新たな学習課題や方向性を探るため重要度は極めて高い A	少予算で充実した大会ができた A	計画の成果や課題が見えてきた B	今後のむらづくりにつながる B
平成 20 年度	予算	報償費	168	一般財源					
平成 21 年度	計画	報償費	180	一般財源	平成 19 年度 施策評価 (外部評価)				
平成 22 年度	計画	報償費	180	一般財源					

第1章 人を愛する豊かな心をそだてよう		実施主体 (○)村直営 ()団体 ()その他		
2.学校教育の振興 1)就学前教育	施 策 (P30) ①教育機関相互の連携		実施期間	継続 団体等

平成 20 年度実施計画				平成 19 年度実施状況				
1) 目的と到達目標		2) 事業内容(具体的な施策)		4) 平成19年度の施策の実施状況と成果・課題				
<p>■目的</p> <p>幼児期の教育は、生涯の人間形成の基礎を培うものであり、その役割は重要であるため、保育所における教育的機能の充実や関係機関の連携を図る。</p> <p>■到達目標</p> <p>・綿密な連携を図るため、教育委員会、保育所、小学校、児童館でつくる日吉津村教育協議会の開催など</p>		<p>◇「日吉津村教育協議会(教育委員会、保育所、小学校、児童館)」の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年2回程度実施 ・授業の風景や保育風景を交互に見学し、問題点や課題について協議する ・入学予定園児の日頃の保育風景を観て、次年度入学児童の指導の参考とする 		<p>■実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日吉津村教育協議会を開催(H19年度は未実施)。 ・各機関の意見発表、基本的生活習慣の定着を目指す。 <p>■成果等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教育機関が一同に会し、問題点等を話し合うことで、子育てに関する連携が図れるが、未実施。 <p>■課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各現場がそれぞれ多忙なため、会の開催自体が難航。 ・要支援児童の増加もあり、連携の必要性を再認識する必要がある。 				
3) 実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5) 施策評価				
年度	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成 19 年度	実績	—		平成 19 年度 施策評価 (庁内評価)	要支援児童の増加も背景にあり、重要度は高い B	C	D	C
平成 20 年度	予算	—						
平成 21 年度	計画	—		平成 19 年度 施策評価 (外部評価)				
平成 22 年度	計画	—						

第1章 人を愛する豊かな心をそだてよう		実施主体 (○)村直営 ()団体 ()その他
2.学校教育の振興 1)就学前教育	施 策 (P30) ②家庭教育・子育て支援の推進	
		実施期間 継続 団体等

平成 20 年度実施計画				平成 19 年度実施状況				
1) 目的と到達目標		2) 事業内容(具体的な施策)		4) 平成19年度の施策の実施状況と成果・課題				
■目的 幼児期に身につけなければならない基本的生活習慣の習得等家庭での教育力の向上を図る。		◇研修会の開催 ・新しく1年生になる児童の保護者を対象に、家庭教育の重要性を再認識するために開催		■実施状況 ・保護者対象の研修会は、平成19年度は未実施。 (新入学家庭保護者へは、健診の際に学校より、小学校生活等について説明会を開催。)				
■到達目標 ・家庭での教育力の回復のため家庭教育学級などの開催				■成果等 ・新1年生の保護者への研修の機会は、大変貴重な場であり、今後も継続したい。				
				■課題 ・関係機関との連携を図る。				
3) 実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5) 施策評価				
年度	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成19年度	実績	—		平成19年度 施策評価 (庁内評価)	基本的生活習慣が 欠如している家庭 が多く、重要度は 高い B	C	D	C
平成20年度	予算	—						
平成21年度	計画	—		平成19年度 施策評価 (外部評価)				
平成22年度	計画	—						

第1章 人を愛する豊かな心をそだてよう		実施主体 (○)村直営 ()団体 ()その他		
2.学校教育の振興 2)義務教育 (1)小学校教育	施 策 (P31) ①活力ある学校づくり		実施期間	継続 団体等

平成 20 年度実施計画				平成 19 年度実施状況				
1) 目的と到達目標		2) 事業内容(具体的な施策)		4) 平成19年度の施策の実施状況と成果・課題				
■目的 人を愛する広い心、創造性豊かな児童に育てる教育内容の充実に努め、自ら学び考え進んで表現する子どもの育成を目指す。		◇大豆等の栽培体験 ・農家の人など地域の人材を活用し、学校農園での体験学習を行う ◇囲碁・将棋などクラブ活動 ・囲碁・将棋名人など地域の人材を活用し、指導を受ける		■実施状況 ・総合的な学習を活用し、地域の方等にゲストティーチャーとして、大豆づくり、白ねぎづくりを指導してもらった。 ・クラブ活動では囲碁将棋・英会話等を教わっている。				
■到達目標 ・総合的な学習の活用など教育内容の充実				■成果等 ・子どもたちは、直接指導を受けられることにより、教師の支援、指導以上の学習内容と地域の方との交流や地域との結びつきが豊かになり、大切な体験的学習となっている。				
				■課題 ・このような様々な学習の輪を広げ、いかに学社連携・融合につなげていくのが課題。				
3) 実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5) 施策評価				
年度	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成 19 年度	実績	—		平成 19 年度 施策評価 (庁内評価)	地域の人との交流しながらの体験学習は、重要度が高い B	C	交流学习がある程度できた B	学校と地域との交流 B
平成 20 年度	予算 報償費等	30	一般財源					
平成 21 年度	計画 報償費等	30	一般財源	平成 19 年度 施策評価 (外部評価)				
平成 22 年度	計画 報償費等	30	一般財源					

第1章 人を愛する豊かな心をそだてよう		実施主体 (○)村直営 ()団体 ()その他		
2.学校教育の振興 2)義務教育 (1)小学校教育	施 策 (P31) ②社会に適応できる子どもの育成		実施期間	継続 団体等

平成 20 年度実施計画				平成 19 年度実施状況					
1)目的と到達目標		2)事業内容(具体的な施策)		4)平成19年度の施策の実施状況と成果・課題					
■目的 社会に適応する力を育てるため、パソコンやケーブルテレビなどを活用した情報化、外国人との交流など国際化を取り入れた教育を推進する。		◇教職員のパソコンネットワークの完成による情報の共有化 ・教師にパソコンを習熟させる ◇パソコンやインターネットを活用した学習の推進 ◇外国人との交流など国際化を取り入れた学習の機会を作る		■実施状況 ・教職員一人1台のパソコンを導入した。 ・英語活動の実施。					
■到達目標 ・総合的な学習のなかで、調べ学習の実践が求められているため、教育を推進する ・学校図書館の必要性を踏まえ、充実を図る				■成果等 ・まずは指導者である教職員が、パソコンを習熟できるような環境が出来あがった。そして情報のネットワーク化、共有化が図れた。 ・国際理解活動の一環としての外国語活動を実施した。					
				■課題 ・教職員・児童がいかに学習の中で効果的に活用できるかが課題。					
3)実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5)施策評価					
年度	実績	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成 19 年度	実績	委託料、使用料	1,834	一般財源	平成 19 年度 施策評価 (庁内評価)	情報化教育、国際感覚の取得の重要度は高い		情報機器に慣れ親しんだ	
平成 20 年度	予算	委託料、使用料	2,724	一般財源、県費		B	C	B	C
平成 21 年度	計画	委託料、使用料	2,224	一般財源	平成 19 年度 施策評価 (外部評価)				
平成 22 年度	計画	委託料、使用料	2,224	一般財源					

第1章 人を愛する豊かな心をそだてよう			実施主体	(○)村直営 ()団体 ()その他		
2.学校教育の振興 2)就学前教育 (1)小学校教育	施 策	(P31) ③特別支援教育の充実	実施期間	継続	団体等	

平成 20 年度実施計画				平成 19 年度実施状況				
1) 目的と到達目標		2) 事業内容(具体的な施策)		4) 平成19年度の施策の実施状況と成果・課題				
■目的 誰もが可能性を広げ、個性や能力を伸ばし、ともに支え合い成長していく意欲を育てる。		◇特別支援学級の開設 ・障害の程度に応じた教育の推進 ・通常学級において、支援を要する児童に対する支援体制の強化		■実施状況 ・障害児学級専任教諭2名を配置し、充実を図った。				
■到達目標 ・障害の程度に応じた教育や支援体制の強化				■成果等 ・個人の成長の度合いに合わせた、きめ細かい教育を行うことができた。				
				■課題 ・特別支援教育の専任指導及び保護者協力体制の確立を図る必要がある。				
3) 実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5) 施策評価				
年度	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成 19 年度	実績	—		平成 19 年度 施策評価 (庁内評価)	児童一人ひとりの個性に応じた教育の重要度は極めて高い A	支援員の賃金 B	支援員を配置できた B	C
平成 20 年度	賃金	1,274	一般財源					
平成 21 年度	計画	1,274	一般財源	平成 19 年度 施策評価 (外部評価)				
平成 22 年度	計画	1,274	一般財源					

第1章 人を愛する豊かな心をそだてよう		実施主体 (○)村直営 ()団体 ()その他		
2.学校教育の振興 2)就学前教育 (1)小学校教育	施 策 (P32) ④小学校体育館・講堂の早期新築		実施期間	H19,20年度 団体等

平成20年度実施計画				平成19年度実施状況				
1)目的と到達目標		2)事業内容(具体的な施策)		4)平成19年度の施策の実施状況と成果・課題				
■目的 児童の安全・安心な教育環境の整備を図るとともに、災害時の避難場所としての機能を果たす施設整備を進める。		◇新体育館の建設 ・屋根に太陽光発電パネルを全面設置 (規模 992 m ² 総工費 35,900 万円)		■実施状況 ・建設検討委員会の設置。視察や会合など重ね、広報誌やホームページで紹介をした。				
■到達目標 ・児童の体位の向上を図るとともに、災害時の避難場所としての機能を持たせるため、日吉津小学校の体育館新築				■成果等 ・建設検討委員会を立ち上げ、小学生、教職員、社会体育関係者等の声を反映した設計書ができた。				
3)実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5)施策評価				
年度	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成19年度	実績 委託料等	8,121	一般財源	平成19年度 施策評価 (庁内評価)	体育館新築による教育環境整備は、重要度が極めて高い A	C	設計書完成 B	環境教育の充実 B
平成20年度	予算 工事請負費等	358,843	国庫等 90,300 起債 234,000					
平成21年度	計画	—		平成19年度 施策評価 (外部評価)				
平成22年度	計画	—						

第1章 人を愛する豊かな心をそだてよう		実施主体 (○)村直営 ()団体 ()その他		
2.学校教育の振興 2)義務教育 (1)小学校教育	施 策 (P32) ⑤開かれた学校教育の実践		実施期間	継続 団体等

平成 20 年度実施計画				平成 19 年度実施状況				
1) 目的と到達目標		2) 事業内容(具体的な施策)		4) 平成19年度の施策の実施状況と成果・課題				
■目的 地域ぐるみで児童を育てる機運を高めるため、より一層開かれた学校教育を実践する。		◇クラブ活動や総合学習へのゲストティーチャー招聘 ・PTA活動、地域子ども会、自治会、各種団体との連携を図るとともに、地域の教育力を活用し、地域の伝統や文化を伝え、「生きる力」を育む		■実施状況 ・年間約 200 人の保護者や地域の方が来校され、子どもたちの学習の支援、交流と様々な形で協力してもらっている。				
■到達目標 ・学校と地域との連携・融合により豊かな交流体験を位置づけ、心を耕す取り組みを進める				■成果等 ・地域の教育力の活用は、子どもたちの学習をより充実させるという効果をもたらしているが、学校に来られる地域の指導者や保護者にとっても、子どもたちとのふれあいは大きな喜びとなっている。				
3) 実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5) 施策評価				
年度	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成 19 年度	実績	—		平成 19 年度 施策評価 (庁内評価)	地域に根ざした学校教育は、重要度が高い B	C	C	C
平成 20 年度	予算 報償費	30	一般財源					
平成 21 年度	計画 報償費	30	一般財源	平成 19 年度 施策評価 (外部評価)				
平成 22 年度	計画 報償費	30	一般財源					

第1章 人を愛する豊かな心をそだてよう		実施主体	(○)村直営 ()団体 ()その他		
2.学校教育の振興 2)義務教育 (1)小学校教育	施 策	(P32) ⑥教職員の資質の向上	実施期間	継続	団体等

平成20年度実施計画				平成19年度実施状況					
1)目的と到達目標		2)事業内容(具体的な施策)		4)平成19年度の施策の実施状況と成果・課題					
■目的 直接児童の指導にあたる教職員の質的向上を目指し、学校教育の充実を図る。		◇各種研修会・大会での研究成果の発表 ◇講師を招いての独自の研修		■実施状況 ・学社融合事業のまとめの発刊。 ・県小教研特別教育活動研究発表大会の開催。					
■到達目標 ・教育の質的向上を図るため、教職員の資質や指導力の向上に努める				■成果等 ・児童育成目標「ガッツ日吉津っ子」の決定と浸透が図られた。					
				■課題 ・一層の推進とモデル事業の実施が求められる。					
3)実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5)施策評価					
年度	実績	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成19年度	実績	報償費	20	一般財源	平成19年度 施策評価 (庁内評価)	教職員の質的向上を目指した学校教育の充実は、重要度が高い B	C	C	C
平成20年度	予算	報償費	96	一般財源					
平成21年度	計画	報償費	96	一般財源	平成19年度 施策評価 (外部評価)				
平成22年度	計画	報償費	96	一般財源					

第1章 人を愛する豊かな心をそだてよう		実施主体 ()村直営 (○)団体 (○)その他			
2.学校教育の振興 2)義務教育 (2)中学校教育	施 策 (P32) ①教育機能の整備		実施期間	継続	団体等 中学校組合

平成 20 年度実施計画				平成 19 年度実施状況				
1) 目的と到達目標		2) 事業内容(具体的な施策)		4) 平成19年度の施策の実施状況と成果・課題				
■目的 教育環境・教育機能の更なる充実を目指す。		◇教育機能(施設・備品)の充実 ・組合教育委員会・組合議会を通じて実施		■実施状況 ・箕蚊屋中学校教育の充実を図った。				
■到達目標 ・施設・備品の整備の推進				■成果等 ・安定的な学校経営がなされている。				
3) 実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5) 施策評価				
年度	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成 19 年度	実績 負担金	5,964	一般財源	平成 19 年度 施策評価 (庁内評価)	教育環境の整備の重要度は極めて高い A	負担金の増加 B	整備が進んだ B	C
平成 20 年度	予算 負担金	5,964	一般財源					
平成 21 年度	計画 負担金	5,964	一般財源	平成 19 年度 施策評価 (外部評価)				
平成 22 年度	計画 負担金	5,964	一般財源					

第1章 人を愛する豊かな心をそだてよう		実施主体	(○)村直営 ()団体 ()その他		
2.学校教育の振興 2)義務教育 (2)中学校教育	施 策	(P32) ②社会教育分野の取り組み	実施期間	継続	団体等 中学校組合

平成 20 年度実施計画				平成 19 年度実施状況				
1) 目的と到達目標		2) 事業内容(具体的な施策)		4) 平成19年度の施策の実施状況と成果・課題				
■目的 お互いに相手の立場を思いやる豊かな心を育む環境づくりを行う。		◇中学生のつどいの開催 ◇地域でのイベント等への参加		■実施状況 ・村民運動会、盆踊り大会、全国スポレク祭など地域行事への参加がみられた。				
■到達目標 ・積極的に地域との関わりを持ち、社会性を身につける				■成果等 ・村子連主催のリーダー研修でジュニアリーダーとしての活躍がみられたが、中学生のつどいは未実施。				
				■課題 ・自分たちが主役となるような、また指導者となるような事業を展開する必要がある。				
3) 実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5) 施策評価				
年度	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成 19 年度	実績	—		平成 19 年度 施策評価 (庁内評価)	地域に溶け込んだ中学生の活動は、重要度が高い B	C	未実施 D	C
平成 20 年度	予算	—						
平成 21 年度	計画	—		平成 19 年度 施策評価 (外部評価)				
平成 22 年度	計画	—						

第1章 人を愛する豊かな心をそだてよう			実施主体	()村直営 (○)団体 (○)その他		
2.学校教育の振興 2)義務教育 (2)中学校教育	施 策	(P33) ③関係組織の強化	実施期間	継続	団体等	中学校組合、PTA等

平成 20 年度実施計画				平成 19 年度実施状況				
1) 目的と到達目標		2) 事業内容(具体的な施策)		4) 平成19年度の施策の実施状況と成果・課題				
■目的 いじめ、不登校、非行問題等早急に解決しなければならない課題への対応を進める。		◇PTA、学校、教育局、教育委員会、警察等の関係機関との連携強化		■実施状況 ・箕蚊屋中校区地域安全協議会によるパトロールの実施。 ・箕蚊屋中校区地域協議会の設立。				
■到達目標 ・関係組織の強化を図る				■成果等 ・校区各地区・各団体の連携により、生徒の安全対策、教育基盤の整備などに努められている。				
3) 実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5) 施策評価				
年度	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成 19 年度	実績	—		平成 19 年度 施策評価 (庁内評価)	安全・あんしんの学校生活の確保は、重要度が高い B	ボランティアの協力 B	C	C
平成 20 年度	予算	—						
平成 21 年度	計画	—		平成 19 年度 施策評価 (外部評価)				
平成 22 年度	計画	—						

第1章 人を愛する豊かな心をそだてよう		実施主体 (○)村直営 ()団体 ()その他
3.社会教育と公民館活動	施策 (P34) ①学習機会、内容の拡充	
		実施期間 継続 団体等

平成 20 年度実施計画				平成 19 年度実施状況					
1) 目的と到達目標		2) 事業内容(具体的な施策)		4) 平成19年度の施策の実施状況と成果・課題					
<p>■目的</p> <p>質、量ともに多様化・高度化した各々の生活課題や学習要求に応えていくために、誰もがいつでも、個々にあった方法で参加できるよう、学習機会等の拡充に努める。</p> <p>■到達目標</p> <p>・公民館・子育て支援センター・自治会・子ども会等と連携を図りながら実施</p>		<p>◇生涯各期における学習課題に対応する学習機会、情報の提供及び内容の拡充</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育てサロン 乳幼児の親子を対象 ・子どもの日まつり 小学生・保護者を対象 ・婦人部研修会 自治会婦人(女性)部を対象 		<p>■実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育てサロン…年間 11 回開催。 ・子どもの日まつり…海浜運動公園を会場に使い自然の中で遊びながら交流を図った。 ・婦人部研修会…人権教育をテーマに講演会を開催。 <p>■成果等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あまりコストを掛けずに、計画的で有意義な学習機会を提供できている。 ・参加者にとっては、自分たちだけではなかなか企画できない学習機会・情報の提供、交流・体験の場となっている。 <p>■課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加して終わりではなく、いかに自分たちの主体的な活動につなげてもらうかが課題。 					
3) 実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5) 施策評価					
年度	実績	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成 19 年度	実績	報償費等	90	一般財源	平成 19 年度 施策評価 (庁内評価)	生活課題に応える学習機会等の拡充は、重要度が極めて高い A	低コストの上、人的な効率が高い B	計画にそった内容の実現 B	家庭・地域の自立につながる B
平成 20 年度	予算	報償費等	90	一般財源					
平成 21 年度	計画	報償費等	90	一般財源	平成 19 年度 施策評価 (外部評価)				
平成 22 年度	計画	報償費等	90	一般財源					

第1章 人を愛する豊かな心をそだてよう		実施主体 ()村直営 (○)団体 (○)その他			
3.社会教育と公民館活動	施 策 (P34) ①学習機会、内容の拡充(かがやき学級)		実施期間	継続	団体等 かがやき学級運営委員会

平成 20 年度実施計画				平成 19 年度実施状況					
1) 目的と到達目標		2) 事業内容(具体的な施策)			4) 平成19年度の施策の実施状況と成果・課題				
■目的 現代社会の変化に対応し、健康でいきいきとした生活を営むために、実践等交流を交えて学習し、人とのふれあい、かかわりあいの中で生きがいづくりを目的とする。		◇かがやき学級 ・年10回開催(8月と1月を除く毎月) ・会場 中央公民館または現地 ・講座内容 教養・行政・法話・環境・人権学習・実技・館外研修・健康・親睦・歴史・国際理解・平和・音楽・生活などの中から開催			■実施状況 ・学級生登録者数 68 名(男性 9 名・女性 59 名)、延べ学級参加者数 304 名、平均学級参加者数 30 名 ・館外研修は、貸切りバスを利用し、日帰りを実施。親睦と交流の場を広げている。				
■到達目標 ・毎回学級参加者の増加 ・学級生の満足感の達成					■成果等 ・時代を反映した講演内容等で(例裁判員制度)、学級生の理解の手助けができた。 ・講師依頼を各箇所の派遣制度を利用し、経費削減に努めた。 ・かがやき学級長を中心に、各自治会選出の運営委員が講座の企画・学級運営を行っている。(学級開催通知の配布・準備等)				
3) 実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)					5) 施策評価				
年度	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果	
平成 19 年度	実績 報償費・借上料等	164	一般財源	平成 19 年度 施策評価 (庁内評価)	教養講座の開催は、重要度が極めて高い A	学級長・運営委員で、企画運営する B	時代を反映した講座で、学級生の意識の向上があった B	C	
平成 20 年度	予算 報償費・借上料等	164	一般財源						
平成 21 年度	計画 報償費・借上料等	164	一般財源	平成 19 年度 施策評価 (外部評価)					
平成 22 年度	計画 報償費・借上料等	164	一般財源						

第1章 人を愛する豊かな心をそだてよう		実施主体 (○)村直営 ()団体 ()その他		
3.社会教育と公民館活動	施 策 (P31) ②各種団体・グループの育成と指導者養成		実施期間	継続 団体等

平成 20 年度実施計画				平成 19 年度実施状況					
1)目的と到達目標		2)事業内容(具体的な施策)		4)平成19年度の施策の実施状況と成果・課題					
<p>■目的</p> <p>これまでの実践を活かし、さらに家庭・学校・地域が連携しながら学習できるよう、団体・指導者の育成、人づくりを進める。</p> <p>■到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青少年育成村民会議の活性化 ・村子ども会育成連絡協議会の自主的な運営 ・修了者の会の自立と、主体的な取り組み 		<p>◇青少年育成村民会議の育成援助</p> <p>青少年育成の課題が多様化するなか、村内関係者が網羅的に連携する</p> <p>◇村子ども会育成連絡協議会の指導支援</p> <p>「地域の子どもは地域で育てる」という方向がもっとも期待できる</p> <p>◇県主催の女性リーダー研修に派遣</p> <p>社会において大きな役割を担う女性リーダーの育成を支援する</p>		<p>■実施状況</p> <p>・「子どもの日まつり」を青少年育成村民会議と村子ども会育成連絡協議会と共催するなど連携を図りながら支援や育成をすすめてきた。また県の女性リーダー研修の修了者でつくる修了者の会の積極的な活動展開を図っている。</p> <p>■成果等</p> <p>・事務局の援助があってという現状は否めないが、青少年育成村民会議、村子連、修了者の会等各団体の活動は活発化してきている。また徐々にではあるが主体性も芽生え始めている。</p> <p>■課題</p> <p>・しかしながら事務局主導という感は否めない。これは会員側にのみ責任があるのではなく、事務局の係り方をどうすべきかを論議して、方向性を定める必要がある。</p>					
3)実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5)施策評価					
年度		支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成 19 年度	実績	補助金等	343	一般財源	平成 19 年度 施策評価 (庁内評価)	協働と参画のむらづくりにおいて、重要度は極めて高い A	C	C	村民との協働性・人材育成 B
平成 20 年度	予算	補助金等	337	一般財源					
平成 21 年度	計画	補助金等	337	一般財源	平成 19 年度 施策評価 (外部評価)				
平成 22 年度	計画	補助金等	337	一般財源					

担当課（教育委員会）担当者（土井）

第1章 人を愛する豊かな心をそだてよう		実施主体 (○)村直営 ()団体 ()その他
3.社会教育と公民館活動	施策 (P34) ③学習の支援…村報(公民館ページ)の充実	
		実施期間 継続 団体等

平成20年度実施計画				平成19年度実施状況					
1)目的と到達目標		2)事業内容(具体的な施策)		4)平成19年度の施策の実施状況と成果・課題					
■目的 生涯学習や公民館活動について情報提供し、一人でも多くの村民が関心を高めそれぞれの場に意欲的に参加できるように広報活動を推進する ■到達目標 ・村民の生涯学習意欲と関心を高める		◇広報紙(公民館ページ)発行 ・年12回(毎月) ・A4で2ページ、村報の紙面を利用して掲載する ・掲載内容は、公民館活動をはじめ、各種の社会教育活動の紹介、公民館図書室からのお知らせなど		■実施状況 ・年12回つくし(公民館ページ)を掲載。記事内容に応じて、本紙ページに掲載 ■成果等 ・デジタルカメラの導入により、写真データを管理し、編集の迅速化につとめた。 ・公民館活動や社会教育に関するさまざまな情報を広く村民に提供することができた ■課題 ・同担当者が編集しているため、記事内容がマンネリ化しないようにする。					
3)実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5)施策評価					
年度	実績	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成19年度	実績	賃金	830	一般財源	平成19年度 施策評価 (庁内評価)	村民が目を通す共通媒体として、重要度は極めて高い A	本紙編集者との連携ができた B	読者からの反応があり、関心の高さを認識 B	C
平成20年度	予算	賃金	830	一般財源					
平成21年度	計画	賃金	830	一般財源	平成19年度 施策評価 (外部評価)				
平成22年度	計画	賃金	830	一般財源					

第1章 人を愛する豊かな心をそだてよう		実施主体 ()村直営 (○)団体 (○)その他			
3.社会教育と公民館活動	施策 (P34) ④各種イベントの開催(盆おどり大会)		実施期間	H16～継続	団体等 盆おどり実行委員会

平成 20 年度実施計画				平成 19 年度実施状況					
1) 目的と到達目標		2) 事業内容(具体的な施策)		4) 平成19年度の施策の実施状況と成果・課題					
<p>■目的</p> <p>村内の老若男女やお盆の帰省者が一堂に会し、夏の風物詩である盆踊りを村民手作りにより再開することにより、世代を超えて地域の連帯感やふるさと意識を高揚させ、村の活性化を図る</p> <p>■到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・踊り参加者の増加 ・夏のイベント(ふるさとの夏祭り)としての定着化。 		<p>◇盆踊り大会の開催(8/16)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種団体、ボランティア、一般公募で実行委員会を組織し、運営 ・小学校グラウンドを会場とし、櫓、提灯の設置や商工会、一般の屋台出店の設置 ・郷土民謡(かんど踊り)の継続 ・協賛者を募り、大抽選会の実施 ・盆踊り練習会の開催 		<p>■実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昔ながらの8月16日に開催 盆踊り練習会を2回開催(一般・児童館) 実行委員 40名、中学生ボランティア数 6名、公民館運営審議会委員 9名、協賛企業数 27社、賞品点数 302点、抽選券配布数 911枚 <p>■成果等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体的に大会参加者の増加。ふるさとの夏まつりとして定着しつつある。 <p>■課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・踊りの参加者の減少 ・実行委員の一般公募 					
3) 実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5) 施策評価					
年度	実績	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成 19 年度	実績	役務費、借上料	60	一般財源	平成 19 年度 施策評価 (庁内評価)	ふるさと意識を高揚させ、村の活性化を図るため、重要度は極めて高い	実行委員主体で自立しつつある		
平成 20 年度	予算	役務費、借上料	79	一般財源		A	B	C	C
平成 21 年度	計画	役務費、借上料	79	一般財源	平成 19 年度 施策評価 (外部評価)				
平成 22 年度	計画	役務費、借上料	79	一般財源					

第1章 人を愛する豊かな心をそだてよう		実施主体 ()村直営 (○)団体 (○)その他			
3.社会教育と公民館活動	施 策 (P34) ④各種イベントの開催(芸能大会)		実施期間	継続	団体等 芸能大会実行委員会

平成 20 年度実施計画				平成 19 年度実施状況					
1) 目的と到達目標		2) 事業内容(具体的な施策)			4) 平成19年度の施策の実施状況と成果・課題				
■目的 公民館グループ活動発表の場と、一般村民の芸能発表と鑑賞の場を提供し、年代や地域を越えた愉快で楽しい一時を過ごし、ふれあい交流の場とする。		◇芸能大会の開催 ・公民館グループ、各種団体、ボランティア、一般公募の有志、公民館運営審議会委員で実行委員会を組織し、運営 ・概ね3月第2日曜日の開催。 ・出演者の募集(一般公募含)			■実施状況 ・3月9日(日)開催(3月8日夜リハーサル) 会場 日吉津村社会福祉センター 参加組数 14組、参加人数 188名、入場者数 408名(出演者含む)、実行委員数 34名				
■到達目標 ・どの年代でも楽しめる大会					■成果等 ・自主的出演もあり、自治会、各種団体に「芸能発表」が定着してきている。 ・自主参加、自主運営が進んでいる。				
3) 実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5) 施策評価					
年度	実績	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成19年度		借上料。印刷製本費、	30	一般財源	平成19年度 施策評価 (庁内評価)	村民に芸能発表、鑑賞の場の提供は、重要度が極めて高い A	実行委員会を中心に手作りの大会 B	年代、地域を越えた交流の場となった B	村民の自発的な出演があり、自立しつつある B
平成20年度	予算	借上料	24	一般財源					
平成21年度	計画	借上料	24	一般財源	平成19年度 施策評価 (外部評価)				
平成22年度	計画	借上料	24	一般財源					

第1章 人を愛する豊かな心をそだてよう		実施主体	(○)村直営 ()団体 ()その他		
3.社会教育と公民館活動	施 策	(P34) ⑤図書充実と中央公民館図書室の拡充	実施期間	H17～継続	団体等 鳥取県立図書館

平成20年度実施計画				平成19年度実施状況					
1)目的と到達目標		2)事業内容(具体的な施策)		4)平成19年度の施策の実施状況と成果・課題					
<p>■目的</p> <p>村民の多様な知的欲求を満たし、学習の楽しさや意欲を高めるため、図書室の拡充を図る。</p> <p>また、蔵書を確保し、村民誰もが利用できるよう整備していく</p> <p>■到達目標</p> <p>・中央公民館図書室が村民の読書活動の中心になるよう努める</p>		<p>◇中央公民館図書室の拡充</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公民館図書室についての情報を広く提供し、村民の利用促進を図る ・蔵書の整理と図書室の整備 ・村民の読書活動の支援(リクエスト図書・出前図書・小学校へのお話会への参加) ・小学校児童・保育所児の家庭を対象に図書室だよりを発行(年4回) ・読書推進に関する有識者による勉強会の開催 		<p>■実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在の蔵書数 9,560冊、平成19年度確保資料数 195冊、図書室の利用状況調査(個人貸出1,862件)、小学校お話し会への参加(年8回)、村HP・村報(つくしページ)による図書紹介 <p>■成果等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人・団体ともに利用数が増加した。個人貸出月平均169件(前年度153冊) ・県立図書館との連携により、より迅速に提供できるようになった。 ・図書室の模様替えを実施。小学生の利用が多くなった。 <p>■課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・限られたスペースと限られた資料費で、利用者すべてのニーズに応えることは困難。不足分は引き続き県立図書館の資料で対応。 ・読書活動の中心になるべく、主体事業を実施し、村民に広く周知してもらう必要がある。 					
3)実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5)施策評価					
年度	実績	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成19年度	実績	需用費・備品購入費等	1,315	一般財源	平成19年度 施策評価 (庁内評価)	村民の読書活動の重要度は極めて高い	小学校との連携がとれた	図書整備が中途だが、村民の利用が増加した	村民から図書が充実してきたとの反響があった
平成20年度	予算	需用費・備品購入費等	1,310	一般財源					
平成21年度	計画	需用費・備品購入費等	1,330	一般財源	平成19年度 施策評価 (外部評価)				
平成22年度	計画	需用費・備品購入費等	1,330	一般財源					

第1章 人を愛する豊かな心をそだてよう		実施主体 (○)村直営 ()団体 ()その他
3.社会教育と公民館活動	施策 (P35) ⑥民俗資料館の管理運営と地域文化振興	
		実施期間 継続 団体等

平成 20 年度実施計画				平成 19 年度実施状況					
1)目的と到達目標		2)事業内容(具体的な施策)			4)平成19年度の施策の実施状況と成果・課題				
■目的 本村の生活文化や歴史を保存展示している民俗資料館を村民のアイデンティティーやふるさと意識を育てる拠点として活用を広げる。		◇民族資料館の活用 郷土を中心とする民俗文化財を収集・保管し、適宜展示公開する。 ・秋のふれあいフェスタに併せ特別展の開催 ・学校の教材として利用を促進 ・定期的な展示物の入れ替えと収蔵物の整理 ・いつでも誰でも入館できる開放日の設定 ・民具調査票の活用			■実施状況 ・鳥取県の県史編さん室と共同で、6月から年度末までの期間をかけて、資料館の全ての展示品、収蔵品の写真撮影及びデジタルデータ化を行い、民具調査票を作成した。				
■到達目標 ・民具調査票を活用し、展示物や収蔵物の製本化をしたり、インターネット上での閲覧が出来るよう努める					■成果等 ・開館以来整理されていなかった展示物・収蔵物の整理が出来た。資料をデジタルデータ化することで管理がしやすくなるし、活用の幅も格段に広がることが考えられる。運営委員さんには調査員をボランティアで協力してもらった。				
3)実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5)施策評価					
年度	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果	
平成 19 年度	実績 委託料等	310	一般財源	平成 19 年度 施策評価 (庁内評価)	文化振興・ふるさと意識を育てる拠点として、重要度が高い B	鳥取県との共同作業 B	資料の整理・デジタルデータ化 B	運営委員さんとの協働 A	
平成 20 年度	予算 委託料等	376	一般財源						
平成 21 年度	計画 委託料等	376	一般財源	平成 19 年度 施策評価 (外部評価)					
平成 22 年度	計画 委託料等	376	一般財源						

第1章 人を愛する豊かな心をそだてよう		実施主体	()村直営 (○)団体 (○)その他		
4.社会体育の振興	施	①村民総スポーツの推進	実施期間	継続	団体等
1)スポーツ・レクリエーション活動	策				

平成20年度実施計画				平成19年度実施状況					
1)目的と到達目標		2)事業内容(具体的な施策)		4)平成19年度の施策の実施状況と成果・課題					
<p>■目的</p> <p>スポーツに親しむ機会の少ない、青壮年層を中心に村民相互の親睦を図り、明るく豊かで健康な村づくりに貢献するとともに、マラソン大会等を通じて地域の活性化と体力づくりの意識の高揚を図る。</p> <p>■到達目標</p> <p>・チューリップマラソン記念大会の開催(目標・参加者2000名)</p> <p>・12時間ソフトバレーボール大会の開催</p>		<p>日吉津独自の大会の開催で多数の参加者を募り、生涯スポーツの推進に役立てる</p> <p>◇第30回チューリップマラソン記念大会の開催</p> <p>・村の一大イベントとして定着</p> <p>◇12時間ソフトバレーボール大会の開催</p> <p>・ユニークな大会として認知</p> <p>◇ニュースポーツオープン大会開催</p> <p>・誰でも気軽に参加できるスポーツに親しみ、体力づくりに役立てる</p>		<p>■実施状況</p> <p>・第29回チューリップマラソン(4/15、1328人)、12時間ソフトバレー大会(6/23、356人)、グラウンドゴルフオープン大会(11/10、44人)、ターゲットバードゴルフオープン大会(11/17、28人)、ソフトバレーオープン大会(12/16、30人)、職場対抗ソフトバレー大会(2/3、65人)</p> <p>■成果等</p> <p>・各大会ともかなり定着してきており、村民の体力づくりに役立っている。12時間ソフトバレーボール大会は行政からの補助金なしで開催できている。オープン大会は参加費での運営が定着してきた。職場対抗ソフトバレーは、参加チームが増えており、職場の福利厚生にも役立っている。</p> <p>■課題</p> <p>・種目と参加者が固定化してきており、新しい種目を取り入れる必要性を感じる。</p> <p>・オープン大会等では、年齢区分などを設けて、より多くの幅広い年代の方々が参加できるような工夫が必要。</p>					
3)実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5)施策評価					
年度	実績	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成19年度	実績	賃金、補助金	2,696	一般財源	平成19年度施策評価(庁内評価)	医療費の増大などからも体力づくりの重要度は極めて高い	補助金不要な大会や参加費での運営ができた	各種大会の開催で体力づくりに役立った	
平成20年度	予算	賃金、補助金	1,659	一般財源		A	B	B	C
平成21年度	計画	賃金、補助金	1,479	一般財源	平成19年度施策評価(外部評価)				
平成22年度	計画	賃金、補助金	1,479	一般財源					

第1章 人を愛する豊かな心をそだてよう		実施主体	(○)村直営 ()団体 ()その他		
4.社会体育の振興	施 (P36)	実施期間	継続	団体等	村、村体育協会
1)スポーツ・レクリエーション活動	策 ②各種大会の開催				

平成 20 年度実施計画				平成 19 年度実施状況					
1) 目的と到達目標		2) 事業内容(具体的な施策)			4) 平成19年度の施策の実施状況と成果・課題				
■目的 日ごろスポーツに親しむ機会の少ない、青壮年層に参加していただき、地域住民の交流、親睦を図ることを目的とする。		◇村民運動会の開催 ◇各種球技大会の開催 ・自治会対抗方式 ・自治会ごとに練習や大会を通じて、交流、親睦を図りつつ、健康づくり、体力づくりに役立てる			■実施状況 ・村民運動会(10月7日延 1,700人)、球技大会(ソフトボール・ゲートボール、7月8日 180人)、球技大会(グラウンドゴルフ・ソフトバレー、11月12日 157人)、球技大会(バドミントン・卓球、3月2日 119人)				
■到達目標 ・村民運動会の開催 ・球技大会の開催					■成果等 ・自治会ごとに交流、親睦の場として役立っている。 ・球技大会は参加自治会も増え、参加者数も増えている。				
3) 実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5) 施策評価					
年度	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果	
平成 19 年度	実績 需用費・補助金	494	一般財源	平成 19 年度 施策評価 (庁内評価)	地域の繋がり、交流、親睦の場は、重要度が高い B	運動会役員の中心を自治会役員に移行している B	球技大会へ参加自治会、参加者数ともに増えた B	自治会の慰労会参加者が増えている B	
平成 20 年度	予算 需用費・補助金	702	一般財源						
平成 21 年度	計画 需用費・補助金	702	一般財源	平成 19 年度 施策評価 (外部評価)					
平成 22 年度	計画 需用費・補助金	702	一般財源						

第1章 人を愛する豊かな心をそだてよう			実施主体	()村直営 (○)団体 (○)その他		
4.社会体育の振興	施	(P36)	実施期間	継続	団体等	教育委員会、スポーツ少年団
1)スポーツ・レクリエーション活動	策	③少年スポーツの健全育成				

平成 20 年度実施計画				平成 19 年度実施状況					
1) 目的と到達目標		2) 事業内容(具体的な施策)		4) 平成19年度の施策の実施状況と成果・課題					
■目的 スポーツを通じて、健康でたくましい心と体をつくるとともに、生涯にわたって運動に親しみスポーツ活動を続けていける基礎を養うことを目的とする。		◇スポーツ少年団活動 野球、サッカー、ミニバスケットボール、空手の4種目 ・指導者総勢9名。 ・各部門ごとに育成会があり、部活動の協力、援助を行う。		■実施状況 ・野球(21名)、サッカー(25名)、ミニバスケットボール(11名)、空手(4名)の4種目の活動を行っている。 ・奉仕活動として、海岸クリーン作戦にも参加している。					
■到達目標 ・スポーツ少年団加入率のアップ				■成果等 ・各部門ごとに週2～3回の活動を行い、健全な青少年育成に寄与している。スポーツ少年団への加入率が上がってきており、各部の活動が充実してきている。					
				■課題 ・3年生以下の参加が増えており、送迎、怪我など低学年への配慮が必要である。					
3) 実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5) 施策評価					
年度	実績	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成19年度	実績	補助金	419	一般財源	平成19年度 施策評価 (庁内評価)	青少年育成の役割として、重要度が高い B	C	指導者と加入者が 増えた B	奉仕活動が評価され、地球ピカピカ大賞を受賞 B
平成20年度	予算	補助金	459	一般財源					
平成21年度	計画	補助金	459	一般財源	平成19年度 施策評価 (外部評価)				
平成22年度	計画	補助金	459	一般財源					

第1章 人を愛する豊かな心をそだてよう		実施主体	(○)村直営 ()団体 ()その他		
4.社会体育の振興 1)スポーツ・レクリエーション活動	施 策	(P36) ④指導者の確保・育成	実施期間	継続	団体等 村、教育委員会、体力づくり推進委員会、体育指導委員、スポーツ少年団本部

平成20年度実施計画				平成19年度実施状況				
1)目的と到達目標		2)事業内容(具体的な施策)		4)平成19年度の施策の実施状況と成果・課題				
■目的 各種団体、サークル活動をリードする指導者の確保、育成。		◇研修会の開催 ◇郡、西部地区、県主催の各種研修会への参加		■実施状況 ・西部地区スポーツ少年団指導者研修会(2月17日・4名参加) ・西伯郡体育指導委員研修会(3月30日・2名参加)				
■到達目標 ・スポーツ少年団育成指導員の資格取得者を増やす。				■成果等 ・研修会への参加は十分ではなかった。スポーツ少年団の指導者(野球)が1名増えた。				
3)実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5)施策評価				
年度	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成19年度	実績 費用弁償	7	一般財源	平成19年度 施策評価 (庁内評価)	各指導者間の共通認識の確保は、重要度が高い B	C	スポーツ少年団の指導者が1名増えた B	C
平成20年度		26	一般財源					
平成21年度		計画 費用弁償	26	一般財源	平成19年度 施策評価 (外部評価)			
平成22年度		計画 費用弁償	26	一般財源				

第1章 人を愛する豊かな心をそだてよう		実施主体 (○)村直営 ()団体 ()その他		
4.社会体育の振興 2)スポーツ施設の整備	施策 (P36) ①施設の適正管理と有効利用		実施期間	継続 団体等

平成 20 年度実施計画				平成 19 年度実施状況					
1) 目的と到達目標		2) 事業内容(具体的な施策)			4) 平成19年度の施策の実施状況と成果・課題				
■目的 既存施設の適正管理と有効利用の促進。施設利用者が運営、管理に関わられるような体制作り。		◇スポーツ振興審議会の開催。 ◇体育施設利用団体連絡会の開催。			■実施状況 ・スポーツ振興審議会(3月開催)				
■到達目標 ・小学校体育館の適正管理と有効活用 ・小学校体育館解体中のトレーニングセンターの有効活用。					■成果等 ・担当課間での連携を図り、施設の有効利用がなされている。				
3) 実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5) 施策評価					
年度	実績	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成 19 年度	実績	報酬	16	一般財源	平成 19 年度 施策評価 (庁内評価)	他の組織に捉われない適正利用と有効利用の検討の場は、重要度が高い B	C	C	C
平成 20 年度	予算	報酬	24	一般財源					
平成 21 年度	計画	報酬	24	一般財源	平成 19 年度 施策評価 (外部評価)				
平成 22 年度	計画	報酬	24	一般財源					

第1章 人を愛する豊かな心をそだてよう		実施主体 (○)村直営 ()団体 ()その他		
4.社会体育の振興 2)スポーツ施設の整備	施 策 (P36) ②スポーツ施設の充実		実施期間	継続 団体等 村、教育委員会、地域振興課、建設産業課

平成 20 年度実施計画				平成 19 年度実施状況				
1) 目的と到達目標		2) 事業内容(具体的な施策)		4) 平成19年度の施策の実施状況と成果・課題				
■目的 村民の健康づくり、体力づくりのため、利用者のニーズにあった施設整備、管理運営を行う。		◇小学校体育館建設検討委員会の開催 ・各種体育団体、施設利用者等からの意見・要望を取り入れた中での施設整備を進めていく		■実施状況 ・スポーツ振興審議会の開催 ・小学校体育館建設検討委員会				
■到達目標 ・小学校体育館の建設				■成果等 ・小学校体育館建設検討委員会で十分な議論をし、建設計画を進めた。				
				■課題 ・小学校体育館の利用料の設定と夜間休日の社会体育団体の利用のあり方				
3) 実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5) 施策評価				
年度	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成 19 年度	実績	—		平成 19 年度 施策評価 (庁内評価)	老朽化した小学校施設の建設の重要度は極めて高い A	C	住民の意見を取り入れた施設の検討 A	C
平成 20 年度	予算	—						
平成 21 年度	計画	—		平成 19 年度 施策評価 (外部評価)				
平成 22 年度	計画	—						

第1章 人を愛する豊かな心をそだてよう			実施主体		(○)村直営 ()団体 ()その他		
5.人権尊重・同和問題への取り組み	施策	(P37) ①審議会の設置と総合計画の策定	実施期間		H18～継続	団体等	

平成20年度実施計画				平成19年度実施状況					
1)目的と到達目標		2)事業内容(具体的な施策)		4)平成19年度の施策の実施状況と成果・課題					
■目的 審議会を設置し、同和問題を中心とした人権行政の基本方向を定める「日吉津村あらゆる差別をなくする総合計画」を策定する。		◇「日吉津村あらゆる差別をなくする総合計画(仮称)」の策定 ・規則の制定 ・審議会の設置 ・計画の審議 ・計画策定 ・施策の実行		■実施状況 ・庁内に策定委員会を設置し検討中。 ・各課より計画素案の提出を求めている。					
■到達目標 ・施策の推進に努めるとともに、意識調査の結果を踏まえ、村民の啓発に努める。				■成果等 ・策定委員会、プロジェクトチーム、審議会の設置。					
				■課題 ・検討に着手したが、進捗状況は遅く、一層の推進体制が求められる。					
3)実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5)施策評価					
年度	実績	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成19年度	実績	報酬	24	一般財源	平成19年度 施策評価 (庁内評価)	人権意識をもった行政事務の執行について、重要度が高い B	C	D	C
平成20年度	予算	報酬	64	一般財源					
平成21年度	計画		—		平成19年度 施策評価 (外部評価)				
平成22年度	計画		—						

第1章 人を愛する豊かな心をそだてよう			実施主体	(○)村直営 ()団体 ()その他		
5.人権尊重・同和問題への取り組み	施策	(P37) ②人権・同和教育研修の充実	実施期間	継続	団体等	

平成 20 年度実施計画				平成 19 年度実施状況					
1) 目的と到達目標		2) 事業内容(具体的な施策)		4) 平成19年度の施策の実施状況と成果・課題					
<p>■目的</p> <p>差別と偏見のない人権が尊重される社会の実現を目指し、保育・学校教育との連携、企業・事業所での研修、行政関係職員の研修の充実にを図る。</p> <p>■到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修会や講座の開催など各機関、団体において積極的な啓発活動を展開する。 ・小地域懇談会へ進出者として行政職員の参加。 		<p>本村では同和問題の早期解消を目指し、住民啓発に努めてきたが、今後とも村同和教育推進協議会と連携を図りながら啓発活動に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇村人権・同和教育研究集会の開催 パネルディスカッション 意見発表 記念講演 ◇指導者養成講座の開催 ◇行政関係職員研修の実施 ◇小学校PTA同和教育部の活動支援 		<p>■実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・村人権、同和教育研究大会 12/2…講演、意見発表、人権コンサート ・行政関係職員同和問題研修…計4回の講座(体験的学習・講演等) ・指導者養成講座…計5回の講座(参加型学習・講義等) <p>■成果等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導者養成講座や行政関係職員研修では話を聞くだけの研修ではなく、ロールプレーや体験的参加型学習など学習形態を工夫して積極的な研修が実施できた。 ・研究大会の講師は近隣町との連携でコストを削減できた。 <p>■課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リーダーの育成並びに村民全体の意識の高揚と啓発活動の推進が必要である。 ・行政職員は小地域懇談会に進出者として参加するなど学習の成果を実践に移すことが大切。 					
3) 実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5) 施策評価					
年度		支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成19年度	実績	報償費等	316	一般財源	平成19年度 施策評価 (庁内評価)	人権尊重の社会の実現は、重要度が極めて高い	連携・工夫により人的・コスト的効率性	各種研修の効果的・積極的な開催	リーダーとなる人材育成
平成20年度	予算	報償費等	218	一般財源		A	A	B	B
平成21年度	計画	報償費等	218	一般財源	平成19年度 施策評価 (外部評価)				
平成22年度	計画	報償費等	218	一般財源					

第1章 人を愛する豊かな心をそだてよう			実施主体	(○)村直営 ()団体 ()その他		
5.人権尊重・同和問題への取り組み	施 策	(P37) ②人権・同和教育研修の充実(人権擁護委員)	実施期間	継続	団体等	村、法務局、人権擁護委員

平成20年度実施計画				平成19年度実施状況					
1)目的と到達目標		2)事業内容(具体的な施策)		4)平成19年度の施策の実施状況と成果・課題					
<p>■目的</p> <p>自由・人権・思想の啓発活動として、村民と密接に接触し、人権尊重の理念の普及や民間における人権擁護運動の助長をするなど地域に根ざした様々な人権擁護活動を担う</p> <p>■到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権擁護の啓発 ・人権相談の実施 ・委員研修参加 		<p>◇人権擁護の啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権擁護委員の日、人権週間の街頭啓発 小学校での「人権の花」を育成します。 <p>◇人権相談の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・懸垂幕や広報、HPなどにより周知 <p>◇人権擁護委員協議会研修会参加</p>		<p>■実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権擁護啓発(ジャスコ日吉津店 12/5、委員3名、職員1名) ・人権相談(月1回、福祉センター) ・委員研修(人権擁護委員協議会研修 10/19) <p>■成果等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・啓発、研修による成果は、目に見えないが、啓発にはなっていると思われる。 ・人権相談については、相談者は例年わずかで成果が上がっているとは言いがたい。 <p>■課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後、子どもの人権にスポットを当て、教育現場と連携し、人権メール等の実施にも取り組みたい。 					
3)実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5)施策評価					
年度	実績	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成19年度	実績	旅費等	4	一般財源	平成19年度 施策評価 (庁内評価)	啓発活動による人権尊重の理念の普及等は重要度が高い B	C	C	C
平成20年度	予算	旅費・消耗品等	198	一般財源・県支出金					
平成21年度	計画	旅費等	38	一般財源	平成19年度 施策評価 (外部評価)				
平成22年度	計画	旅費等	38	一般財源					

第1章 人を愛する豊かな心をそだてよう			実施主体	(○)村直営 ()団体 ()その他		
5.人権尊重・同和問題への取り組み	施策	(P37) ②人権・同和教育研修の充実(行政職員)	実施期間	H16～継続	団体等	

平成 20 年度実施計画				平成 19 年度実施状況					
1) 目的と到達目標		2) 事業内容(具体的な施策)		4) 平成19年度の施策の実施状況と成果・課題					
■目的 行政職員として、同和問題をはじめとする様々な人権問題に対する正しい理解と認識を深める。		◇職員研修(講座・講演会)の開催 ・現地研修 ・参加型学習 ・講演会		■実施状況 ・住民課・教育委員会と連携し、企画運営を行った。全職員が参加できるよう、同じ内容の研修を日にち・時間帯を変え、数回にわけて講演会や体験的参加型学習を行なった。(計10回実施)					
■到達目標 ・問題解決に向けて、自らの社会的立場と責務の自覚。 ・自主的に取組む意欲の向上。				■成果等 ・グループワーク、ロールプレイング等を行ない、多数の職員が参加し、人権、同和問題等に発言する機会を作り、一層の理解を深めることが出来た。					
				■課題 ・全職員対象であり、研修のやり方を工夫し成果は出ているが、主に勤務時間内の実施のため全職員の参加が難しい。また、勤務時間外に行った研修での参加率は低い。 ・研修のやり方の工夫がさらに必要である。					
3) 実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5) 施策評価					
年度	実績	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成 19 年度	実績	報償費	30	一般財源	平成 19 年度 施策評価 (庁内評価)	行政職員が人権問題の正しい理解等を深めることは重要度が高い B	研修の工夫により効率性が図られた B	C	C
平成 20 年度	予算	報償費等	30	一般財源					
平成 21 年度	計画	報償費等	30	一般財源	平成 19 年度 施策評価 (外部評価)				
平成 22 年度	計画	報償費等	30	一般財源					

第1章 人を愛する豊かな心をそだてよう			実施主体	(○)村直営 ()団体 ()その他		
5.人権尊重・同和問題への取り組み	施策	(P37) ②人権・同和教育研修の充実(行政職員の派遣研修)	実施期間	継続	団体等	村

平成20年度実施計画				平成19年度実施状況					
1)目的と到達目標		2)事業内容(具体的な施策)		4)平成19年度の施策の実施状況と成果・課題					
<p>■目的</p> <p>部落差別をはじめ、あらゆる差別をなくすことは行政の責務であり、差別のない人権文化に満ち溢れた村づくりを目指す。</p> <p>■到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権感覚を高め、施策に人権尊重の意識が反映されるよう取組む。 ・行政関係職員を地域のリーダーとして位置づけ、小地域懇談会等への進出者として養成。 		<p>◇県内外で開催される各種講座や研修会への派遣</p>		<p>■実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鳥取県人権・同和教育研究集会(25名参加) ・人権啓発研究集会(1名参加) ・全国人権・同和教育研究大会(2名参加) <p>■成果等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日までの積み上げられた研修実績により、職員の理解や人権感覚は高揚してきたところです。 <p>■課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小地域懇談会への進出者となることを目標としていることや、人権に満ちあふれた村のリーダーとして養成するには、なお、研修継続が必要だろうと考えています。村独自で行っている「行政関係職員人権同和問題研修会」も含め、一層の継続と深化が求められます。 					
3)実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5)施策評価					
年度		支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成19年度	実績	旅費・消耗品等	218	一般財源	平成19年度 施策評価 (庁内評価)	C	C	C	C
平成20年度	予算	旅費・消耗品等	198	一般財源					
平成21年度	計画	旅費・消耗品等	208	一般財源	平成19年度 施策評価 (外部評価)				
平成22年度	計画	旅費・消耗品等	208	一般財源					

第1章 人を愛する豊かな心をそだてよう			実施主体	()村直営 (○)団体 (○)その他		
5.人権尊重・同和問題への取り組み	施 策	(P37) ③村同和教育推進協議会の活動推進	実施期間	継続	団体等	村同和教育推進協議会

平成 20 年度実施計画				平成 19 年度実施状況					
1) 目的と到達目標		2) 事業内容(具体的な施策)		4) 平成19年度の施策の実施状況と成果・課題					
<p>■目的</p> <p>全村民が同和問題について正しい認識と理解を深め、不合理な差別意識をなくすることを目的とし、その中核を担う「村同和教育推進協議会」の活動推進に努める。</p> <p>■到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導者の養成 ・全自治会で小地域懇談会を開催し、その目的、必要性を浸透させる。 		<p>社会教育、学校教育一体の同和教育を進める。指導者養成講座等への参加を促し、小地域懇談会などにおける指導者の養成を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇委員研修会の開催 ◇視察研修会の開催 ◇各種研修会に派遣参加 ◇小地域懇談会等各種啓発事業を実施 		<p>■実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小地域懇談会を5自治会で開催。 ・その他委員研修会、視察研修会、各種研修会に派遣参加を実施した。 ・村人権・同和教育研究集会を共催。 <p>■成果等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小地域懇談会の開催など各種の積極的な取り組みには一定の成果が見られる。また全国大会等の参加報告を村の研究集会や広報紙を通じて行うなど工夫がみられた。 <p>■課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小地域懇談会が全自治会で開催できなかった。積極的な呼びかけと年間開催計画の策定が必要であろう。進出者側も自治会側も役員のみが役目で仕方なしではなく、全体で関わっていくようなシステムづくりと、意識啓発が必要である。 					
3) 実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5) 施策評価					
年度		支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成 19 年度	実績	補助金	276	一般財源	平成 19 年度 施策評価 (庁内評価)	あらゆる差別の解消は国民的課題であり、極めて重要度は高い A	低コストで充実した取り組み B	研修会や視察への積極的な参加 B	人材育成、村民の意識の高揚 B
平成 20 年度	予算	補助金	276	一般財源					
平成 21 年度	計画	補助金	276	一般財源	平成 19 年度 施策評価 (外部評価)				
平成 22 年度	計画	補助金	276	一般財源					

第1章 人を愛する豊かな心をそだてよう			実施主体		(○)村直営 ()団体 ()その他	
6.男女共同参画社会の実現	施 策	(P38) ①男女共同参画社会の実現と行動計画の策定	実施期間		H18～継続	団体等

平成20年度実施計画				平成19年度実施状況						
1)目的と到達目標		2)事業内容(具体的な施策)		4)平成19年度の施策の実施状況と成果・課題						
<p>■目的</p> <p>男女共同参画社会の実現を、行政のみならず村民の方針として条例化し、その具現化のために、具体的施策を定めた行動計画を策定するものである。</p> <p>■到達目標</p> <p>・男女共同参画社会の実現。</p>		<p>◇「男女共同参画計画」の策定。</p> <p>◇「男女共同参画計画」に伴う行動計画の作成</p> <p>◇施策の実施</p>		<p>■実施状況</p> <p>・平成19年8月に、「男女共同参画策定委員会」を設置し、11回の委員会を通して男女共同参画計画を策定中。</p> <p>・平成20年2月に、男女共同参画計画(案)に対するパブリックコメント・スローガン募集。</p> <p>・平成20年3月に、男女共同参画推進条例制定。</p> <p>■成果等</p> <p>・男女共同参画推進条例を制定し、現在男女共同参画計画を策定中であり、成果があったといえる。男女共同参画社会の実現は、計画策定後に具体的に推進していく予定であり、成果が上がっているとはいいがたい。</p> <p>■課題</p> <p>・男女共同参画社会の実現に向けて、男女共同参画計画を策定し、具体的取り組みを明確にする。</p>						
3)実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5)施策評価						
年度	実績	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果	
平成19年度	実績	報酬	40	一般財源	平成19年度 施策評価 (庁内評価)	本村のむらづくりの観点からも極めて重要度が高い	(H19初の施策の為、比較できない)	A	B	C
平成20年度	予算	報酬・印刷製本費等	256	一般財源						
平成21年度	計画	報酬・印刷製本費等	260	一般財源	平成19年度 施策評価 (外部評価)					
平成22年度	計画	報酬・印刷製本費等	260	一般財源						

第1章 人を愛する豊かな心をそだてよう			実施主体	(○)村直営 ()団体 ()その他		
6.男女共同参画社会の実現	施 策	(P38) ②活動の支援と人材育成	実施期間	H12～継続	団体等	

平成 20 年度実施計画				平成 19 年度実施状況					
1) 目的と到達目標		2) 事業内容(具体的な施策)		4) 平成19年度の施策の実施状況と成果・課題					
■目的 女性団体をはじめとする各団体に情報提供し、団体相互の情報交換等を行い、その活動を支援するとともに、研修会への派遣等を行い、人材育成に努めるものである。		◇村民・女性団体をはじめとする各団体への情報提供 ◇研修会参加による人材育成		■実施状況 ・男女共同参画計画策定委員会で、計画を策定中であり、具体的な施策について検討している。					
■到達目標 ・審議会や委員会などへ、参画できる人材の発掘・育成。				■成果等 ・審議会は平成20年度設立の見込だが、策定委員会で本村の男女共同参画計画を考えることを通して、人材育成の機会が得られた。					
				■課題 ・各種団体・参加団体の把握を行う。 ・県主催の養成講座に積極的に参加を勧め、審議会や委員会などへ、参画できる人材の発掘・育成を実施する。					
3) 実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5) 施策評価					
年度	実績	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成19年度	実績		—		平成19年度 施策評価 (庁内評価)	女性団体相互の情報交換及び人材育成等重要度は高い	(H19 初の施策の為、比較できない)		
平成20年度	予算		—			B	—	C	C
平成21年度	計画		—		平成19年度 施策評価 (外部評価)				
平成22年度	計画		—						

第1章 人を愛する豊かな心をそだてよう			実施主体	(○)村直営 ()団体 ()その他		
6.男女共同参画社会の実現	施 策	(P38) ③参画の推進	実施期間	H12～継続	団体等	

平成20年度実施計画				平成19年度実施状況				
1)目的と到達目標		2)事業内容(具体的な施策)		4)平成19年度の施策の実施状況と成果・課題				
■目的 女性の意見を政策形成に反映させるために、委員会、審議会等への女性の参画を積極的に推進する。		◇委員会、審議会等への女性の参画の推進 ◇主な地域団体における方針決定過程への女性の参画推進		■実施状況 ・男女共同参画計画策定委員会で、計画を策定中であり、具体的な施策について検討している。				
■到達目標 ・女性の委員会、審議会等への参画の推進。				■成果等 ・女性参画推進状況 H19.4.1 本村の審議会等 23.9% 主な地域団体 24.6% ・具体的な施策について、検討中であり、まだ成果は大きくない。				
				■課題 ・女性の登用・参画状況を年度末ごとに調査し、周知する。 ・女性の登用を進める環境づくりをする。				
3)実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5)施策評価				
年度	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成19年度	実績	—		平成19年度 施策評価 (庁内評価)	委員会等への女性の参画推進は重要度は高い B	(H19 初の施策の為、比較できない) —	C	C
平成20年度	予算	—						
平成21年度	計画	—		平成19年度 施策評価 (外部評価)				
平成22年度	計画	—						

第1章 人を愛する豊かな心をそだてよう		実施主体	(○)村直営 ()団体 ()その他		
6.男女共同参画社会の実現	施策	(P38) ④支援施策の充実(企業・事業所への推進)	実施期間	H18～継続	団体等

平成20年度実施計画				平成19年度実施状況				
1)目的と到達目標		2)事業内容(具体的な施策)		4)平成19年度の施策の実施状況と成果・課題				
■目的 女性の社会進出を応援するために、子育て支援施策の充実に努めます。		◇村内企業へ男女共同参画の啓発及び体制整備の推進 ◇「鳥取県男女共同参画推進企業」認定制度の広報及び推奨		■実施状況 ・男女共同参画計画策定委員会で、計画を策定中であり、具体的な施策について検討している。				
■到達目標 ・仕事と子育ての両立支援。 ・雇用の場における男女共同参画の推進。				■成果等 ・具体的な施策について、検討中であり、まだ成果は大きくない。				
				■課題 ・県と連携を取りながら、「鳥取県男女共同参画推進企業」認定制度を促進する。 ・育児・介護休業法の周知。				
3)実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5)施策評価				
年度	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成19年度	実績	—		平成19年度 施策評価 (庁内評価)	女性の社旗進出のため重要度は高い B	(H19初の施策の為、比較できない) —	C	C
平成20年度	予算	—						
平成21年度	計画	—		平成19年度 施策評価 (外部評価)				
平成22年度	計画	—						

第1章 人を愛する豊かな心をそだてよう		実施主体	(○)村直営 ()団体 ()その他		
6.男女共同参画社会の実現	施策	(P38) ④支援施策の充実(DV、セクシャルハラスメント対策)	実施期間	H12～継続	団体等 村

平成 20 年度実施計画				平成 19 年度実施状況					
1) 目的と到達目標		2) 事業内容(具体的な施策)		4) 平成19年度の施策の実施状況と成果・課題					
<p>■目的</p> <p>男女互いの人権を尊重し、女性が暴力やセクシャルハラスメントを受けることなく、個人としての能力を十分発揮できる社会を目指す。</p>		<p>◇啓発活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・村報、HP、防災無線による啓発 <p>◇相談窓口の設置・運営</p> <p>◇職員研修</p>		<p>■実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・啓発活動…村報・HPによる啓発を実施。 ・相談体制の充実…家庭児童相談窓口(担当2名)を設置、村報・HPでPR。また、乳幼児健診などの気軽に話せる場での関わりを重視し、気になるケースについては相談につなげていくように努めた。 ・職員の研修会(「女性に対する暴力防止」圏域別関係連絡会等への参加) 					
<p>■到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・啓発活動 ・DV等の相談支援 				<p>■成果等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭児童相談窓口を開設したことにより、様々な家庭問題の相談が受けやすくなり、DVで悩んでいる人との接点が出来やすくなった。 ・課内の中の連携がうまく取れているので、気になるケースを相談援助に繋げることが出来た。DVに関わる相談は3件。 					
3) 実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5) 施策評価					
年度	実績	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成19年度	実績	需用費	5	一般財源	平成19年度 施策評価 (庁内評価)	女性が個人としての能力を発揮できる社会は、重要度は極めて高い A	C	B	D
平成20年度	予算	需用費	5	一般財源					
平成21年度	計画	需用費	5	一般財源	平成19年度 施策評価 (外部評価)				
平成22年度	計画	需用費	5	一般財源					

第1章 人を愛する豊かな心をそだてよう		実施主体	(○)村直営 ()団体 ()その他		
6.男女共同参画社会の実現	施策	実施期間	継続	団体等	村
	(P38) ④支援施策の充実(子育て支援)				

平成20年度実施計画				平成19年度実施状況				
1)目的と到達目標		2)事業内容(具体的な施策)		4)平成19年度の施策の実施状況と成果・課題				
■目的 女性の社会進出を促進するために、子育て支援策の充実を図る。		【基本的事業】 ◇子育て親子の交流の場の提供と交流の促進 ◇子育て等に関する相談・援助の実施 ◇地域の子育て関連情報の提供 ◇子育て及び子育て支援に関する講習等の実施 【地域支援事業】 ◇子育てサークルの活動支援やとくに支援を必要とする家庭への訪問		■実施状況 【開設日】 毎週月～金(祝日及び年末・年始を除く) 【開設時間】 9:00～16:00 【職員体制】 指導員(保育士)2名 ■成果等 ・新しい施設での運営も軌道に乗り、利用者が増加するとともに、子育て親子の交流が促進された。				
■到達目標 ・男女共同参画計画 ・次世代育成支援行動計画の具体化				■課題 ・ファミリーサポートセンター併設の検討が必要である。				
3)実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5)施策評価				
年度	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成19年度	実績 賃金、共済費他	4,993	国県補助金 3,640 一般財源 1,353	平成19年度 施策評価 (庁内評価)	女性の社会参加を促進する上で、重要度は極めて高い A	C	C	C
平成20年度	予算 賃金、共済費他	5,505	国県補助金 3,722 一般財源 1,773					
平成21年度	計画 賃金、共済費他	5,505	国県補助金 3,722 一般財源 1,773	平成19年度 施策評価 (外部評価)				
平成22年度	計画 賃金、共済費他	5,505	国県補助金 3,722 一般財源 1,773					

第1章 人を愛する豊かな心をそだてよう			実施主体	(○)村直営 ()団体 ()その他		
7.ボランティアの育成・支援	施 策	(P39) ①ボランティア活動の推進	実施期間	H12～継続	団体等	村

平成20年度実施計画				平成19年度実施状況					
1)目的と到達目標		2)事業内容(具体的な施策)		4)平成19年度の施策の実施状況と成果・課題					
■目的 ボランティアセンター(社会福祉協議会で組織)の運営を支援し、ボランティア情報の提供に努める。		◇ボランティアセンターへの支援 ・ボランティアセンター運営委員会等への参加 ・ボランティアフェスティバル、各種イベント等への参加 ◇情報提供 ・ボランティアセンターとの連携を図りながら助成金情報等の提供に努める		■実施状況 ・ボランティアセンター運営委員会やボランティアフェスティバル実行委員会への出席。 ・ボランティアフェスティバルへの参加。					
■到達目標 ・ボランティアセンターとの連携を図り、活動の支援をする。 ・村民へのNPO、ボランティア活動についての情報提供を行う。				■成果等 ・ボランティアセンター運営委員会やボランティアフェスティバルへの参加により、ボランティアセンターとの連携が図れた。					
				■課題 ・ボランティア団体の増につながらなかった。 ・情報提供が不十分であった。今後どのようにしていくか。					
3)実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5)施策評価					
年度	実績	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成19年度	実績		—		平成19年度 施策評価 (庁内評価)			目的が一部達成できなかった	人材育成に課題が残った
平成20年度	予算		—			C	C	D	D
平成21年度	計画		—		平成19年度 施策評価 (外部評価)				
平成22年度	計画		—						

第1章 人を愛する豊かな心をそだてよう			実施主体	(○)村直営 ()団体 ()その他		
7.ボランティアの育成・支援	施 策	(P39) ②相談体制の確立と支援	実施期間	継続	団体等	村

平成20年度実施計画				平成19年度実施状況				
1)目的と到達目標		2)事業内容(具体的な施策)		4)平成19年度の施策の実施状況と成果・課題				
<p>■目的</p> <p>ボランティア活動への支援や情報提供に努める。</p> <p>また、NPO法人の立ち上げやその活動に対し、相談および支援体制の確立を図る。</p>		<p>◇ボランティア活動への支援および情報提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動への支援および情報提供を行う ・各種団体・グループの活性化のための情報提供、研修の機会を設ける <p>◇NPO法人の立ち上げ等に係わる支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NPO法人の立ち上げやその活動に対し、相談・支援を行う 		<p>■実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県主催の「協働推進に関する行政職員研修会」への出席。 				
<p>■到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動への支援等を行うとともに、NPO法人の立ち上げ等に対し、相談体制等の確立を行う。 ・各種団体・グループ情報交換会議の開催など、活動支援を行う。 		<p>■成果等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修会への参加により、本村における協働について理解を深めた。 						
				<p>■課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報提供が不十分であった。今後どのようにしていくか。具体的な方針を決めたい。 ・平成18年度に発足した「各種団体・グループによる情報交換会議」および「各種団体・グループ研修会」を開催することができなかった。 				
3)実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5)施策評価				
年度	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成19年度	実績	—		平成19年度 施策評価 (庁内評価)	協働のむらづくりへつながる一歩であり、重要度は高い B	C	D	C
平成20年度	予算	—						
平成21年度	計画	—		平成19年度 施策評価 (外部評価)				
平成22年度	計画	—						

<第2章 健康で笑顔のある明るい家庭をつくろう>

1. 健康づくり

1) 健康の増進

(1) 健康づくりの推進

施 策	担当課	P	備 考
①医療・保健・福祉・介護の一体的取り組み	福祉保健課	1	
②健康づくり事業の実施	福祉保健課	2	

(2) 健康づくり体制の充実

施 策	担当課	P	備 考
①健康づくり連絡会の結成	福祉保健課	3	
②関係機関の連携強化	福祉保健課	4	

(3) 食生活の改善

施 策	担当課	P	備 考
①「食育」の推進	福祉保健課	5	
②食生活改善推進委員会のあり方	福祉保健課	6	

(4) 保健師活動の充実整備

施 策	担当課	P	備 考
保健師活動の充実整備	福祉保健課	7	

2) 保健・衛生

(1) 母子保健

施 策	担当課	P	備 考
①子どもや母親の健康の確保	福祉保健課	8	
②「食育」の推進	福祉保健課	9	
③思春期保健対策の充実	福祉保健課	10	
④小児医療の充実	福祉保健課	11	

(2) 老人保健

施 策	担当課	P	備 考
①受診機会の充実と受診率の向上	福祉保健課	12	
②年代に応じた保健予防事業の推進	福祉保健課	13	
③関係団体との連携	福祉保健課	14	

(3) 感染症予防・結核予防対策

施 策	担当課	P	備 考
①防疫体制の整備	福祉保健課	15	
②啓発活動の推進と接種率の向上	福祉保健課	16	

(4) 口腔衛生対策

施 策	担当課	P	備 考
口腔衛生対策	福祉保健課	17	

(5) 地域医療体制の整備

施 策	担当課	P	備 考
地域医療体制の整備	福祉保健課	18	

2. 福祉の充実

1) 高齢者福祉

施 策	担当課	P	備 考
①地域包括支援センターの創設(支援センター)	福祉保健課	19	
〃 (予防事業)	福祉保健課	20	

2) 障害者(児)福祉

施 策	担当課	P	備 考
①障害者自立支援法に基づく支援	福祉保健課	21	
②「障害福祉計画」等の策定	福祉保健課	22	
③障害の早期発見・予防	福祉保健課	23	

3) ひとり親家庭に対する福祉

施 策	担当課	P	備 考
①相談支援体制の充実	福祉保健課	24	
②制度の活用	福祉保健課	25	

4) 低所得者福祉

施 策	担当課	P	備 考
①相談・指導体制の充実	福祉保健課	26	
②援護施策の充実	福祉保健課	27	

3. 社会保険の充実

1) 国民健康保険

施 策	担当課	P	備 考
①早期発見・早期治療の推進	福祉保健課	28	
②医療費の適正化	福祉保健課	29	
③予防事業の推進	福祉保健課	30	
④運用状況の周知と収納率向上	住民課	31	

2) 介護保険

施 策	担当課	P	備 考
①情報提供と制度の円滑実施	福祉保健課	32	

3) 国民年金

施 策	担当課	P	備 考
①啓発活動の推進	住民課	33	

4. 次世代育成(子育て)支援対策

施 策	担当課	P	備 考
①子育て支援センターの設置	福祉保健課	34	
②保育所機能の強化	住民課	35	
③児童館の運営強化	福祉保健課	36	
④母子の健康の確保及び増進	福祉保健課	37	
⑤子どもを健やかに育む	福祉保健課	38	
⑥子育てにやさしいむらづくり	福祉保健課	39	
⑦要保護児童等への対応	福祉保健課	40	

5. 村営住宅・村営霊園

1) 村営住宅

施 策	担当課	P	備 考
①適正管理	建設産業課	41	

2) 村営霊園

施 策	担当課	P	備 考
①適正管理	住民課	42	

第2章 健康で笑顔のある明るい家庭をつくろう			実施主体		(○)村直営 ()団体 ()その他		
1.健康づくり 1)健康の推進	施 策	(P40) (1)健康づくりの推進 ①医療・保健・福祉・介護の一体的取り組み	実施期間		H19～継続	団体等	

平成20年度実施計画				平成19年度実施状況				
1)目的と到達目標		2)事業内容(具体的な施策)		4)平成19年度の施策の実施状況と成果・課題				
■目的 医療制度改革が進行する中で、医療・保健・福祉・介護が一体となった取り組みを進めることにより、村民の健康・福祉の向上を図る。		◇各分野間の連携強化		■実施状況 ・特定健診等実施計画の策定 ・特定健康診査等の実施体制の検討・整備				
■到達目標 ・特定健康診査・特定保健指導などの円滑な実施				■成果等 ・四部門が同一課内に配置されたことにより、情報や課題を共有化することができ、徐々にではあるが、一体的な取り組みが進みつつある。				
				■課題 ・医療制度改革に伴い、各種制度が大きく変わるため、周知・徹底をはかる必要がある。				
3)実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5)施策評価				
年度	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成19年度	実績	—		平成19年度 施策評価 (庁内評価)	村民の生涯にわたる健康・福祉の増進を図る上で重要度は極めて高い A	C	C	C
平成20年度	予算	—						
平成21年度	計画	—		平成19年度 施策評価 (外部評価)				
平成22年度	計画	—						

第2章 健康で笑顔のある明るい家庭をつくろう			実施主体		
1.健康づくり	施	(P41)	()村直営 (O)団体 (O)その他		
1)健康の推進	策	(1)健康づくりの推進 ②健康づくり事業の実施	実施期間		
			H18～継続	団体等	健康づくり推進協議会

平成 20 年度実施計画				平成 19 年度実施状況					
1)目的と到達目標		2)事業内容(具体的な施策)		4)平成19年度の施策の実施状況と成果・課題					
■目的 健康づくり推進協議会を中心に、健康づくり意識の普及・啓発や講演会等の事業を実施するとともに、生活習慣病の予防を重点に取り組む。		◇健康カレンダー配布 ◇生活習慣病予防等の講演会及び啓発活動 ◇ふれあいフェスタでの健康づくり広場の開催 ◇パワーリハビリ教室の開催		■実施状況 ・健康カレンダー配布 ・ふれあいフェスタで健康づくり広場の開催と、イベントとして講演と実技指導を開催。 ・パワーリハビリ教室の開催(火曜日の午後、土曜日の午前・午後の週3回)					
■到達目標 ・健康への関心を高める。 ・医療制度改革に合わせ予防に重点をおき、糖尿病・メタボリックシンドローム等、生活習慣病予防の普及啓発。				■成果等 ・講演と実技指導は、ふれあいフェスタの一環として取り組むことができた。 ・パワーリハビリ教室は好評で、体調の成果が見られた方もあり、継続参加希望者が多い。					
3)実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5)施策評価					
年度	実績	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成 19 年度	実績	委託料・賃金等	1,473	一般財源	平成 19 年度 施策評価 (庁内評価)	普及啓発、生活習慣病予防への取り組みは重要度が高い B	C	C	人材育成・環境整備も必要 D
平成 20 年度	予算	委託料・賃金等	1,691	一般財源					
平成 21 年度	計画	委託料・賃金等	1,691	一般財源	平成 19 年度 施策評価 (外部評価)				
平成 22 年度	計画	委託料・賃金等	1,691	一般財源					

第2章 健康で笑顔のある明るい家庭をつくろう		実施主体	()村直営 (○)団体 (○)その他		
1.健康づくり 1)健康の推進	施 策	(P41) (2)健康づくり体制の充実 ①健康づくり連絡会の結成	実施期間	H18～継続	団体等 健康づくり推進協議会

平成20年度実施計画				平成19年度実施状況					
1)目的と到達目標		2)事業内容(具体的な施策)		4)平成19年度の施策の実施状況と成果・課題					
■目的 各地域・団体からなる「健康づくり連絡会」を組織するとともに、統一的に取り組める目標を設定し、健康への意識管理能力の向上を図る。		◇健康づくり連絡会の結成 ◇統一目標に基づき、各地域・団体で可 ◇能な取り組みを実施		■実施状況 ・連絡会結成に至らなかった。					
■到達目標 ・連絡会の結成。 ・統一目標に基づいた事業の実施。				■成果等 ・健康づくり推進協議会で、住民検診結果の情報提供を実施。 ・連絡会結成に至らなかったため、統一した事業実施ができなかった。					
				■課題 ・連絡会構成メンバー(範囲)の検討が必要。					
3)実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5)施策評価					
年度	実績	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成19年度	実績	委託料・賃金等	1,473	一般財源	平成19年度 施策評価 (庁内評価)	健康への意識向上を図るために、連絡会は重要度が高い	連絡会未結成のため、効率が図れなかった	連絡会結成に至らなかった	
平成20年度	予算	委託料・賃金等	1,691	一般財源		B	D	D	C
平成21年度	計画	委託料・賃金等	1,691	一般財源	平成19年度 施策評価 (外部評価)				
平成22年度	計画	委託料・賃金等	1,691	一般財源					

第2章 健康で笑顔のある明るい家庭をつくろう			実施主体		
1.健康づくり 1)健康の推進	施	(P41)	(○)村直営 ()団体 ()その他		
	策	(2)健康づくり体制の充実 ②関係機関の連携強化	実施期間		
			H18～継続	団体等	

平成20年度実施計画				平成19年度実施状況				
1)目的と到達目標		2)事業内容(具体的な施策)		4)平成19年度の施策の実施状況と成果・課題				
■目的 医療・保健・福祉・介護の一体的推進を目指し、行政内部の組織体制の見直しと合わせ、関係機関との連携を図る。		◇健康づくり連絡会の立ち上げ ◇生活圏域における予防重視の連携		■実施状況 ・関係機関との連携は、必要に応じて実施。				
■到達目標 ・健康づくり推進協議会等と連携し取り組み強化を図る。 ・社会福祉協議会や地域ケア会議、他課との連携強化を図る。				■成果等 ・福祉保健課を中心とした連携は実施。				
				■課題 ・生活圏域における予防を重視すると、今後さらに連携強化が必要である。				
3)実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5)施策評価				
年度	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成19年度	実績	—		平成19年度 施策評価 (庁内評価)	行政内部の組織体制の見直しは、重要度が高い B	一部効率性が良かったが、新たな連携は課題である D	C	C
平成20年度	予算	—						
平成21年度	計画	—		平成19年度 施策評価 (外部評価)				
平成22年度	計画	—						

第2章 健康で笑顔のある明るい家庭をつくろう			実施主体		
1.健康づくり 1)健康の推進	施 策	(P41) (3)食生活の改善 ①「食育」の推進	()村直営 (O)団体 (O)その他		
			実施期間		食生活改善推進委員会
			H18～継続	団体等	

平成 20 年度実施計画				平成 19 年度実施状況				
1)目的と到達目標		2)事業内容(具体的な施策)		4)平成19年度の施策の実施状況と成果・課題				
■目的 食事と健康には密接な関係があり、乳幼児期から高齢期までのライフステージごとの課題に対応した指導等を図る。		◇母子保健事業 ・両親学級離乳食講習会 ・乳児・1歳6か月児・2歳児・3歳児・5歳児健診・相談 ・育児学級・カルチャー少年塾の料理体験 ・保育所・小学校等との連携 ◇成人保健事業 ・特定保健指導、健診・人間ドック事後相談 ・病態別教室、一般高齢者・特定高齢者栄養改善事業 ◇食生活改善推進員の育成		■実施状況 ・各種教室・講習会・健診等で、ライフスタイルに合わせた指導の実施。 ・個別・集団での病態別事業の実施。 ・食生活改善推進員の研修会・食生活改善推進員養成講座の実施。				
■到達目標 ・ライフステージにそった食生活指導。 ・年代別の問題点により、関係機関と連携をはかる。				■成果等 ・他の事業と抱き合わせて実施できた事業もあり、効率が図れた。 ・食生活改善推進員養成講座を実施し、新規会員の養成ができた。				
				■課題 ・関わりが少ない年代と、どう接点を作るか検討が必要。 ・各種事業へ参加されない村民への対応検討が必要。				
3)実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5)施策評価				
年度	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成 19 年度	実績	—		平成 19 年度 施策評価 (庁内評価)	ライフステージごとの課題に対応した指導は重要度が高い B	C	C	C
平成 20 年度	予算	—						
平成 21 年度	計画	—		平成 19 年度 施策評価 (外部評価)				
平成 22 年度	計画	—						

第2章 健康で笑顔のある明るい家庭をつくろう			実施主体	()村直営 (○)団体 (○)その他		
1.健康づくり 1)健康の推進	施 策	(P41) (3)食生活の改善 ②食生活改善推進委員会のあり方	実施期間	H18～継続	団体等	食生活改善推進委員会

平成20年度実施計画				平成19年度実施状況					
1)目的と到達目標		2)事業内容(具体的な施策)		4)平成19年度の施策の実施状況と成果・課題					
■目的 食生活改善推進委員会組織の維持 存続に課題が生じているが、会員による検討を踏まえ支援を行う。		◇会員研修会 ・教育研修講座、農産加工講習会、推、進員研修会、リーダー研修会 ◇各種教室等 ・男性の料理教室、自治会伝達講習会、元気なからだ教室、親と子の料理教室 ◇村内イベント協力 ・チューリップマラソン、ふれあいフェスタ		■実施状況 ・各種研修・教室等は、予定通り実施。 ・村内イベント協力も実施。					
■到達目標 ・会員のための研修会開催 ・一般住民向け各種教室等の開催 ・村内イベントへの協力				■成果等 ・新規に増えた事業を既存の事業と抱き合わせて実施できたため、会員の負担を減らすことができた。					
				■課題 ・推進員養成講座を開催したが、やはり受講希望者は少ない。 ・日本食生活協会・県等からの委託事業が増加傾向で事業をこなすのが大変になっている。 ・村だけの問題でなく、県内他市町でも会員減少・会運営上での課題がある。 ・新規会員増に向け、会のイメージアップ必要。					
3)実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5)施策評価					
年度	実績	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成19年度	実績	委託料	89	一般財源	平成19年度 施策評価 (庁内評価)	推進員組織の維持に課題はあるが、重要度は高い B	C	C	C
平成20年度	予算	委託料	274	一般財源					
平成21年度	計画	委託料	274	一般財源	平成19年度 施策評価 (外部評価)				
平成22年度	計画	委託料	274	一般財源					

第2章 健康で笑顔のある明るい家庭をつくろう			実施主体	(○)村直営 ()団体 ()その他		
1.健康づくり 1)健康の推進	施策	(P41) (4)保健師活動の充実整備	実施期間	継続	団体等	村

平成20年度実施計画				平成19年度実施状況				
1)目的と到達目標		2)事業内容(具体的な施策)		4)平成19年度の施策の実施状況と成果・課題				
■目的 保健師が関わる分野、果たすべき役割はますます拡大、複雑化しているため、他の専門職も含めた人的体制の増強とともに、総合的な保健指導体制の充実を図る。		◇総合的な保健指導の実施 ◇研修等による資質の向上		■実施状況 ・保健師の採用試験の実施 ・介護支援専門員資格の取得・更新				
■到達目標 ・特定保健指導の円滑な実施				■成果等 ・専門職の確保 保健師(20年度採用予定) 1名 介護支援専門員(嘱託) 1名 社会福祉士(兼務・非常勤) 1名				
3)実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5)施策評価				
年度	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成19年度	実績	—		平成19年度 施策評価 (庁内評価)	他分野に渡る総合的な指導体制づくりを進める上で重要度が高い B	C	C	C
平成20年度	予算	—						
平成21年度	計画	—		平成19年度 施策評価 (外部評価)				
平成22年度	計画	—						

第2章 健康で笑顔のある明るい家庭をつくろう			実施主体	(○)村直営 ()団体 ()その他		
1.健康づくり 2)保健・衛生	施 策	(P44) (1)母子保健 ①子どもや母親の健康の確保	実施期間	継続	団体等	村

平成20年度実施計画				平成19年度実施状況					
1)目的と到達目標		2)事業内容(具体的な施策)		4)平成19年度の施策の実施状況と成果・課題					
■目的 妊娠・出産から子どもの成長まで総合的な健康管理等を行うことにより、生涯にわたる健康の基礎を築く。		◇妊婦乳児健康診査 ◇乳幼児健康診査 ◇ブックスタート ◇各種学級 ◇訪問指導 ◇育児等相談		■実施状況 ・妊婦・乳児健康診査(前期・後期各2回)、乳児・1歳6月児健診(4回)、2歳・3歳児健診(4回)、5歳児健診(5回)、ブックスタート(4回)、育児・両親学級(3回)、新生児訪問指導・育児等相談					
■到達目標 ・男性の育児参加の促進				■成果等 ・母子の健康管理に加え、子育て支援センターとも連携し、現場に出向いての相談機会を設けるなど、子育て支援の観点から事業を充実させた。					
■課題 ・男性の育児参加を引き続き促進する必要がある。									
3)実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5)施策評価					
年度	実績	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成19年度	実績	委託料、賃金他	1,758	国庫補助金 56 一般財源 1,702	平成19年度 施策評価 (庁内評価)	生涯にわたる健康の基盤形成を図る上で重要度が高い B	子育て支援センターとの連携により効率が増した B	C	C
平成20年度	予算	委託料、賃金他	2,204	国庫補助金 55 一般財源 2,149					
平成21年度	計画	委託料、賃金他	2,204	国庫補助金 55 一般財源 2,149	平成19年度 施策評価 (外部評価)				
平成22年度	計画	委託料、賃金他	2,204	国庫補助金 55 一般財源 2,149					

第2章 健康で笑顔のある明るい家庭をつくろう			実施主体	(○)村直営 ()団体 ()その他		
1.健康づくり 2)保健・衛生	施 策	(P44) (1)母子保健 ②「食育」の推進	実施期間	継続	団体等	村

平成 20 年度実施計画				平成 19 年度実施状況					
1) 目的と到達目標		2) 事業内容(具体的な施策)		4) 平成19年度の施策の実施状況と成果・課題					
■目的 乳幼児期からの正しい食事の摂り方や望ましい食習慣の定着など「食」を通じた豊かな人間性の形成、心身の健全育成を図る。		◇講習会の開催 ◇栄養指導の実施 ◇啓発活動		■実施状況 ・離乳食講習等の実施 ・検診機会における栄養・食事指導の実施					
■到達目標 ・家庭における「食育」の推進				■成果等 ・乳幼児の発達段階に応じた指導、啓発を通じて、「食」に対する正しい知識の普及とともに、親子の絆を深めることにもつながった。					
				■課題 ・「食育」や「食の安全」に対する関心が高まる一方で、食習慣の乱れが顕著になっており、家庭における「食育」をいかに推進するかが課題となっている。					
3) 実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5) 施策評価					
年度	実績	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成 19 年度	実績	賃金、需用費	72	国庫補助金 13 一般財源 59	平成 19 年度 施策評価 (庁内評価)	豊かな人間性の形成や心身の健全育成を図る上で重要度が高い B	C	C	C
平成 20 年度	予算	賃金、需用費	89	国庫補助金 17 一般財源 72					
平成 21 年度	計画	賃金、需用費	89	国庫補助金 17 一般財源 72	平成 19 年度 施策評価 (外部評価)				
平成 22 年度	計画	賃金、需用費	89	国庫補助金 17 一般財源 72					

第2章 健康で笑顔のある明るい家庭をつくろう			実施主体	(○)村直営 ()団体 ()その他		
1.健康づくり 2)保健・衛生	施 策	(P44) (1)母子保健 ③思春期保健対策の充実	実施期間	継続	団体等	村

平成20年度実施計画				平成19年度実施状況					
1)目的と到達目標		2)事業内容(具体的な施策)		4)平成19年度の施策の実施状況と成果・課題					
■目的 性行動の低年齢化、薬物乱用、引きこもり、不登校など思春期に起こりがちな問題への対策を推進し、健康づくりの基盤形成、健全な母性・父性の育成を図る。		◇学習・啓発活動の推進 ◇相談体制の充実		■実施状況 ・学校保健委員会(小・中学校)における情報・意見交換					
■到達目標 ・相談体制の充実				■成果等 ・子どもたちを取り巻く情勢、学校現場が抱える課題等について、共通認識を深めた。					
				■課題 ・スクールカウンセラーとも連携し、相談体制の充実に努める必要がある。					
3)実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5)施策評価					
年度	実績	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成19年度	実績		—		平成19年度 施策評価 (庁内評価)	健全な母(父)性の育成等を図る上で重要度が高い	体制が不十分なため、成果が上がらない	具体的取組みまでには至っていない	
平成20年度	予算		—			B	D	D	C
平成21年度	計画		—		平成19年度 施策評価 (外部評価)				
平成22年度	計画		—						

第2章 健康で笑顔のある明るい家庭をつくろう			実施主体	(○)村直営 ()団体 ()その他		
1.健康づくり 2)保健・衛生	施 策	(P44) (1)母子保健 ④小児医療の充実	実施期間	継続	団体等	村

平成 20 年度実施計画				平成 19 年度実施状況				
1)目的と到達目標		2)事業内容(具体的な施策)		4)平成19年度の施策の実施状況と成果・課題				
■目的 安全かつ適切な医療が受けられるよう、小児医療の充実を図る。		◇かかりつけ医の定着 ・継続的な健康管理と保護者の安心感の醸成 ◇小児医療のあり方の検討(西部保健医療圏地域保健医療協議会)		■実施状況 ・鳥取県保健医療計画及び各保健医療圏地域保健医療計画の見直しが行われた。				
■到達目標 ・西部保健医療圏地域保健医療計画の推進				■成果等 ・県全体及び保健医療圏域ごとに、現状と課題、今後の対応が整理された。				
				■課題 ・小児医療に従事する医師の負担軽減及び確保が課題となっているが、村単独で対応できる問題ではなく、広域的な取組みを進める必要がある。				
3)実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5)施策評価				
年度	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成 19 年度	実績	—		平成 19 年度 施策評価 (庁内評価)	C	C	C	C
平成 20 年度	予算	—						
平成 21 年度	計画	—		平成 19 年度 施策評価 (外部評価)				
平成 22 年度	計画	—						

第2章 健康で笑顔のある明るい家庭をつくろう			実施主体	(○)村直営 ()団体 ()その他		
1.健康づくり 2)保健・衛生	施 策	(P44) (2)老人保健 ①受診機会の充実と受診率の向上	実施期間	継続	団体等	村

平成 20 年度実施計画				平成 19 年度実施状況				
1)目的と到達目標		2)事業内容(具体的な施策)		4)平成19年度の施策の実施状況と成果・課題				
■目的 多くの人々が健康上何らかの問題を抱える中で、生活習慣病の早期発見・予防のため、健診機会の充実と受診率の向上を図る。		◇該当者の適正な把握(健診受診申込と該当者調査の実施) ◇特定健康診査と他の健診(生活機能評価など)の同時実施 ◇制度改正の周知・徹底		■実施状況 ・健診受診申込と該当者調査の実施 ・受診機会の確保				
■到達目標 ・特定健康診査受診率 56%				■成果等 ・受診率については、ほぼ前年度並となる見込みである。				
				■課題 ・従来の基本健康診査については、平成 20 年度以降特定健康診査に移行し、実施主体も村から各医療保険者になるので、受診者の混乱を防ぐ必要がある。また、40 歳・50 歳代の受診率の向上を図る必要がある。				
3)実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5)施策評価				
年度	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成 19 年度	実績	—		平成 19 年度 施策評価 (庁内評価)	C	C	C	C
平成 20 年度	予算	—						
平成 21 年度	計画	—		平成 19 年度 施策評価 (外部評価)				
平成 22 年度	計画	—						

第2章 健康で笑顔のある明るい家庭をつくろう			実施主体	(○)村直営 ()団体 ()その他		
1.健康づくり 2)保健・衛生	施 策	(P44) (2)老人保健 ②年代に応じた保健予防事業の推進	実施期間	継続	団体等	村

平成20年度実施計画				平成19年度実施状況					
1)目的と到達目標		2)事業内容(具体的な施策)		4)平成19年度の施策の実施状況と成果・課題					
■目的 内臓脂肪型肥満(メタボリックシンドローム)に着目した生活習慣病の早期発見・予防とともに、高齢期における介護を予防するため、年代に応じた、保健予防事業を推進する。		◇特定健康診査及び特定保健指導(40歳～74歳) ◇生活機能評価(65歳以上) ◇後期高齢者健康診査(75歳以上)		■実施状況 ・生活機能評価による特定高齢者の把握 ・人間ドック受診者を含めた健診事後相談の実施					
■到達目標 ・特定健康診査等各種健診及び特定保健指導の円滑な実施				■成果等 ・特定健康診査・特定保健指導の導入をにらみ、生活習慣病の予防を重点とした指導等を強化した。					
				■課題 ・平成20年度以降は、年代ごとに健診等の実施主体が異なるので、実施主体間の連携を蜜にする必要がある。					
3)実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5)施策評価					
年度	実績	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成19年度	実績	委託料、需用費他	10,915	国県負担他 2,851 一般財源 8,064	平成19年度 施策評価 (庁内評価)	生活習慣病や高齢期における介護を予防する上で重要度が高い			
平成20年度	予算	委託料、需用費他	9,209	国県負担他 747 一般財源 8,462		B	C	C	C
平成21年度	計画	委託料、需用費他	9,209	国県負担他 747 一般財源 8,462	平成19年度 施策評価 (外部評価)				
平成22年度	計画	委託料、需用費他	9,209	国県負担他 747 一般財源 8,462					

第2章 健康で笑顔のある明るい家庭をつくろう			実施主体	()村直営 (○)団体 (○)その他		
1.健康づくり 2)保健・衛生	施 策	(P44) (2)老人保健 ③関係団体との連携	実施期間	継続	団体等	村、健康づくり推進協議会

平成 20 年度実施計画				平成 19 年度実施状況				
1) 目的と到達目標		2) 事業内容(具体的な施策)		4) 平成19年度の施策の実施状況と成果・課題				
■目的 関係団体と情報を共有しながら、 疾病予防意識の普及、啓発を推進 する。		◇疾病予防意識の普及啓発		■実施状況 ・検診データの分析結果の関係団体への提供				
■到達目標 ・疾病予防意識の高揚				■成果等 ・村民の健康実態と抱えている課題等について一定の共通認識が得られた。				
3) 実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5) 施策評価				
年度	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成 19 年度	実績	—		平成 19 年度 施策評価 (庁内評価)	C	C	C	C
平成 20 年度	予算	—						
平成 21 年度	計画	—		平成 19 年度 施策評価 (外部評価)				
平成 22 年度	計画	—						

第2章 健康で笑顔のある明るい家庭をつくろう			実施主体	(○)村直営 ()団体 ()その他		
1.健康づくり 2)保健・衛生	施 策	(P45) (3)感染症予防・結核予防対策 ①防疫体制の整備	実施期間	継続	団体等	村

平成20年度実施計画				平成19年度実施状況				
1)目的と到達目標		2)事業内容(具体的な施策)		4)平成19年度の施策の実施状況と成果・課題				
■目的 伝染のおそれのある疾病の発生及びまん延を予防し、公衆衛生の向上及び増進を図る。		◇防疫体制の確保 ◇感染症の多様化に対応した啓発活動		■実施状況 ・図上訓練(鳥インフルエンザ) ・感染症(ノロウイルス等)対応策の周知(ホームページ)				
■到達目標 ・対応のマニュアル化				■成果等 ・鳥インフルエンザ発生時における県との連携、村としての対応を確認した。				
				■課題 ・新型インフルエンザの発生が懸念されており、県が作成した対応マニュアルを参考に、村としての対応策を検討する必要がある				
3)実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5)施策評価				
年度	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成19年度		—		平成19年度 施策評価 (庁内評価)	C	C	C	C
平成20年度		—						
平成21年度		—		平成19年度 施策評価 (外部評価)				
平成22年度		—						

第2章 健康で笑顔のある明るい家庭をつくろう			実施主体	(○)村直営 ()団体 ()その他		
1.健康づくり 2)保健・衛生	施 策	(P45) (3)感染症予防・結核予防対策 ②啓発活動の推進と接種率の向上	実施期間	継続	団体等	村

平成20年度実施計画				平成19年度実施状況				
1)目的と到達目標		2)事業内容(具体的な施策)		4)平成19年度の施策の実施状況と成果・課題				
■目的 予防接種や結核検診の接種(受診率)の向上を図るため、情報提供、予防思想の普及・啓発を推進する。		◇啓発活動 ◇接種・受診勧奨 【予防接種の種類】 ・ポリオ(乳幼児) ・二種・三種混合 ・麻しん・風しん ・日本脳炎 ・BCG ・インフルエンザ(高齢者等)		■実施状況 ・接種勧奨(個別通知・健診機会) ・ホームページによる啓発 ■成果等 ・個別通知のほか、出生届時や健診時などの機会をとらえて啓発することにより、接種率の向上に努めた。				
■到達目標 ・接種(受診率)の向上				■課題 ・予防接種について、医療機関、学校等とも連携をとりながら、時期に応じた勧奨を徹底する必要がある。				
3)実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5)施策評価				
年度	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成19年度		—		平成19年度 施策評価 (庁内評価)	C	C	C	C
平成20年度		—						
平成21年度		—		平成19年度 施策評価 (外部評価)				
平成22年度		—						

第2章 健康で笑顔のある明るい家庭をつくろう			実施主体	(○)村直営 ()団体 ()その他		
1.健康づくり 2)保健・衛生	施 策	(P45) (4)口腔衛生対策	実施期間	継続	団体等	村

平成20年度実施計画				平成19年度実施状況				
1)目的と到達目標		2)事業内容(具体的な施策)		4)平成19年度の施策の実施状況と成果・課題				
■目的 口腔内の衛生管理と歯の健康を守ることにより、生涯にわたる健康の基礎を築く。		◇口腔衛生教育・指導 ◇歯科検診・フッ素塗布 ◇フッ素洗口(新規) ◇歯科訪問調査		■実施状況 ・歯科検診・フッ素塗布(4回) ・口腔衛生教育・指導(保育所・小学校)				
■到達目標 ・既存及び新規事業による口腔衛生の向上 ・歯周疾患検診導入の検討				■成果等 ・乳幼児期から学童期における口腔衛生の向上に一定の成果があった。				
				■課題 ・壮年期における口腔衛生対策の推進が必要である。				
3)実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5)施策評価				
年度	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成19年度	実績 委託料、報償費他	471	一般財源	平成19年度 施策評価 (庁内評価)	一生涯の健康づくりの基礎として口腔衛生対策は重要度が高い B	C	C	C
平成20年度		474						
平成21年度	計画 委託料、報償費他	474	一般財源	平成19年度 施策評価 (外部評価)				
平成22年度		474						

第2章 健康で笑顔のある明るい家庭をつくろう			実施主体	(○)村直営 ()団体 ()その他		
1.健康づくり 2)保健・衛生	施 策	(P45) (5)地域医療体制の整備	実施期間	継続	団体等	村

平成 20 年度実施計画				平成 19 年度実施状況				
1) 目的と到達目標		2) 事業内容(具体的な施策)		4) 平成19年度の施策の実施状況と成果・課題				
■目的 重篤な救急患者が迅速かつ適切な医療を受けられる体制を整備し、地域医療の向上を図る。		◇地域医療体制の整備 ◇地域医療のあり方の検討(西部保健医療圏域地域保健医療協議会)		■実施状況 ・鳥取県保健医療計画及び各保健医療圏域保健医療計画の見直し				
■到達目標 ・西部保健医療圏域地域保健医療計画の推進				■成果等 ・県全体及び保健医療圏域ごとに、現状と課題、今後の対応が整理された。				
				■課題 ・医療従事者の確保など多くの課題があるが、村単独で対応できる問題ではなく、広域的な取り組みを進める必要がある。				
3) 実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5) 施策評価				
年度	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成 19 年度	実績	—		平成 19 年度 施策評価 (庁内評価)	C	C	C	C
平成 20 年度	予算	—						
平成 21 年度	計画	—		平成 19 年度 施策評価 (外部評価)				
平成 22 年度	計画	—						

第2章 健康で笑顔のある明るい家庭をつくろう		実施主体	(○)村直営 ()団体 ()その他		
2.福祉の充実 1)高齢者福祉	施策 (P47)①地域包括支援センターの創設(地域包括支援センター)	実施期間	H18～継続	団体等	村、南部箕蚊屋広域連合

平成20年度実施計画			平成19年度実施状況																																																		
1)目的と到達目標		2)事業内容(具体的な施策)		4)平成19年度の施策の実施状況と成果・課題																																																	
<p>■目的 すべての地域住民の心身の健康維持、生活の安定、保健・福祉・医療の向上のために必要な援助や支援を包括的に担う中核機関として創設。(H18 介護保険制度改正による)</p> <p>■到達目標 ・H20 より日吉津地域包括支援センターとなり、介護予防、予防給付、介護との連携を一層図る。</p>		<p>H20より日吉津地域包括支援センターとなり、従来の本部業務も日吉津村で行う。従前の本部は事務センターへ移行する。</p> <p>①介護予防マネジメント(保健師等を中心に対応) 予防給付と介護予防事業のマネジメントを一体的実施、要介護状態への予防と要介護状態の悪化予防を図る。</p> <p>②総合相談・支援(社会福祉士を中心に対応)住民の各種相談を幅広く受け付け、制度の垣根にとらわれない横断的、多面的支援を行う。</p> <p>③権利擁護事業(社会福祉士を中心に対応) 高齢者に対する虐待防止や早期発見、その他の権利擁護のための事業を行う。</p> <p>④包括的・継続的マネジメント(主任ケアマネージャーを中心に対応) 高齢者一人ひとりの状態の変化に対応した長期ケアマネジメントの後方支援するため ・ケアマネージャーの日常的個別指導 ・支援困難事例等への指導・助言・地域のケアマネージャーのネットワークづくり ・長期継続ケア を行う。</p>		<p>■実施状況 ○数字は、左記業務</p> <table border="1"> <tr> <th colspan="4">本部 ①の内、予防給付対象</th> <th>計</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td></td> <td>利用</td> <td>未利用</td> <td>入院・死亡等</td> <td>4～3月</td> <td rowspan="3">②、③、④ 随時啓発、研修会。 未利用者には、予防事業への変更も含め利用調整中</td> </tr> <tr> <td>要支援 1</td> <td>10</td> <td>7</td> <td>2</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>要支援 2</td> <td>7</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>17</td> <td>9</td> <td>3</td> <td>29</td> <td></td> </tr> </table> <p>支部 ①の内、介護予防事業。高齢者(H19年度中に65歳以上になる方含む)816人へのチェックリスト配布、回収、評価。予防事業勸奨。(在宅の未回答者については、訪問調査、未回収180人は入院及び入所中)</p> <table border="1"> <tr> <th rowspan="2">支部 ①の内、介護予防事業対象</th> <th colspan="2">4～3月</th> </tr> <tr> <th>チェック結果</th> <th>予防事業利用</th> </tr> <tr> <td>介護保険認定者</td> <td>50</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>特定高齢者</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>一般高齢者</td> <td>582</td> <td>201</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>636</td> <td>205</td> </tr> </table> <p>②、③、④ 随時啓発、研修会。</p> <p>■成果等 ①、④について、継続的なケアマネジメントが出来た。②、③について、啓発事業の推進を行った。 ③について、成年後見村長申し立て 1件。</p> <p>■課題 DV、高齢者虐待、児童虐待等すべての虐待に対応するため専門職を配置し、窓口の整備や予防・支援のネットワークを構築中。(当分の間嘱託職員で対応) 事務センター経費の負担金は、介護保険事業負担金に含む。第3期介護保険事業計画(H18～20) 第4期介護保険事業計画(H21～23)</p>					本部 ①の内、予防給付対象				計	備考		利用	未利用	入院・死亡等	4～3月	②、③、④ 随時啓発、研修会。 未利用者には、予防事業への変更も含め利用調整中	要支援 1	10	7	2	19	要支援 2	7	2	1	10	計	17	9	3	29		支部 ①の内、介護予防事業対象	4～3月		チェック結果	予防事業利用	介護保険認定者	50	—	特定高齢者	4	4	一般高齢者	582	201	合計	636	205
本部 ①の内、予防給付対象				計	備考																																																
	利用	未利用	入院・死亡等	4～3月	②、③、④ 随時啓発、研修会。 未利用者には、予防事業への変更も含め利用調整中																																																
要支援 1	10	7	2	19																																																	
要支援 2	7	2	1	10																																																	
計	17	9	3	29																																																	
支部 ①の内、介護予防事業対象	4～3月																																																				
	チェック結果	予防事業利用																																																			
介護保険認定者	50	—																																																			
特定高齢者	4	4																																																			
一般高齢者	582	201																																																			
合計	636	205																																																			
3)実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)			5)施策評価																																																		
年度	実績	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果																																												
平成19年度	実績	報酬・賃金・共済費・旅費・需用費・役務費	3,200	成年後見還付 12 一般財源 3,188	平成19年度 施策評価 (庁内評価)	すべての地域住民も心身の維持等に重要度が極めて高い	嘱託と正職業務でコストパフォーマンスが高かった	予防効果の増加があった	地域で予防を考えることとなった																																												
平成20年度	予算	報酬・賃金・共済費・旅費・需用費・役務費	5,794	成年後見還付 112 一般財源 5,682		A	B	B	B																																												
平成21年度	計画	報酬・賃金・共済費・旅費・需用費・役務費	5,873	成年後見還付 112 一般財源 5,761	平成19年度 施策評価 (外部評価)																																																
平成22年度	計画	報酬・賃金・共済費・旅費・需用費・役務費	6,120	成年後見還付 112 一般財源 6,008																																																	

第2章 健康で笑顔のある明るい家庭をつくらう		実施主体	(○)村直営 ()団体 ()その他		
2.福祉の充実 1)高齢者福祉	施策 (P47)①地域包括支援センターの創設(予防事業)	実施期間	H18～継続	団体等	村、南部箕蚊屋広域連合

平成20年度実施計画				平成19年度実施状況																																											
1)目的と到達目標		2)事業内容(具体的な施策)		4)平成19年度の施策の実施状況と成果・課題																																											
<p>■目的</p> <p>H18の介護保険制度の改正で、従来の介護予防事業の大半は、介護保険事業の予防事業に移行された。しかし、事業項目のみの移行で、事業費の全額を国は確保しなかった。介護予防の実態と効果を考慮し、国からの財源が確保されなくても、村単独経費で事業継続する必要がある。</p> <p>■到達目標</p> <p>・H20より、特定高齢者施策は広域連合が直接実施。村予防事業との整合を図る。</p> <p>・H21以降の村予防事業の対象者、実施方法、事業費等の見直しを行う。</p> <p>歳入(個人負担)歳出(事業内容)とも見直し予定のため不確定。計上の予算額はH20をスライドしたものの。</p>		<p>1.転倒骨折予防教室 1,043 人</p> <p>2.アクティビティ認知症介護教室 4,933 人</p> <p>3.足指・爪のケアに関する事業 1 回</p> <p>4.高齢者筋力向上トレーニング事業 1,532 人</p> <p>5.高齢者の生きがいと健康づくり推進事業 1 式</p> <p>6.高齢者食生活改善事業 2 人</p> <p>7.「食」の自立支援事業 752 食</p> <p>8.生活管理指導事業(指導員派遣) 96 時間</p> <p>9.生活管理指導事業(短期宿泊) 7 日</p> <p>10.家族介護教室 4 回</p> <p>11.家族介護者交流事業(元気回復事業) 3 回</p> <p>12.家族介護者ヘルパー受講支援事業 1 人</p> <p>13.老人クラブ活動等事業 1 式</p> <p>14.緊急通報装置給付・貸与費 2 台</p> <p>15.外出支援サービス事業 8,943 回</p> <p>16.軽度生活援助事業 330 時間</p> <p>17.訪問理美容サービス事業 6 回</p> <p>18.介護用品の支給(村単独) 15 人</p> <p>19.高齢者居住環境整備事業(県交付金事業) 2 件</p> <p>・H20 予算数値 数値は延べ。</p>		<p>■実施状況 左記の事業を実施している。</p> <p>介護保険、地域支援事業の一般高齢者施策も左記の予防事業に含む。特定高齢者3人(運動器対象)は高齢者筋力向上トレーニング事業に参加。事業番号は左記表参照。H19.4～H20.2</p> <table border="1"> <tr> <td>1. 1,063 人</td> <td>11. 2 回</td> <td colspan="2">1～4.8.10.11.15.16 は社協委託。7 は配食業者に委託。利用調整は社協。9 は入所施設に委託。5.13 は老人クラブに委託。17 は村内理美容店に協力依頼。利用調整は社協。6.12.14.18.19 は役場。</td> </tr> <tr> <td>2. 4,510 人</td> <td>12. 0 人</td> <td colspan="2">口腔機能、栄養改善の訪問事業を創設したが、該当の特定高齢者がいなかった。</td> </tr> <tr> <td>3. 1 回</td> <td>13. 1 式</td> <td colspan="2">口腔機能、栄養改善の啓発公演会を実施。</td> </tr> <tr> <td>4. 1,206 人</td> <td>14. 1 台</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>5. 1 式</td> <td>15. 8,323 回</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>6. 0 人</td> <td>16. 77 時間</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>7. 632 食</td> <td>17. 9 回</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>8. 24 時間</td> <td>18. 21 人</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>9. 0 日</td> <td>19. 2 件</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>10. 5 回</td> <td></td> <td colspan="2"></td> </tr> </table> <p>■成果等 介護保険認定者数は、減少した。運動機能、認知症予防事業は従来どおり行い、予防の成果を得ている。</p> <p>■課題 第3期介護保険事業計画(H18～20)H18.19の予防事業は構成町村で行ったがH20以降、広域連合統一の予防事業を開始。第4期介護保険事業計画(H21～23)第4期計画は、第3期計画における、予防事業の評価により、大幅な改正が見込まれる。H21以降の村予防事業の対象者、実施方法、事業費等の見直しをH20に実施。</p>				1. 1,063 人	11. 2 回	1～4.8.10.11.15.16 は社協委託。7 は配食業者に委託。利用調整は社協。9 は入所施設に委託。5.13 は老人クラブに委託。17 は村内理美容店に協力依頼。利用調整は社協。6.12.14.18.19 は役場。		2. 4,510 人	12. 0 人	口腔機能、栄養改善の訪問事業を創設したが、該当の特定高齢者がいなかった。		3. 1 回	13. 1 式	口腔機能、栄養改善の啓発公演会を実施。		4. 1,206 人	14. 1 台			5. 1 式	15. 8,323 回			6. 0 人	16. 77 時間			7. 632 食	17. 9 回			8. 24 時間	18. 21 人			9. 0 日	19. 2 件			10. 5 回			
1. 1,063 人	11. 2 回	1～4.8.10.11.15.16 は社協委託。7 は配食業者に委託。利用調整は社協。9 は入所施設に委託。5.13 は老人クラブに委託。17 は村内理美容店に協力依頼。利用調整は社協。6.12.14.18.19 は役場。																																													
2. 4,510 人	12. 0 人	口腔機能、栄養改善の訪問事業を創設したが、該当の特定高齢者がいなかった。																																													
3. 1 回	13. 1 式	口腔機能、栄養改善の啓発公演会を実施。																																													
4. 1,206 人	14. 1 台																																														
5. 1 式	15. 8,323 回																																														
6. 0 人	16. 77 時間																																														
7. 632 食	17. 9 回																																														
8. 24 時間	18. 21 人																																														
9. 0 日	19. 2 件																																														
10. 5 回																																															
3)実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5)施策評価																																											
年度	実績	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果																																						
平成19年度	実績	賃金、需用費、委託料等	23,993	補助金等 2,025 利用者負担 1,796 一般財源 20,172	平成19年度 施策評価 (庁内評価)	介護予防の観点から重要度は極めて高い	委託によるコストパフォーマンスが高かった	予防の効果があつた(介護保険出現率)	地域で予防を考えるとこととなった																																						
平成20年度	予算	賃金、需用費、委託料等	29,590	補助金等 1,000 利用者負担 2,047 一般財源 26,543		A	B	B	B																																						
平成21年度	計画	賃金、需用費、委託料等	29,437	補助金等 703 利用者負担 2,047 一般財源 26,687	平成19年度 施策評価 (外部評価)																																										
平成22年度	計画	賃金、需用費、委託料等	30,280	補助金等 703 利用者負担 2,047 一般財源 27,530																																											

第2章 健康で笑顔のある明るい家庭をつくろう		実施主体	()村直営 (○)団体 (○)その他		
2.福祉の充実 2)障害者(児)福祉	施 策	(P49) ①障害者自立支援法に基づく支援	実施期間	H18～継続	団体等 相談支援事業者等

平成 20 年度実施計画				平成 19 年度実施状況					
1)目的と到達目標		2)事業内容(具体的な施策)		4)平成19年度の施策の実施状況と成果・課題					
■目的 「身体」「知的」「障害児」「精神」を含めたどの障害の人も、共通の福祉サービスを受けられ、地域で自立した生活をおくれるよう総合的な支援に努める。		◇障害福祉サービス ・ホームヘルプや、施設の通所にかかる費用の一部を負担 ◇自立支援医療 ・更生医療、※育成医療、※精神通院(※県が実施主体) ◇補装具費支給 ・購入、修理にかかる費用の一部負担 ◇地域生活支援事業 ・相談支援、コミュニケーション支援、日常生活用具給付、移動支援、日中一時支援、自動車運転免許取得、改造助成		■実施状況 ・障害福祉サービス利用決定者 23名、補装具費支給 12件、地域生活支援事業(日常生活用具 52件、移動支援利用決定者 6名、日中一時支援利用決定者 1名、自動車免許改造助成 2件) ■成果等 ・各サービスの利用者は増加傾向にあり、以前に比べて相談体制が改善されたと感じられるが、まだ十分ではない。また、地域において使えるサービスが不足している。 ・制度の認識が不足しているため、効率性は低い。					
■到達目標 ・適切なサービスの提供				■課題 ・現在サービスを利用されている方について、サービスの量など問題はないか定期的な見直しをしていく必要がある。また、相談支援事業者や、サービス提供事業所等と連携を図り、必要な社会資源を活用できるよう働きかける。					
3)実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5)施策評価					
年度	実績	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成 19 年度	実績	扶助費、委託料	42,780	国県負担金(33,512) 一般財源	平成 19 年度 施策評価 (庁内評価)	障害のある方が地域で自立して生活するために重要度が極めて高い A	事例1つ1つに検討が必要で、効率性は悪い D	C	研修などを受け、職員の質の向上を図った B
平成 20 年度	予算	扶助費、委託料	47,972	国県負担金(35,642) 一般財源					
平成 21 年度	計画	扶助費、委託料	50,000	国県負担金(36,500) 一般財源	平成 19 年度 施策評価 (外部評価)				
平成 22 年度	計画	扶助費、委託料	52,000	国県負担金(38,000) 一般財源					

第2章 健康で笑顔のある明るい家庭をつくろう			実施主体		(○)村直営 ()団体 ()その他		
2.福祉の充実 2)障害者(児)福祉	施 策	(P49) ②「障害福祉計画」等の策定	実施期間		H18～継続	団体等	村

平成 20 年度実施計画				平成 19 年度実施状況					
1)目的と到達目標		2)事業内容(具体的な施策)		4)平成19年度の施策の実施状況と成果・課題					
■目的 障害者が安心してサービスが受けられる体制整備を進めるために「障害者福祉計画」の見直しを行う。さらに、村単独助成事業の継続し、施策の検討を行うとともに、小規模作業所の見直しを図る。		◇障害福祉計画の見直し ・平成 18 年度に策定した「日吉津村障害者福祉計画」の実施計画部分の見直しを行う ◇村単独事業 ・福祉年金給付、医療費助成、排泄管理支援用具助成、タクシーチケット交付、人工透析患者へ通院費助成 ◇小規模作業所の見直し ・継続的に協議をし、新体系に移行できるよう必要な支援を行う		■実施状況 ・障害者福祉計画の進捗状況を評価するため、障害者施策推進協議会を開催した。(1回) ・継続して村単独助成事業を行った。 ・小規模作業所が新体系へ向かうための協議を重ねて行った。					
■到達目標 ・障害者福祉計画の見直し ・村単独事業の継続				■成果等 ・小規模作業所の見直しについて、作業所と協議・検討し、新体系移行への課題が多く残ったが、具体的な協議ができるようになった。 ・福祉年金などお金の受け渡しを口座振替にしたため、効率性が向上した。					
				■課題 ・村単独事業については、対象者等の見直しや、HP や広報での事業の周知を図る必要がある。また小規模作業所の新体系への移行についても引き続き十分な協議が必要である。					
3)実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5)施策評価					
年度	実績	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成 19 年度	実績	扶助費、補助金	3,904	県補助金(959) 一般財源	平成 19 年度 施策評価 (庁内評価)	C	業務の効率化が図られ、成果が高まった	D	C
平成 20 年度	予算	扶助費、補助金	4,272	県補助金(1,062) 一般財源					
平成 21 年度	計画	扶助費、補助金	4,272	県補助金(1,062) 一般財源	平成 19 年度 施策評価 (外部評価)				
平成 22 年度	計画	扶助費、補助金	4,272	県補助金(1,062) 一般財源					

第2章 健康で笑顔のある明るい家庭をつくろう			実施主体	(○)村直営 ()団体 ()その他		
2.福祉の充実 2)障害者(児)福祉	施 策	(P49) ③障害の早期発見・予防	実施期間	継続	団体等	村、鳥取県

平成 20 年度実施計画				平成 19 年度実施状況				
1)目的と到達目標		2)事業内容(具体的な施策)		4)平成19年度の施策の実施状況と成果・課題				
■目的 障害の発生を防ぐための母子保健対策などによる早期発見・予防に努めながら障害者(児)が地域で安心して生活できるように、きめ細かな総合的な施策に展開、制度の周知を図る。		◇健診による早期発見 ・乳児・1歳6か月・3歳児・5歳児検診を実施し、障害の早期発見を図る。 ※母子保健施策の中で対応 ◇制度の活用・周知 ・障害児福祉手当・特別児童扶養手当等制度の周知に努め、制度の活用を図る。		■実施状況 ・健診は母子保健で対応。 ・障害児福祉手当受給資格者 1名 ・特別児童扶養手当受給資格者 6名 ■成果等 ・健診による障害の早期発見については母子保健で対応。 ・村報で特別児童扶養手当についての広報を行ったが、新規の申請はなかった。 ・特別児童扶養手当の受給資格者に対し、所得状況届を毎年提出してもらおうが、その手続きの簡素化を行った。				
■到達目標 ・乳幼児健診の実施 ・制度の周知徹底		■課題 障害の早期発見について、さらなる相談支援体制の充実が必要である。						
3)実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5)施策評価				
年度	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成19年度		—		平成19年度 施策評価 (庁内評価)	地域で安心して暮らすための施策であり重要度が高い B	C	C	受給者に対し、事務の簡素化を行った B
平成20年度		—						
平成21年度		—						
平成22年度		—						

第2章 健康で笑顔のある明るい家庭をつくろう			実施主体	(○)村直営 ()団体 ()その他		
2.福祉の充実 3)ひとり親家庭に対する福祉	施策	(P50) ①相談支援体制の充実	実施期間	継続	団体等	村、民生児童委員協議会、西部総合事務所福祉保健局

平成20年度実施計画				平成19年度実施状況				
1)目的と到達目標		2)事業内容(具体的な施策)		4)平成19年度の施策の実施状況と成果・課題				
■目的 ひとり親家庭の経済的自立と生活意欲助長のため、民生児童委員等との連携を図りながら、相談支援体制の充実を図る。		◇相談体制の充実 <ul style="list-style-type: none"> 基本的な相談窓口は役場とし、民生児童委員との連携を密にしながら相談しやすい体制作りをめぐる。 必要に応じて福祉事務所、児童相談所等との連携し、相談者のニーズに応えられるようにする。 		■実施状況 <ul style="list-style-type: none"> 課内に家庭児童相談窓口を設置した。 民生児童委員に対するひとり親制度の説明や主任児童委員が乳幼児健診にボランティアとして参加した。また、民生児童委員と個々のケースに対して連携を密にした。 パンフレットを配布、県のアンケートへ回答を実施。 				
■到達目標 <ul style="list-style-type: none"> 個々のひとり親世帯が必要な支援を受けられるよう相談体制を充実 				■成果等 <ul style="list-style-type: none"> 家庭児童相談窓口の設置により、相談体制が充実した。 民生児童委員との連携がうまく図れた。また、パンフレットの配布により、周知が図れ利用につながった。 				
				■課題 <ul style="list-style-type: none"> 村内外にひとり親が相談しやすい環境が必要。また、時間外にも対応できる体制が必要。 研修等により民生児童委員の相談援助の質を高める必要がある。 				
3)実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5)施策評価				
年度	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成19年度	実績	—		平成19年度 施策評価 (庁内評価)	民生児童委員等との連携と相談体制の充実は重要度は極めて高い A	C	C	C
平成20年度	予算	—						
平成21年度	計画	—		平成19年度 施策評価 (外部評価)				
平成22年度	計画	—						

第2章 健康で笑顔のある明るい家庭をつくろう			実施主体	(○)村直営 ()団体 ()その他		
2.福祉の充実 3)ひとり親家庭に対する福祉	施策	(P50) ②制度の活用	実施期間	継続	団体等	村、鳥取県

平成 20 年度実施計画				平成 19 年度実施状況					
1) 目的と到達目標		2) 事業内容(具体的な施策)		4) 平成19年度の施策の実施状況と成果・課題					
■目的 ひとり親家庭に児童扶養手当や母子・寡婦福祉資金等の福祉制度を活用し生活支援を図るとともに、入学支度金助成等村独自制度も推進する。		◇制度の活用 ・児童扶養手当(県認定) ・母子・寡婦福祉資金(県認定) ・村独自助成(入学支度金)		■実施状況 ・対象者の把握 入学支度金(村事業) 2名給付、母子福祉貸付金(県事業) 修学資金の貸付申請 2件 制度活用の充実のために、村広報・HP で制度の周知を図った。					
■到達目標 ・ひとり親家庭が必要な制度を利用できるように努める。		◇制度の周知		■成果等 ・経済状況の恵まれていないひとり親世帯にとって、村独自の入学支度金制度による助成は貴重で、入学準備に役立った。 ・村広報・HP の利用で、制度周知が図れた。					
3) 実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5) 施策評価					
年度		支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成 19 年度	実績	扶助費(入学支度金 2名 20)	30	一般財源	平成 19 年度 施策評価 (庁内評価)	ひとり親にとって制度の充実と活用は極めて重要度が高い A	対象者への周知により、制度はかなり活用され、成果が高まった B	制度の活用の充実のための周知は成果があった B	C
平成 20 年度	予算	扶助費	70	一般財源					
平成 21 年度	計画	扶助費	20	一般財源	平成 19 年度 施策評価 (外部評価)				
平成 22 年度	計画	扶助費	70	一般財源					

第2章 健康で笑顔のある明るい家庭をつくろう			実施主体	(○)村直営 ()団体 ()その他		
2.福祉の充実 4)低所得者福祉	施策	(P51) ①相談・指導体制の充実	実施期間	継続	団体等	村、民生児童委員協議会、西部福祉事務所

平成 20 年度実施計画				平成 19 年度実施状況				
1) 目的と到達目標		2) 事業内容(具体的な施策)		4) 平成19年度の施策の実施状況と成果・課題				
■目的 低所得世帯が抱えるさまざまな問題に適切に対処できるよう、民生児童委員などと連携し、相談・指導体制を充実する。		◇相談・指導体制の充実 ・基本的な相談窓口は役場とし、民生児童委員との連携を密にしながら相談しやすい体制作りをめぐる。 ・福祉事務所等との連携強化 ・村広報・HP で、相談窓口の周知をする。		■実施状況 ・生活困窮に対する相談援助を実施、また、低所得者を対象に灯油の助成を実施。 ・民生児童委員協議会との連携…定例会(偶数月)にて情報交換を行った。 ・被保護世帯の処遇検討会を行った。				
■到達目標 ・生活困窮者の相談・指導をし、必要な支援が出来るようにする。				■成果等 ・生活困窮に対する相談を受け、福祉事務所との連携を密にして、生活保護制度の活用等必要な援助が出来た。 ・民生児童委員との情報交換をすることにより、生活困窮者の実態が分かり、援助につながった。 ・被保護世帯の処遇検討会を行うことにより、民生児童委員への周知と理解が深まった。				
				■課題 ・生活困窮者が必要な支援を受けられるよう、相談・指導の更なる充実を図る。				
3) 実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5) 施策評価				
年度	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成 19 年度	実績	—		平成 19 年度 施策評価 (庁内評価)	困窮者の実態把握で地域の民生委員の活用は重要度が極めて高い A	C	C	C
平成 20 年度	予算	—						
平成 21 年度	計画	—		平成 19 年度 施策評価 (外部評価)				
平成 22 年度	計画	—						

第2章 健康で笑顔のある明るい家庭をつくろう			実施主体	(○)村直営 ()団体 ()その他		
2.福祉の充実 4)低所得者福祉	施策	(P51) ②援護施策の充実	実施期間	継続	団体等	村、西部福祉事務所

平成20年度実施計画				平成19年度実施状況					
1)目的と到達目標		2)事業内容(具体的な施策)		4)平成19年度の施策の実施状況と成果・課題					
■目的 低所得世帯の生活の安定と自立を促進するため、援護施策の充実を図る。		◇援護施策の充実 ・要援護者への生活保護制度等の活用(県西部福祉事務所認定・支給額決定) ・生活福祉資金貸付制度の活用(社会福祉協議会)		■実施状況 ・保護申請が妥当と思われるケースには申請を薦め、福祉事務所と連携をし制度の活用をした。(生活保護申請2名) ・被保護世帯は6世帯…継続的に関わり、必要な援助や指導を実施。また、非課税世帯に灯油助成を実施。被保護世帯3世帯に福祉年金を支給。(1世帯に1万円)					
■到達目標 ・援助が必要な人の生活の安定と自立のために、制度の利用を促進する。				■成果等 ・相談を通して、困窮者の状況が適切に把握でき、生活保護等必要な制度の活用や援助が出来た。 ・灯油助成をすることにより、生活困窮者への助成が図れた					
■課題 ・ひとり親家庭や病気により働けないなどの理由により、生活保護の申請が増加している。今後も、周知を図り、西部福祉事務所と連携し、必要な相談・指導・調査等行う ・生活福祉資金の利用が促進できるように、周知を図る。									
3)実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5)施策評価					
年度	実績	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成19年度	実績	福祉年金(30千円) 灯油助成(432千円)	30 450	一般財源	平成19年度 施策評価 (庁内評価)	低所得者の生活の安定と自立促進は、重要度が極めて高い A	C	C	灯油助成を行ったことで、低所得者への援護が図れた B
平成20年度	予算	扶助費	30	一般財源					
平成21年度	計画	扶助費	30	一般財源	平成19年度 施策評価 (外部評価)				
平成22年度	計画	扶助費	30	一般財源					

第2章 健康で笑顔のある明るい家庭をつくろう			実施主体	(○)村直営 ()団体 ()その他		
3.福祉の充実 1)国民健康保険	施策	(P52) ①早期発見・早期治療の推進	実施期間	継続	団体等	

平成20年度実施計画				平成19年度実施状況					
1)目的と到達目標		2)事業内容(具体的な施策)		4)平成19年度の施策の実施状況と成果・課題					
■目的 国民健康保険制度の健全な運営及び財政基盤の安定を図る為、保健事業を推進し医療給付費の適正化を求めていく。		20年度から各医療保険者に義務付けられた特定検診による生活習慣病の早期発見・早期治療への取り組み ◇人間ドックの実施 ・40歳以上 74歳までの被保険者のうち170人対象		■実施状況 ・40歳以上対象者 881人に対して 250人の予算措置をし、214人の希望があった。 ・米子市内2医療機関と村内の1医療機関で実施。					
■到達目標 ・人間ドック受診結果により、65歳までの者についての保健指導を強化し、平成24年度の特定健診・保健指導実施率の達成に繋げていく。				■成果等 ・村内医療機関の追加、受診期間の延長で、より受診しやすい条件を整備した。又、保健師・管理栄養士による事後指導相談会を10～3月の間に14回実施して受診後の事後指導の強化に努めた。					
				■課題 ・40・50代の受診者が全体の10%であり、この年代の受診人数の増加に向けた効率的な取り組みと、併せて20年度以降の特定健診との整合性について、再検討する時期に来ている。					
3)実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5)施策評価					
年度	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果	
平成19年度	実績 役務費・委託料・賃金	3,536	一般財源	平成19年度 施策評価 (庁内評価)	疾病の早期発見・早期治療に有効につながり重要度は高い B	事後指導の人的配置は概ね効果あり B	C	C	
平成20年度		4,507	一般財源						
平成21年度		計画 役務費・委託料・賃金	4,507	一般財源	平成19年度 施策評価 (外部評価)				
平成22年度		計画 役務費・委託料・賃金	4,507	一般財源					

第2章 健康で笑顔のある明るい家庭をつくろう			実施主体	(○)村直営 ()団体 ()その他		
3.福祉の充実 1)国民健康保険	施策	(P52) ②医療費の適正化	実施期間	継続	団体等	

平成20年度実施計画				平成19年度実施状況					
1)目的と到達目標		2)事業内容(具体的な施策)		4)平成19年度の施策の実施状況と成果・課題					
■目的 国民健康保険制度の健全な運営及び財政基盤の安定を図る為、保健事業を推進し医療給付費の適正化を求めていく。		◇レセプト点検の充実強化 ・月3回のレセプト点検を専門員に委託し、過誤・再審査等の点検の充実強化を図り、医療費の適正化に努める。 ◇医療費分析の実施 ・レセプトの主病を入力して疾病の傾向を把握する。		■実施状況 ・月3日間のレセプト点検の実施 ■成果等 ・過誤・再審査等の点検の充実強化を図り、医療費の適正化に努めた。					
■到達目標 ・レセプト点検、医療費分析による医療給付費の適正化				■課題 ・医療費分析については、5月診療分の単月のデータしかないため、通年の傾向が掴めない。					
3)実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5)施策評価					
年度	実績	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成19年度	実績	委託料	308	一般財源	平成19年度 施策評価 (庁内評価)	健全な運営と財政基盤安定のため、医療費の適正化は重要度が高い B	C	C	C
平成20年度	予算	委託料	271	一般財源					
平成21年度	計画	委託料	271	一般財源	平成19年度 施策評価 (外部評価)				
平成22年度	計画	委託料	271	一般財源					

第2章 健康で笑顔のある明るい家庭をつくろう			実施主体	(○)村直営 ()団体 ()その他		
3.社会保険の充実 1)国民健康保険	施策	(P52) ④運用状況の周知と収納率の向上	実施期間	継続	団体等	村

平成20年度実施計画				平成19年度実施状況					
1)目的と到達目標		2)事業内容(具体的な施策)		4)平成19年度の施策の実施状況と成果・課題					
■目的 国民健康保険制度の健全な運営及び財政基盤の安定を図るため、保健事業を推進し、医療給付費の適正化を求める ■到達目標 ・国民健康保険制度の健全な運営及び財政基盤の安定。		国民健康保険制度への理解や認識を深める ◇チラシ同封 ・納税通知書発送時 ◇医療費通知発送 ・医療費の適正化の啓発に努める		■実施状況 ・短期保険証の発行により滞納者が定期的に窓口を訪れることにより、納付相談の実施を行った。 ・分納誓約書を作成し、実施可能な納付計画を立て、納付してもらう。 ■成果等 ・短期保険証の発行、分納誓約書の作成などにより、収納率の向上がみられた。 ■課題 ・制度の理解や認識を深めるため、チラシの配布や医療費通知で啓発に努める。					
3)実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5)施策評価					
年度	実績	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成19年度	実績	需用費・役務費等	509	一般財源 その他	平成19年度 施策評価 (庁内評価)	健全な運営と財政基盤安定のため、医療費の適正化は重要度が高い B	C	C	C
平成20年度	予算	需用費・役務費等	489	一般財源 その他					
平成21年度	計画	需用費・役務費等	490	一般財源 その他	平成19年度 施策評価 (外部評価)				
平成22年度	計画	需用費・役務費等	490	一般財源 その他					

第2章 健康で笑顔のある明るい家庭をつくろう			実施主体	(○)村直営 ()団体 ()その他		
3.社会保険の充 実 2)介護保険	施策	(P54) ①情報提供と制度の円滑実施	実施期間	H12～継続	団体等	村、南部箕蚊屋広域連合

平成20年度実施計画				平成19年度実施状況																																																										
1)目的と到達目標		2)事業内容(具体的な施策)		4)平成19年度の施策の実施状況と成果・課題																																																										
<p>■目的</p> <p>高齢者が自らの意志によって、適切で良質な介護サービスが受けられるように情報提供等に努める。また、南部箕蚊屋広域連合との連携により、サービス供給の確保や給付事務の効率化等を図り、制度の円滑な実施に努める。</p> <p>■到達目標</p> <p>・包括支援事務センターで、サービス計画書の確認を行い、介護給付費適正化を図る。村包括支援センターは、介護予防、予防給付、介護との連携を図る。 ・H21以降予算は、第4期計画策定後に確定。現段階では不明のためH20同額計上。</p>		<p>介護保険事業計画の情報提供と制度の円滑な実施を行う。</p> <p>南部箕蚊屋広域連合のもと3ヶ町村で事業を進めている。H20年度は第3期計画の最終年度であり、次期第4期計画(H21～23)の策定年度でもある。</p> <p>制度改正に伴い、多様化する事務等、共同処理が可能な業務は広域連合で行い、よりいっそうの円滑化を図る。</p> <p>情報提供</p> <p>①事業計画、制度については、村報に広域連合の広報誌「やまびこ」を随時折り込み、HPに掲載。 ②利用についての情報提供窓口は「日吉津地域包括支援センター」にて随時行なう。</p>		<p>実施状況 (人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>4月末</th> <th>3月末</th> <th>増減</th> <th colspan="2"></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>要支援1</td> <td>19</td> <td>14</td> <td>△5</td> <td colspan="2" rowspan="5">共同処理により、制度改正に伴い多様化する事務等が統一して処理され、効率化が図られた。</td> </tr> <tr> <td>要支援2</td> <td>9</td> <td>9</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>要介護1</td> <td>21</td> <td>20</td> <td>△1</td> </tr> <tr> <td>要介護2</td> <td>21</td> <td>22</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>要介護3</td> <td>17</td> <td>22</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>要介護4</td> <td>20</td> <td>16</td> <td>△4</td> <td colspan="2" rowspan="3">新規申請23人。区分変更申請8人。未更新6人。死亡23人。介護度軽減6人、介護度進行28人。 ※1号被保険者の認定者数 ※認定者・高齢者人口、住所地特例者数含む</td> </tr> <tr> <td>要介護5</td> <td>24</td> <td>20</td> <td>△4</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>131</td> <td>123</td> <td>△8</td> </tr> <tr> <td>高齢者人口</td> <td>755</td> <td>756</td> <td>1</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>出現率</td> <td>17.4%</td> <td>15.5%</td> <td>△1.9%</td> <td colspan="2"></td> </tr> </tbody> </table> <p>■成果等 介護保険認定者数は、減少。(上記表)</p> <p>■課題 第3期介護保険事業計画(H18～20) H20年度は、今後3ヵ年の第4期計画策定年度。第4期介護保険事業計画(H21～23)</p>						4月末	3月末	増減			要支援1	19	14	△5	共同処理により、制度改正に伴い多様化する事務等が統一して処理され、効率化が図られた。		要支援2	9	9	0	要介護1	21	20	△1	要介護2	21	22	1	要介護3	17	22	5	要介護4	20	16	△4	新規申請23人。区分変更申請8人。未更新6人。死亡23人。介護度軽減6人、介護度進行28人。 ※1号被保険者の認定者数 ※認定者・高齢者人口、住所地特例者数含む		要介護5	24	20	△4	計	131	123	△8	高齢者人口	755	756	1			出現率	17.4%	15.5%	△1.9%		
	4月末	3月末	増減																																																											
要支援1	19	14	△5	共同処理により、制度改正に伴い多様化する事務等が統一して処理され、効率化が図られた。																																																										
要支援2	9	9	0																																																											
要介護1	21	20	△1																																																											
要介護2	21	22	1																																																											
要介護3	17	22	5																																																											
要介護4	20	16	△4	新規申請23人。区分変更申請8人。未更新6人。死亡23人。介護度軽減6人、介護度進行28人。 ※1号被保険者の認定者数 ※認定者・高齢者人口、住所地特例者数含む																																																										
要介護5	24	20	△4																																																											
計	131	123	△8																																																											
高齢者人口	755	756	1																																																											
出現率	17.4%	15.5%	△1.9%																																																											
3)実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5)施策評価																																																										
年度	実績	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果																																																					
平成19年度	実績	旅費・需用費・委託料・ 連合負担金	54,362	連合負担金 1,944 一般財源 52,418	平成19年度 施策評価 (庁内評価)	適切な介護サービスが受けられるよう、介護保険制度の円滑な実施は重要度が極めて高い A	共同処理により効率化が図られ、コストパフォーマンスは高かった B	制度改正に伴い円滑化が図られ成果があった B	介護認定者が減少した B																																																					
平成20年度	予算	旅費・需用費・委託料・ 連合負担金	56,213	連合負担金 1,521 一般財源 54,692																																																										
平成21年度	計画	旅費・需用費・委託料・ 連合負担金	56,213	連合負担金 1,521 一般財源 54,692	平成19年度 施策評価 (外部評価)																																																									
平成22年度	計画	旅費・需用費・委託料・ 連合負担金	56,213	連合負担金 1,521 一般財源 54,692																																																										

第2章 健康で笑顔のある明るい家庭をつくろう		実施主体	(○)村直営 ()団体 ()その他		
3.社会保険の充実 3)国民年金	施策 (P54) ①啓発活動の推進	実施期間	継続	団体等	村

平成20年度実施計画				平成19年度実施状況				
1)目的と到達目標		2)事業内容(具体的な施策)		4)平成19年度の施策の実施状況と成果・課題				
■目的 安定的な所得保障の確立を目指した制度運用及び保険料の的確な収納と被保険者の適用促進を図る。		社会保険事務所等の関係機関と連携を密にして、適正な事業運営、被保険者に対するサービスの充実を図る。 ・各種申請の受付 ・口座振替・前納の推進 ・制度周知にかかる広報 ・年金特別便に伴う年金相談の実施(毎月1回、於役場 社保庁職員が相談員)		■実施状況 ・被保険者に対する各種窓口での申請受付及び指導を行った。 ・制度周知等広報記事の村報への掲載。(5回掲載) ・窓口封筒(半面)を利用した適用促進に係る広報				
■到達目標 ・社会保険事務所等との連携による適正な指導。 ・資格取得時における納付督促、及び口座振替・前納の推進。 ・制度周知にかかる広報の充実。				■成果等 ・社会保険事務所と連携をとり、被保険者の相談に対する指導を行った。				
3)実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5)施策評価				
年度	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成19年度	実績 事務費等	1,132	国庫支出金	平成19年度 施策評価 (庁内評価)	安定的な所得保障のため適用促進、納付督促の重要度が高い B	C	C	C
平成20年度	予算 事務費等	1,132	国庫支出金					
平成21年度	計画 事務費等	1,132	国庫支出金	平成19年度 施策評価 (外部評価)				
平成22年度	計画 事務費等	1,132	国庫支出金					

第2章 健康で笑顔のある明るい家庭をつくろう		実施主体	(○)村直営 ()団体 ()その他		
4.次世代育成(子育て)支援対策	施策	(P56)			
		①子育て支援センターの設置	実施期間	継続	団体等 村

平成20年度実施計画				平成19年度実施状況					
1)目的と到達目標		2)事業内容(具体的な施策)		4)平成19年度の施策の実施状況と成果・課題					
■目的 子育て家庭の抱える不安・悩みの解消に努め、地域における子育て支援を推進する。		◇基本的事業 ・子育て親子の交流の場の提供と交流の促進 ・子育て等に関する相談・援助の実施 ・地域の子育て関連情報の提供 ・子育て及び子育て支援に関する講習等の実施 ◇地域支援事業 ・子育てサークルの活動支援やとくに支援を必要とする家庭への訪問		■実施状況 【開設日】 毎週月～金(祝日及び年末・年始を除く) 【開設時間】 9:00～16:00 【職員体制】 指導員(保育士)2名 ■成果等 ・新しい施設での運営も軌道に乗り、利用者が増加するとともに、子育て親子の交流が促進された。					
■到達目標 ・基本的事業及び地域支援事業の充実 ・ファミリーサポートセンター併設の検討				■課題 ・ファミリーサポートセンター併設の検討が必要である。					
3)実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5)施策評価					
年度	実績	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成19年度	実績	賃金、共済費他	4,993	国・県補助金 3,640 一般財源 1,353	平成19年度 施策評価 (庁内評価)	地域における子育て支援の拠点となる施設として重要度が極めて高い A	C	利用者増等成果があった B	C
平成20年度	予算	賃金、共済費他	5,505	国・県補助金 3,732 一般財源 1,773					
平成21年度	計画	賃金、共済費他	5,505	国・県補助金 3,732 一般財源 1,773	平成19年度 施策評価 (外部評価)				
平成22年度	計画	賃金、共済費他	5,505	国・県補助金 3,732 一般財源 1,773					

第2章 健康で笑顔のある明るい家庭をつくろう			実施主体	(○)村直営 ()団体 ()その他		
4.次世代育成(子育て)支援対策	施策	(P56) ②保育所機能の強化	実施期間	継続	団体等	

平成20年度実施計画				平成19年度実施状況				
1)目的と到達目標		2)事業内容(具体的な施策)		4)平成19年度の施策の実施状況と成果・課題				
■目的 家庭での保育に欠ける児童を預かり、就学前児童を健全に育成するとともに、仕事と家庭の両立を支援する。		◇通常保育。 ◇特別保育 ・乳児保育、延長保育など ◇広域入所。		■実施状況 ・通常保育(H19.4.1 現在 112人) ・特別保育 乳児保育(H19.4.1 現在 2人) ・広域入所(H19.4.1 現在 6人)				
■到達目標 ・就学前児童を健全に育成するとともに、仕事と家庭の両立支援をはかる。				■成果等 ・家庭での保育に欠ける児童を預かり、仕事と育児の両立支援を行なった。				
3)実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5)施策評価				
年度	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成19年度	実績 報酬・賃金等	53,636	国庫支出金 825 県支出金 2,767	平成19年度 施策評価 (庁内評価)	仕事と家庭の両立を支援する上で重要度が極めて高い A	C	仕事と育児の両立支援に成果があった B	C
平成20年度	予算 報酬・賃金等	52,335	国庫支出金 1,294 県支出金 2,328					
平成21年度	計画 報酬・賃金等	52,500	国庫支出金 1,300 県支出金 2,350	平成19年度 施策評価 (外部評価)				
平成22年度	計画 報酬・賃金等	52,500	国庫支出金 1,300 県支出金 2,350					

第2章 健康で笑顔のある明るい家庭をつくろう			実施主体	(○)村直営 ()団体 ()その他		
4.次世代育成(子育て)支援対策	施策	(P56) ③児童館の運営強化	実施期間	継続	団体等	村

平成20年度実施計画				平成19年度実施状況					
1)目的と到達目標		2)事業内容(具体的な施策)		4)平成19年度の施策の実施状況と成果・課題					
■目的 放課後、帰宅しても家庭に保護者のいない児童を預かり、健全育成を図るとともに、仕事と家庭の両立を支援する。		◇学童保育の実施 ・放課後児童クラブの運営を含む ◇施設の空き時間帯の活用		■実施状況 ・放課後及び長期休暇中において、子どもたちに健全な遊びを提供するとともに、生活全般の指導を行った。					
■到達目標 ・児童館の運営強化				■成果等 ・学童期における子どもの健全育成を図るとともに、学童保育により、保護者の仕事と家庭の両立を支援した。					
				■課題 ・放課後児童クラブの規模の適正化と開所時間延長の検討が必要である。					
3)実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5)施策評価					
年度	実績	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成19年度	実績	賃金、需用費他	11,715	県補助金他 6,383 一般財源 5,332	平成19年度 施策評価 (庁内評価)	仕事と家庭の両立を支援する上で重要度が極めて高い		保護者の仕事と家庭の両立を支援し成果があった	
平成20年度	予算	賃金、需用費他	12,579	県補助金他 6,662 一般財源 5,917		A	C	B	C
平成21年度	計画	賃金、需用費他	12,579	県補助金他 6,662 一般財源 5,917	平成19年度 施策評価 (外部評価)				
平成22年度	計画	賃金、需用費他	12,579	県補助金他 6,662 一般財源 5,917					

第2章 健康で笑顔のある明るい家庭をつくろう			実施主体	(○)村直営 ()団体 ()その他		
4.次世代育成(子育て)支援対策	施策	(P56) ④母子の健康の確保及び推進	実施期間	継続	団体等	村

平成20年度実施計画				平成19年度実施状況					
1)目的と到達目標		2)事業内容(具体的な施策)		4)平成19年度の施策の実施状況と成果・課題					
<p>■目的 次世代育成(子育て)支援推進の基盤として、妊娠出産から子どもの成長の過程を総合的に支え、子どもの健全育成を図る。</p> <p>■到達目標 ・男性の育児参加の促進 ・家庭における「食育」の推進 ・相談体制の充実 ・西部保健医療圏地域保健医療計画の推進</p>		<p>◇子どもや母親の健康の確保 ・妊婦乳児健康診査、乳幼児健康診査、ブックスタート、各種学級、訪問指導、育児等相談</p> <p>◇「食育」の推進 ・講習会の開催、栄養指導の実施、啓発活動</p> <p>◇思春期保健対策の充実 ・学習、啓発活動の推進、相談体制の充実</p> <p>◇小児医療の充実 ・かかりつけ医の定着、小児医療のあり方の検討</p>		<p>■実施状況 ・妊婦・乳児健康診査(前期・後期各2回)、乳児・1歳6月児健診(4回)、2歳・3歳児健診(4回)、5歳児健診(5回)、ブックスタート(4回)、育児・両親学級(3回)、新生児訪問指導・育児等相談、離乳食講習等の実施、検診機会における栄養・食事指導の実施、学校保健委員会(小・中学校)における情報・意見交換、鳥取県保健医療計画及び各保健医療圏地域保健医療計画の見直しが行われた。</p> <p>■成果等 ・母子の健康管理に加え、子育て支援センターとも連携し、現場に出向いての相談機会を設けるなど、子育て支援の観点から事業を充実させた。乳幼児の発達段階に応じた指導、啓発を通じて、「食」に対する正しい知識の普及とともに、親子の絆を深めることにもつながった。子どもたちを取り巻く情勢、学校現場が抱える課題等について、共通認識を深めた。県全体及び保健医療圏域ごとに、現状と課題、今後の対応が整理された。</p> <p>■課題 ・男性の育児参加を引き続き促進する必要がある。「食育」や「食の安全」に対する関心が高まる一方で、食習慣の乱れが顕著になっており、家庭における「食育」をいかに推進するかが課題となっている。スクールカウンセラーとも連携し、相談体制の充実に努める必要がある。小児医療に従事する医師の負担軽減及び確保が課題となっているが、村単独で対応できる問題ではなく、広域的な取組みを進める必要がある。</p>					
3)実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5)施策評価					
年度	実績	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成19年度	実績	委託料、賃金他	1,830	国県補助金 69 一般財源 1,761	平成19年度 施策評価 (庁内評価)	妊娠出産から子どもの成長過程を支えるため重要度が高い B	C	C	C
平成20年度	予算	委託料、賃金他	2,293	国県補助金 72 一般財源 2,221					
平成21年度	計画	委託料、賃金他	2,293	国県補助金 72 一般財源 2,221	平成19年度 施策評価 (外部評価)				
平成22年度	計画	委託料、賃金他	2,293	国県補助金 72 一般財源 2,221					

第2章 健康で笑顔のある明るい家庭をつくろう		実施主体	(○)村直営 ()団体 ()その他		
4.次世代育成(子育て)支援対策	施 策	(P56) ⑤子どもを健やかに育む教育環境の整備	実施期間	継続	団体等 村

平成20年度実施計画				平成19年度実施状況					
1)目的と到達目標		2)事業内容(具体的な施策)		4)平成19年度の施策の実施状況と成果・課題					
■目的 子どもたちの個性と無限の可能性を伸ばし、豊かな人間性と生きる力を育むため、学校の教育環境の整備や家庭・地域の教育力の向上を図る。		◇次代の親の育成 ◇学校の教育環境等の整備 ◇家庭や地域の教育力の向上 ◇有害環境対策の推進		■実施状況 ・小学校体育館建設検討委員会の設置。視察や会合など重ね、広報誌やホームページで紹介をした。					
■到達目標 ・小学校体育館の建設				■成果等 ・小学校体育館建設検討委員会を立ち上げ、小学生、教職員、社会体育関係者等の声を反映した設計書ができた。					
				■課題 ・太陽光発電の補助金がつくか?解体する体育館の備品や工事に伴う付帯事業の経費。					
3)実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5)施策評価					
年度		支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成19年度	実績	委託料等	8,121	一般財源	平成19年度 施策評価 (庁内評価)	豊かな人間性と生きる力を育むため 重要度が高い B	C	C	C
平成20年度	予算	工事請負費等	358,843	国庫等 90,300 起債 234,000					
平成21年度	計画		—		平成19年度 施策評価 (外部評価)				
平成22年度	計画		—						

第2章 健康で笑顔のある明るい家庭をつくろう			実施主体	(○)村直営 ()団体 ()その他		
4.次世代育成(子育て)支援対策	施策	(P57) ⑥子育てにやさしいむらづくり	実施期間	継続	団体等	村

平成20年度実施計画				平成19年度実施状況					
1)目的と到達目標		2)事業内容(具体的な施策)		4)平成19年度の施策の実施状況と成果・課題					
■目的 子育て家庭が安心して出かけられ、のびのびと遊べる環境や子どもの安全を確保し、子育てにやさしいむらをつくる。		◇子育てに配慮した施設等の整備 ◇安全な遊び場の確保 ◇交通安全の確保 ◇犯罪等の被害から守る活動の推進		■実施状況 ・カーブミラーやスクールゾーン等看板の取り付け、交通安全教室等を実施。 ・子どもの安全「かけこみ110番」の設置を推進。 ・青少年育成村民会議委員研修会の開催など。					
■到達目標 ・ハード・ソフト両面からの整備				■成果等 ・カーブミラーを設置し、交差点で確認しやすくなったとともに、交通安全教室等を開催し、交通安全意識の高揚が図られた。 ・「かけこみ110番」の、のぼりの設置により、子どもの安全対策において大きな啓発・抑止につながっていると考えられる。					
3)実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5)施策評価					
年度	実績	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成19年度	実績	報酬、需用費、工事請負費ほか	4,618	一般財源	平成19年度 施策評価 (庁内評価)	のびのびと遊べる環境や子どもの安全の確保のため重要度が高い B	C	C	C
平成20年度	予算	報酬、需用費、工事請負費ほか	2,585	一般財源					
平成21年度	計画	報酬、需用費、工事請負費ほか	2,500	一般財源	平成19年度 施策評価 (外部評価)				
平成22年度	計画	報酬、需用費、工事請負費ほか	2,500	一般財源					

第2章 健康で笑顔のある明るい家庭をつくろう			実施主体		(○)村直営 ()団体 ()その他		
4.次世代育成(子育て)支援対策	施	(P57)	実施期間	継続	団体等	村	
	策	⑦要保護児童等への対応					

平成20年度実施計画				平成19年度実施状況					
1)目的と到達目標		2)事業内容(具体的な施策)		4)平成19年度の施策の実施状況と成果・課題					
■目的 障害のある子どもやひとり親家庭など、特に配慮を必要とする子どもの健全育成を支援する。		◇児童虐待防止対策の充実 ◇ひとり親家庭等の自立支援の推進 ◇障害児施策の充実 ◇要保護児童対策地域協議会の運用		■実施状況 ・児童虐待事例への対応 ・要保護児童対策地域協議会(代表者会議・実務者会議・個別ケース会議)の開催 ・ひとり親家庭や障害児への支援 ■成果等 ・児童相談所、教育委員会、学校等関係機関と連携して、児童虐待事例への対応やひとり親家庭、障害児への支援を推進した。					
■到達目標 ・要保護児童への適切な対応				■課題 ・個人のプライバシーに十分配慮する必要がある。					
3)実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5)施策評価					
年度	実績	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成19年度	実績		—	一般財源	平成19年度 施策評価 (庁内評価)	特に配慮を必要とする子どもの健全育成支援は重要度が高い B	C	C	C
平成20年度	予算	報償費	20	国庫補助金 10 一般財源 10					
平成21年度	計画	報償費	20	国庫補助金 10 一般財源 10	平成19年度 施策評価 (外部評価)				
平成22年度	計画	報償費	20	国庫補助金 10 一般財源 10					

第2章 健康で笑顔のある明るい家庭をつくろう			実施主体	(○)村直営 ()団体 ()その他		
5.村営住宅・村営霊園 1)村営住宅	施 策	(P58) ①村営住宅の適正な管理	実施期間	継続	団体等	

平成20年度実施計画				平成19年度実施状況					
1)目的と到達目標		2)事業内容(具体的な施策)		4)平成19年度の施策の実施状況と成果・課題					
■目的 高齢者世帯など住宅に困窮している世帯に対して、良好な住環境を供給するため、適正な管理を行う。		◇村営住宅の適正な管理 ・住宅修繕 ・家賃改正		■実施状況 ・必要に応じて、住宅の修繕を行った。					
■到達目標 ・適正な家賃を設定し、徴収する。 ・必要に応じた住宅修繕を行う。				■成果等 ・必要に応じた修繕を行い、良好な住環境を提供できた。					
				■課題 ・築10年以上が経過し修繕箇所が増えている。					
3)実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5)施策評価					
年度	実績	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成19年度	実績	消耗品費、修繕費等	905	村営住宅使用料	平成19年度 施策評価 (庁内評価)	C	C	C	C
平成20年度	予算	消耗品費、修繕費等	462	村営住宅使用料					
平成21年度	計画	消耗品費、修繕費等	462	村営住宅使用料	平成19年度 施策評価 (外部評価)				
平成22年度	計画	消耗品費、修繕費等	462	村営住宅使用料					

第2章 健康で笑顔のある明るい家庭をつくろう		実施主体	(○)村直営 (○)団体 (○)その他		
5.村営住宅・村営霊園 2)村営霊園	施 策	(P58) ①村営霊園の適正な管理	実施期間	S53～継続	団体等 米子広域シルバー人材センター

平成 20 年度実施計画				平成 19 年度実施状況				
1)目的と到達目標		2)事業内容(具体的な施策)		4)平成19年度の施策の実施状況と成果・課題				
■目的 霊園の管理及び使用者の決定。 墓石等工作物の適正設置。		◇除草及び樹木の維持管理 ・(社)米子広域シルバー人材センターに委託 ◇ 使用者募集 ・4月に広報誌等により使用者募集 ◇工作物設置の指導		■実施状況 ・除草作業 8月、3月、使用者募集 4月				
■到達目標 ・除草及び樹木の維持管理 ・使用者募集 ・工作物設置の指導				■成果等 ・除草作業…盆と彼岸の前に実施することにより、気持ちよく墓参りが出来ている。使用者募集 2名購入。				
				■課題 ・約100区画分の未使用区画について、年1回の募集で良いのか検討する必要がある。 ・使用者が廃棄物を他の区画に放置するケースが発生している。何らかの対策を講じる必要がある。				
3)実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5)施策評価				
年度	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成 19 年度	実績 管理委託	373	一般財源	平成 19 年度 施策評価 (庁内評価)	C	C	未区画分の募集が 少なく課題が残り 改善の余地あり	C
平成 20 年度	予算 管理委託	373	一般財源					
平成 21 年度	計画 管理委託	373	一般財源	平成 19 年度 施策評価 (外部評価)				
平成 22 年度	計画 管理委託	373	一般財源					

<第3章 仕事を愛し情熱とほこりをもって働こう>

1. 農業および農村振興

施 策	担当課	P	備 考
①受委託推進と組織化	建設産業課	1	
②退職者等から担い手確保	建設産業課	2	
③村のシンボル・チューリップの維持	建設産業課	3	
④白ネギなど期待品目の振興	建設産業課	4	
⑤稲作維持と麦・大豆の転作	建設産業課	5	
⑥少量多品種で魅力ある農業振興	建設産業課	6	

2. 観光・村の魅力おこし

施 策	担当課	P	備 考
①広域的な観光基盤の振興	建設産業課	7	
②魅力あるむらづくりの振興	建設産業課	8	

3. 商業の振興

施 策	担当課	P	備 考
①土地利用計画との調整	建設産業課	9	
②小口融資等による支援	建設産業課	10	

4. 工業の振興

施 策	担当課	P	備 考
①既存事業所への支援・指導	建設産業課	11	
②小口融資等による支援	建設産業課	12	

第3章 仕事を愛し情熱とほこりをもって働こう			実施主体	(○)村直営 ()団体 ()その他		
1.農業および農村振興	施策	(P60) ①受委託推進と組織化	実施期間	H18～継続	団体等	

平成20年度実施計画				平成19年度実施状況					
1)目的と到達目標		2)事業内容(具体的な施策)		4)平成19年度の施策の実施状況と成果・課題					
■目的 兼業中心の農業経営、農業者の高齢化に対処し、さらに農業の振興を図る。		◇H19年に法人化した組織や規模拡大を目指す農家・団体への支援。 ・情報提供 ・助成事業の推進等		■実施状況 ・H19年に法人化した組織に対する情報提供及び助成事業の実施を行った。また、農作業受託等農業規模維持を目指す農家に対して情報提供を行っている。					
■到達目標 ・現状維持				■成果等 ・法人及び認定農業者に対し助成事業(単県事業)を行い、作物助成を行った。また、農作業を受託し、農業規模維持を目指す農家に助成事業の推進を行い、H20年度の実施に向けて、計画中である。					
				■課題 ・法人が設立されたことにより、他の農家での組織化の推進が難しくなった。また、農家の高齢化問題を考えると、作業受託等で規模拡大を目指す農家を育成したいところだが、法人との農地の貸借における競争にならないよう考慮が必要。					
3)実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5)施策評価					
年度		支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成19年度	実績	補助金	141	県補助金 70 一般財源 71	平成19年度 施策評価 (庁内評価)	条件的に厳しい本村農業の効率化と経営安定化を図るため重要度は高い B	C	C	C
平成20年度	予算	補助金	1,225	県補助金 612 一般財源 613					
平成21年度	計画	補助金	1,225	県補助金 612 一般財源 613	平成19年度 施策評価 (外部評価)				
平成22年度	計画	補助金	1,225	県補助金 612 一般財源 613					

第3章 仕事を愛し情熱とほこりをもって働こう		実施主体	(○)村直営 ()団体 ()その他		
1.農業および農村振興	施策	実施期間	H18～継続	団体等	
	(P60) ②退職者等から担い手確保				

平成20年度実施計画				平成19年度実施状況				
1)目的と到達目標		2)事業内容(具体的な施策)		4)平成19年度の施策の実施状況と成果・課題				
■目的 担い手を確保するため、農業外の事業所等を定年退職された意欲ある人の確保と支援に努める。		◇退職後農業を始めようとする人への支援。 ・情報提供、利用権設定等を利用した農地確保		■実施状況 ・担い手募集の広報を行っている。協議会等でも後継者の話題が出ており、村内でがんばり始めている後継者についての話をしている。				
■到達目標 ・現状維持				■成果等 ・協議会で最近がんばっておられる後継者の話題があり、その方を含めて農業に取り組んでいこうという話合いが行われた。				
				■課題 ・退職者農業といっても、家の農地を維持していただくだけで精一杯のところほとんど。 ・規模を拡大して担い手になるという意欲は、年齢的にも経験的にも非常に難しい。				
3)実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5)施策評価				
年度	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成19年度	実績	—		平成19年度 施策評価 (庁内評価)	C	担い手確保に繋がらず改善の余地あり D	C	C
平成20年度	予算	—						
平成21年度	計画	—		平成19年度 施策評価 (外部評価)				
平成22年度	計画	—						

第3章 仕事を愛し情熱とほこりをもって働こう			実施主体	()村直営 (○)団体 (○)その他		
1.農業および農村振興	施策	(P60) ③村のシンボル・チューリップの維持	実施期間	H18～継続	団体等	日吉津村チューリップ友の会等関係機関と連携

平成 20 年度実施計画				平成 19 年度実施状況					
1)目的と到達目標		2)事業内容(具体的な施策)		4)平成19年度の施策の実施状況と成果・課題					
■目的 栽培環境の変化から維持が困難になっているチューリップの村のシンボルイメージとしての維持を全体的な課題と位置づけ、総合的な見地から検討する。		◇栽培維持 ・村の花であるチューリップの栽培維持に関する検討を行う。		■実施状況 ・関係機関及び関係農家と協議を行った結果、有志農家組織へ村からの栽培作業委託を行い、約 25 畧の田にチューリップ栽培を行った。					
■到達目標 ・現状維持。				■成果等 ・本村のイメージでもあるチューリップの栽培を行うことができ、H20 年度のチューリップマラソンのコース付近にチューリップ畑をつくることができた。これにより、本村のイメージは H20 年度に関しては維持できたと考える。					
				■課題 ・球根という農作物としての花を観光イメージに起用したことから、利益が上がらず栽培困難になったチューリップの維持について、非農家も含め村全体の問題として考えていかなければならない。					
3)実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5)施策評価					
年度		支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成 19 年度	実績	委託料	2,500	一般財源	平成 19 年度 施策評価 (庁内評価)	村の花であるとともに貴重な観光資源を残していくため重要度が高い B	C	C	C
平成 20 年度	予算		—						
平成 21 年度	計画		—		平成 19 年度 施策評価 (外部評価)				
平成 22 年度	計画		—						

第3章 仕事を愛し情熱とほこりをもって働こう			実施主体	()村直営 (○)団体 (○)その他		
1.農業および農村振興	施策	(P60) ④白ネギなど期待品目の振興	実施期間	継続	団体等	JA 白ねぎ生産部、日吉津レディースらっきょうクラブ等関係機関と連携

平成 20 年度実施計画				平成 19 年度実施状況				
1) 目的と到達目標		2) 事業内容(具体的な施策)		4) 平成19年度の施策の実施状況と成果・課題				
■目的 県特産白ネギの生産性の向上や近年広がりつつあるらっきょうの生産の支援を行う。		◇白ねぎを国県助成事業の継続で、行うよう推進する。 ◇らっきょうを加工して商品化する取り組みの拡大計画あり。また、特定法人貸付事業の取り組みにより、生産規模の拡大を図る。 ◇生産に関して、期待品目として支援		■実施状況 ・白ねぎは水田農業推進協議会において国県の補助事業を引き続き行い、村単独事業としても、生産助成を行った。また、らっきょうは組織内において加工商品の多様化を検討中であり、販路の拡大が見込まれる。その他、H19 年度より特定法人貸付事業をスタートしている。				
■到達目標 ・現状維持。		・引き続き補助制度の紹介 ・利用権設定を利用した農地集積の情報提供を行う		■成果等 ・らっきょう作りに取組む組織とその加工品を国のイベントにて本村からの出店として紹介。知事表彰も受け、組織の宣伝の一助となった。また、特定法人貸付事業においても約 2ha の畑でらっきょうの栽培を行った。				
3) 実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5) 施策評価				
年度	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成 19 年度	補助金	200	一般財源	平成 19 年度 施策評価 (庁内評価)	C	C	C	C
平成 20 年度		—						
平成 21 年度	計画	—		平成 19 年度 施策評価 (外部評価)				
平成 22 年度	計画	—						

第3章 仕事を愛し情熱とほこりをもって働こう			実施主体	()村直営 (○)団体 (○)その他		
1.農業および農村振興	施策	(P60) ⑤稲作維持と麦・大豆の転作	実施期間	H18～継続	団体等	農事組合法人ひえづ等関係機関と連携

平成 20 年度実施計画				平成 19 年度実施状況					
1) 目的と到達目標		2) 事業内容(具体的な施策)		4) 平成19年度の施策の実施状況と成果・課題					
<p>■目的</p> <p>稲作の維持を図ると共に、生産することにより農業所得の向上を図り、生産調整にも効果を発揮する転作作物を推進する。</p> <p>■到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米の生産調整に協力する ・生産調整に不可欠な転作作物の振興を図る。 		<p>◇助成事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・村の転作作物の主力となっている麦・大豆の生産を主として行っている認定農業者及び生産組織に対し、助成を行う。 ・作業受託をすることによって稲作維持を行おうとする農家に対しても推進する。 		<p>■実施状況</p> <p>・転作作物の大豆を主体に生産する法人に対し、県の助成事業を推進。また、米の作業受託を行っている農家に対し、県の助成事業を紹介。</p> <p>■成果等</p> <p>・大豆を主に生産する法人が H19 年に設立され、法人としての経営がスタートしたが、H18 年度に比べ、あまり経営面積は増加しなかった。初年度であったこともあり、様々な検討・協議から H20 年度に向けては面積拡大が見込まれる。また、作業受託で稲作維持を目指す農家に対し、県の助成事業を紹介。現在、その事業計画を行っている。</p> <p>■課題</p> <p>・H19 年度からの大きな国策に乗っている大豆生産組織だが、あくまで国県等の交付金・助成事業で成り立っている。品質向上及び独自の販路開拓など自立する方向がなければ、施策方針等が変わった時に対応が困難。</p>					
3) 実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5) 施策評価					
年度		支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成 19 年度	実績	補助金	2,161	県補助金 40 一般財源 2,121	平成 19 年度 施策評価 (庁内評価)	C	C	C	農家の自立と品質向上には繋がっていない D
平成 20 年度	予算	補助金	3,090	県補助金 40 一般財源 3,050					
平成 21 年度	計画	補助金	3,090	県補助金 40 一般財源 3,050	平成 19 年度 施策評価 (外部評価)				
平成 22 年度	計画	補助金	3,090	県補助金 40 一般財源 3,050					

第3章 仕事を愛し情熱とほこりをもって働こう			実施主体	(○)村直営 ()団体 ()その他		
1.農業および農村振興	施策	(P60) ⑥少量多品種で魅力ある農業振興	実施期間	H18～継続	団体等	

平成20年度実施計画				平成19年度実施状況				
1)目的と到達目標		2)事業内容(具体的な施策)		4)平成19年度の施策の実施状況と成果・課題				
<p>■目的</p> <p>直接搬入・販売可能な販売所等の利用で生産意欲を高め、少量多品目を組み合わせた複合経営によって魅力ある農業を目指す。</p>		<p>◇生産意欲支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・規模が小さく、高齢化の進んでいる農家でも直接搬入できる販売所へ作物を出す等、生産意欲の高まりを支援。 ・これに合った複合経営も支援。 		<p>■実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農地の出し手・受け手の情報や県などの生産支援や資金関係の情報を提供。 				
<p>■到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状維持。 				<p>■成果等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JA アスパルへの出荷が行われている。 				
3)実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5)施策評価				
年度	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成19年度	実績	—		平成19年度 施策評価 (庁内評価)	C	C	C	C
平成20年度	予算	—						
平成21年度	計画	—		平成19年度 施策評価 (外部評価)				
平成22年度	計画	—						

第3章 仕事を愛し情熱とほこりをもって働こう			実施主体	(○)村直営 ()団体 ()その他		
2.観光・村の魅力おこし	施 策	(P61) ①広域的な観光基盤の振興	実施期間	H18～継続	団体等	

平成 20 年度実施計画				平成 19 年度実施状況				
1)目的と到達目標		2)事業内容(具体的な施策)		4)平成19年度の施策の実施状況と成果・課題				
<p>■目的</p> <p>交通機関の整備が進み、観光客導入の環境は整ってきた。これに伴う観光環境の整備を西部他市町と共に広域的に推進する。</p> <p>■到達目標</p> <p>・現状維持。</p>		<p>米子空港～韓国(ソウル)との定期航空路が宣伝され、定着したことに伴い観光事業を国際的に考え、外国語の取入等、観光基盤の受け入れ体制を整えていく。</p> <p>また、他市町とも連携を図り、相互に観光基盤の取組を参考としながら広域的な国際化を推進する。</p>		<p>■実施状況</p> <p>・次回案内看板設置及びパンフレット作成時には他国語の取り入れも検討。</p> <p>■成果等</p> <p>・県内市町村 PR サイトに参加し、他市町の情報の入手が行える。</p> <p>■課題</p> <p>・本村の観光としてPRできるものが無くなっていることから、広域で協働して宣伝を打つことが困難。また、海外との交通の利便性は高まっているものの、海外からの観光客と接する機会がない為、村民に国際化に対する意識が薄い。</p>				
3)実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5)施策評価				
年度	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成 19 年度	実績	—		平成 19 年度 施策評価 (庁内評価)	C	C	観光資源に乏しくPRの効果が薄い ため改善の余地がある D	広域連携は進んだが、 村の観光振興には効果が不十分 D
平成 20 年度	予算	—						
平成 21 年度	計画	—		平成 19 年度 施策評価 (外部評価)				
平成 22 年度	計画	—						

第3章 仕事を愛し情熱とほこりをもって働こう			実施主体	(○)村直営 ()団体 ()その他		
2.観光・村の魅力おこし	施策	(P61) ②魅力あるむらづくりの振興	実施期間	継続	団体等	

平成 20 年度実施計画				平成 19 年度実施状況				
1) 目的と到達目標		2) 事業内容(具体的な施策)		4) 平成19年度の施策の実施状況と成果・課題				
■目的 特別な観光拠点は無いが、自然あふれる本村の魅力をPRし、他から訪れる人にとって魅力ある場所となるよう努める。		◇高速道路が近い利便性を活かし、訪れる人に魅力ある村作りを進める。 ・本村の自然を活かした施設や季節のイベント等のPR		■実施状況 ・インターネット・メール等利用した県内市町村観光PRサイトへ引き続き参加。観光への問い合わせに対する村内施設のPR。				
■到達目標 ・観光拠点の開拓。				■成果等 ・県内市町村観光PRサイトへの参加により、他市町の観光情報及び村観光PRの機会が維持されている。				
				■課題 ・チューリップ畑という観光拠点が無いことから、窓口があっても提供できる情報がない状態が続いている。				
3) 実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5) 施策評価				
年度	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成19年度	実績	—		平成19年度 施策評価 (庁内評価)	C	C	観光資源に乏しくPRの効果薄い ため改善の余地がある D	観光資源としてチューリップの魅力が見直されつつある B
平成20年度	予算	—						
平成21年度	計画	—		平成19年度 施策評価 (外部評価)				
平成22年度	計画	—						

第3章 仕事を愛し情熱とほこりをもって働こう		実施主体	(○)村直営 ()団体 ()その他		
3.商業の振興	施策	①土地利用計画との調整	実施期間	H18～継続	団体等

平成20年度実施計画				平成19年度実施状況				
1)目的と到達目標		2)事業内容(具体的な施策)		4)平成19年度の施策の実施状況と成果・課題				
■目的 大型ショッピングセンターの影響もあり、交通の要所でもあることから、商業地としての振興を図る。		◇土地利用計画との整合を図りながら、商業地としての振興を図る。		■実施状況 ・国道近辺の土地を開発可能なところにする為、県との協議を行っている。				
■到達目標 ・現状維持。				■成果等 ・現在、農業振興地域内農用地において、近年の農業事情と交通の利便性等から考慮し、開発可能な地域とする為に県協議を行い、資料を作成している。				
3)実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5)施策評価				
年度	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成19年度	実績	—		平成19年度 施策評価 (庁内評価)	農地の保全と秩序ある土地利用(開発)の均衡を図るため重要度が高い B	C	具体的な整合までに至っていないため改善の余地がある D	C
平成20年度	予算	—						
平成21年度	計画	—		平成19年度 施策評価 (外部評価)				
平成22年度	計画	—						

第3章 仕事を愛し情熱とほこりをもって働こう			実施主体		
3.商業の振興	施 策	(P62) ②小口融資等による支援	()村直営 (○)団体 (○)その他		
			実施期間		
			S53～継続	団体等	商工会等関係組織と連携

平成 20 年度実施計画				平成 19 年度実施状況					
1) 目的と到達目標		2) 事業内容(具体的な施策)		4) 平成19年度の施策の実施状況と成果・課題					
<p>■目的</p> <p>景気回復の低迷が続く中、商工会を通じ融資制度を行うことによって、既存の企業・事業所の経営を支援する。</p>		<p>◇融資制度を行い、商工会を通じて既存企業や事業所の運営補助を行う。</p>		<p>■実施状況</p> <p>・小口融資制度によって、既存企業等の運営補助を行った。</p>					
<p>■到達目標</p> <p>・現状維持。</p>				<p>■成果等</p> <p>・小口融資制度によって、既存企業等の運営補助を行った。</p>					
				<p>■課題</p> <p>・金融機関融資の条件が厳しい中、小口融資制度は比較的受けやすい為、慎重な審査が必要。</p>					
3) 実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5) 施策評価					
年度		支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成 19 年度	実績	貸付金	9,557	一般財源	平成 19 年度 施策評価 (庁内評価)	C	C	C	C
平成 20 年度	予算	貸付金	10,000	一般財源					
平成 21 年度	計画	貸付金	10,000	一般財源	平成 19 年度 施策評価 (外部評価)				
平成 22 年度	計画	貸付金	10,000	一般財源					

第3章 仕事を愛し情熱とほこりをもって働こう			実施主体	(○)村直営 ()団体 ()その他		
4.工業の振興	施 策	(P62) ①既存事業所への支援・指導	実施期間	継続	団体等	

平成 20 年度実施計画				平成 19 年度実施状況				
1) 目的と到達目標		2) 事業内容(具体的な施策)		4) 平成19年度の施策の実施状況と成果・課題				
<p>■目的</p> <p>景気の低迷や高価な地価の影響で新規参入は見込薄であるが、地域経済に影響を持つ既存企業・事業所の支援・指導を行うことにより、地域との繋がりを深める。</p>		<p>◇地域経済に影響を持つ企業・事業所だが、一般住宅の中に近接していることから敬遠されがちな工業地域の支援・指導を行う。</p>		<p>■実施状況</p> <p>・農業への企業参入を可能にし、事業所の異業種参入の窓口を広げ、特別法人貸付事業によって地域の畑を借りて耕作を行った。貸借には村が仲介を行っている。</p>				
<p>■到達目標</p> <p>・現状維持。</p>				<p>■成果等</p> <p>・特別法人貸付事業によって、村内事業所が畑を行った。労働力不足によって耕作が難しくなった地域の農家から問い合わせ等あり、農地の遊休化を防ぐことができている。近隣農地の所有農家とも交流ができていると思われる。</p>				
3) 実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5) 施策評価				
年度	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成 19 年度	実績	—		平成 19 年度 施策評価 (庁内評価)	C	C	C	遊休農地の縮減
平成 20 年度	予算	—						
平成 21 年度	計画	—		平成 19 年度 施策評価 (外部評価)				
平成 22 年度	計画	—						

第3章 仕事を愛し情熱とほこりをもって働こう			実施主体		
4.工業の振興	施策	(P62)	()村直営 (○)団体 (○)その他		
		②小口融資等による支援	実施期間	S53～継続	団体等

平成20年度実施計画				平成19年度実施状況				
1)目的と到達目標		2)事業内容(具体的な施策)		4)平成19年度の施策の実施状況と成果・課題				
<p>■目的</p> <p>景気回復の低迷が続く中、商工会を通じ融資制度を行うことによって、既存の企業・事業所の経営を支援する。</p>		<p>◇融資制度を行い、商工会を通じて既存企業や事業所の運営補助を行う。</p>		<p>■実施状況</p> <p>・融資制度によって、既存企業・事業所等の運営補助を行った。</p>				
<p>■到達目標</p> <p>・現状維持</p>				<p>■成果等</p> <p>・融資制度によって、既存企業・事業所等の運営補助を行った。</p>				
3)実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5)施策評価				
年度	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成19年度	実績 貸付金	9,557	一般財源	平成19年度 施策評価 (庁内評価)	C	C	C	C
平成20年度		10,000	一般財源					
平成21年度		10,000	一般財源					
平成22年度		10,000	一般財源					

<第4章 自然を守り住みよい郷土をつくろう>

1. 土地利用計画の推進

施 策	担当課	P	備 考
①土地利用計画の実現／②快適な住環境整備	地域振興課	1	

2. 公園の運営・整備

施 策	担当課	P	備 考
①親しまれる公園づくり	地域振興課	2	
②地域活性化を目指した施設利用	地域振興課	3	
③適正な施設管理	地域振興課	4	

3. 道路の維持・整備

施 策	担当課	P	備 考
①主要幹線道路の改良	建設産業課	5	
②生活道路の改良と歩行者等保護	建設産業課	6	

4. 下水道の維持・普及

施 策	担当課	P	備 考
①全戸加入の推進	建設産業課	7	
②施設維持と費用の節減	建設産業課	8	

5. 廃棄物処理・リサイクル

施 策	担当課	P	備 考
①分別収集の推進	住民課	9	
②ゴミの減量化の推進	住民課	10	
③不法投棄の防止	住民課	11	

6. 環境にやさしい暮らし

施 策	担当課	P	備 考
①環境問題への関心	住民課	12	
②野外焼却の禁止	住民課	13	
③環境美化の推進	住民課	14	
④行政機関の取り組み	総務課	15	

7. 公害の防止

施 策	担当課	P	備 考
①環境保全協定の遵守	住民課	16	
②その他の苦情への指導	住民課	17	

8. 消防・防災体制と国民保護

施 策	担当課	P	備 考
①地域防災計画の具現化とマニュアルづくり	総務課	18	
②災害に備える体制の整備	総務課	19	
③自主防災組織の育成と訓練等の実施	総務課	20	
④消防団等防火体制の充実	総務課	21	
⑤国民保護法に基づく村民の安全対策	総務課	22	

9. 交通安全対策

施 策	担当課	P	備 考
①主要道路、とくに通学路を中心とした交通安全施設の整備	建設産業課	23	
②各年代に応じた交通安全教育の推進	建設産業課	24	
③交通安全運動の積極的な推進	建設産業課	25	

10. 安全・安心のむらづくり

施 策	担当課	P	備 考
①防犯ネットワークづくりの推進	住民課	26	
②防犯意識の高揚と防犯活動の促進	住民課	27	
③安心・安全のコミュニティづくりの推進	住民課	28	
④防犯灯等の整備	住民課	29	

第4章 自然を守り住みよい郷土をつくろう			実施主体	(○)村直営 ()団体 ()その他		
1.土地利用計画の推進	施策	(P65) ①土地利用計画の実現 ②快適な住環境整備	実施期間	H16～継続	団体等	

平成 20 年度実施計画				平成 19 年度実施状況					
1) 目的と到達目標		2) 事業内容(具体的な施策)		4) 平成19年度の施策の実施状況と成果・課題					
<p>■目的</p> <p>将来に向けての土地の有効な利用方法、次の世代に引き継ぐ本村の姿はどうあるべきかを、村民・行政が協働して策定した「土地利用計画」の実現に努める。</p> <p>■到達目標</p> <p>・米子境港都市計画区域マスタープランの見直し完了は、最短で平成22年10月であり、土地利用計画を反映させた見直しに向けて、関係機関との協議、調整を行う。</p>		<p>◇都市計画の上位計画で、県が定める米子境港都市計画区域マスタープランの見直しに着手</p> <p>◇地区計画の推進</p> <p>◇県内全域で「大規模集客施設適正立地広域ビジョン」を策定</p> <p>◇建築基準法上、道路として扱われないが、一定の基準を満たす場合に県が指定して道路として扱う「指定道路」の台帳を作成</p>		<p>■実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジャスコ増床に係る関係機関との協議、調整 ・米子境港都市計画基礎調査の実施 ・地区計画の検討 <p>■成果等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジャスコ増床計画に係る各種許認可の許可を受け、平成20年秋に増床オープン予定。 ・県が平成20年度に着手予定の「米子境港都市計画区域マスタープラン」の見直しの基礎資料となる都市計画基礎調査が完了した。 ・地区計画の候補地として数カ所が検討されている。 <p>■課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区域マスタープランの見直しにあたっては、県及び構成市町村との協議、調整が必要。 ・地区計画の推進及び地区計画制度の住民への周知 ・農業振興地域計画の強化(農振地域への開発を開発可能な区域へ誘導できないか) 					
3) 実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5) 施策評価					
年度	実績	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成19年度	実績	旅費、負担金等	141	一般財源	平成19年度 施策評価 (庁内評価)	村民・行政が協働で策定した土地利用計画の実現は重要度が極めて高い	ジャスコ増床の関係機関協議、調整に時間を要したが成果が高まった	ジャスコ増床が決定し、平成20年秋にオープン予定	村民との協働の取組みの成果につながる一歩
平成20年度	予算	旅費、負担金等	193	一般財源					
平成21年度	計画	旅費、負担金等	200	一般財源	平成19年度 施策評価 (外部評価)				
平成22年度	計画	旅費、負担金等	200	一般財源					

第4章 自然を守り住みよい郷土をつくろう			実施主体	(○)村直営 ()団体 ()その他		
2.公園の運営・整備	施 策	(P66) ①親しまれる公園づくり	実施期間	継続(公園 S61 ～、河川敷 H4～)	団体等	GG協会、TBG協会等

平成 20 年度実施計画				平成 19 年度実施状況					
1)目的と到達目標		2)事業内容(具体的な施策)		4)平成19年度の施策の実施状況と成果・課題					
<p>■目的</p> <p>公園の利用促進を図り、村民の憩いの場として子どもからお年寄りまで、親しまれる公園、体験学習・交流の場づくりに努める。</p> <p>■到達目標</p> <p>・公園の利用促進を図り、親しまれる公園、体験学習・交流の場づくりを目指す。</p>		<p>◇公園の利用促進</p> <ul style="list-style-type: none"> 幅広い年齢層の方が立ち寄りやすい環境づくり、イベント等を実施する。 <p>◇親しまれる公園づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 海浜運動公園および日野川河川敷運動広場(サッカー場・野球場・水辺の楽校)で、動植物の観察やスポーツ、レクリエーション、体験学習・交流の場などで利用いただけるよう働きかけ、親しまれる場所づくりに取り組む。 		<p>■実施状況</p> <p>・キャンプ場県民の日無料開放の他、各種教室(団体等の協力あり)を開催し、利用促進を図った。H19.3月から河川敷運動広場も都市公園に加え、特に「水辺の楽校」の利用促進を図るため、各種団体に呼びかけ意見交換会を開催。(12月)また、それを踏まえ国土交通省へも協議等実施。(利用延べ人数:公園 16,793 河川敷 10,263 水辺の楽校 3,929)</p> <p>■成果等</p> <p>・今年度で3回目となったキャンプ場無料開放は、村民に徐々に浸透し、利用者が年々増加。</p> <p>・グラウンドゴルフやテニス等の教室も人気。また、「水辺の楽校」の意見交換会では利用を想定したご意見や要望等を聞き、一部改善予定。(国土交通省へ要望済み)</p> <p>■課題</p> <p>・公園があることは知っていても利用したことのない人に、どのようにしたら気軽に立ち寄ってもらえるか。(海浜運動公園管理棟ロビーの有効活用等)</p> <p>・利用団体も施設の管理運営に関わる体制づくり。(管理運営委員会(仮称)の設置、開催)</p>					
3)実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5)施策評価					
年度	実績	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成19年度	実績	賃金、需用費等	8,402	一般3,690 雑入559 使用料4,153	平成19年度 施策評価 (庁内評価)	村民の憩いの場として今後に期待ができる	各種団体の自主イベントにより、利用者増		
平成20年度	予算	賃金、需用費等	7,887	一財3,411 雑入776 使用料3,700		B	B	C	C
平成21年度	計画	賃金、需用費等	9,190	一財4,610 雑入780 使用料3,800	平成19年度 施策評価 (外部評価)				
平成22年度	計画	賃金、需用費等	8,245	一財3,565 雑入780 使用料3,900					

第4章 自然を守り住みよい郷土をつくろう			実施主体	(○)村直営 ()団体 ()その他		
2.公園の運営・整備	施策	(P66) ②地域活性化を目指した施設利用	実施期間	継続(公園 S61 ～、河川敷 H4～)	団体等	24時間リレーマラソン実行委員会

平成20年度実施計画				平成19年度実施状況					
1)目的と到達目標		2)事業内容(具体的な施策)		4)平成19年度の施策の実施状況と成果・課題					
■目的 キャンプ場およびバンガローで、県外からの集客もできる施設の活用により、地域の活性化を目指す。		◇村外(県外)者の利用促進 ・ホームページの充実を図るとともに、口コミでのPRを図る。 ◇広告活動の充実 ・ホームページや村広報誌、各種雑誌掲載(無料広告)を利用して利用促進を行うとともに、パンフレット備え付けの場所を増やす。 ◇アウトドアレクリエーションの拠点 ・アウトドアレクリエーションの拠点を旨す。		■実施状況 ・ホームページや村広報誌等で広く情報発信をした。 ・業者による清掃等(バンガローの水周り、床ワックス)を実施し、イメージアップに努めた。 利用延べ人数:海浜運動公園 16,793 ■成果等 ・前年度と比較し、使用料が若干上回った。 ・24時間リレーマラソンを後援することにより、口コミのPR効果があった。					
■到達目標 ・利用促進を図り、使用料の増を図る。				■課題 ・今後、情報発信手段をどのように増やし、より一層の利用増につなげていくか。 ・新規利用者、リピーターの増をどのように図っていくか。					
3)実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5)施策評価					
年度	実績	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成19年度	実績	賃金、需用費等	8,402	一般3,690 雑入559 使用料4,153	平成19年度 施策評価 (庁内評価)	地域の活性化へ今後 に期待ができる		使用料増など目的 が達成された	
平成20年度	予算	賃金、需用費等	7,887	一財3,411 雑入776 使用料3,700		B	C	B	C
平成21年度	計画	賃金、需用費等	9,190	一財4,610 雑入780 使用料3,800	平成19年度 施策評価 (外部評価)				
平成22年度	計画	賃金、需用費等	8,245	一財3,565 雑入780 使用料3,900					

第4章 自然を守り住みよい郷土をつくろう			実施主体	(○)村直営 ()団体 ()その他		
2.公園の運営・整備	施 策	(P66) ③適正な施設管理	実施期間	継続(公園 S61 ～、河川敷 H4～)	団体等	

平成 20 年度実施計画				平成 19 年度実施状況					
1)目的と到達目標		2)事業内容(具体的な施策)		4)平成19年度の施策の実施状況と成果・課題					
■目的 当面は老朽化した施設や整備後長期経過した施設を、利用者のニーズを踏まえながら、必要により補修または修繕を行い、適正な管理運営に努める。 ■到達目標 ・キャンプ場内の危険箇所等の修繕を図る。		◇施設の適正管理 ・今後も引き継ぎ、施設の適正管理に努める。 ◇管理運営体制の見直し、検討 ・現在、管理人を雇い、施設の申込受付や施設内の維持管理を行っているが、将来的には指定管理者制度への移行も検討していく。		■実施状況 ・施設遊具、備品等の検査を実施(不備があれば補修)するなど、施設の適正管理に努めた。 ・7月14日から8月末までの利用者に対し、ニーズ調査を実施。(協力者18組) ■成果等 ・施設利用時の事故等はなく、安全にご利用いただけた。 ・利用者へのニーズ調査を実施し、その意見を参考にし、向上に努めた。 ■課題 ・テニスコートの老朽化など利用環境は悪くなっており、今後の整備をどうするか検討課題である。施設修繕費の確保に努め、良好な施設管理を行えるよう努める。 ・将来的に、指定管理者制度の導入に向け、各種団体等への働きかけを行い、NPO法人等の立ち上げを目指す。					
3)実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5)施策評価					
年度	実績	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成19年度	実績	賃金、需用費等	8,402	一般3,690 雑入559 使用料4,153	平成19年度 施策評価 (庁内評価)	利用促進を図る上で、施設の適正管理は重要度が高い	歳入より歳出が多く コストが低い		
平成20年度	予算	賃金、需用費等	7,887	一財3,411 雑入776 使用料3,700		B	D	C	C
平成21年度	計画	賃金、需用費等	9,190	一財4,610 雑入780 使用料3,800	平成19年度 施策評価 (外部評価)				
平成22年度	計画	賃金、需用費等	8,245	一財3,565 雑入780 使用料3,900					

第4章 自然を守り住みよい郷土をつくろう			実施主体		(○)村直営 ()団体 ()その他		
3.道路の維持・整備	施 策	(P66) ①主要幹線道路の改良	実施期間		H21～26年度	団体等	村

平成20年度実施計画				平成19年度実施状況					
1)目的と到達目標		2)事業内容(具体的な施策)		4)平成19年度の施策の実施状況と成果・課題					
■目的 交通量が急増している村道温泉線の後池橋を、交通安全面からも架け替えを行う。また、村の幹線道路を順次改良整備し、通交の円滑化を図る。		◇道路改良工事 ・村道温泉線の後池橋を幅員16.8mに拡幅、橋長16.8mに架け替え、全体道路延長約60m ・その接続道路の改良整備を行う。 ・村道環状線の延長1,020mの道路拡幅、改良工事を行う。		■実施状況 ・村道温泉線(県道、役場線各交差点)2箇所信号機設置を米子警察署等に要望中 ・村道温泉線・役場線交差点の外灯設置改修 ・地元自治会要望の早期対応(横断歩道(村道役場線・5号線交差点L字)の整備等)					
■到達目標 ・主要幹線道路の整備				■成果等 ・安全な道路利用 ・村幹線道路網整備					
				■課題 ・温泉線に信号機等の安全対策がなされなければ、工事着工への関係自治会の同意が得られない。 ・交通量の増加等により環状線の破損増加 財政、人的体制					
3)実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5)施策評価					
年度	実績	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成19年度	実績	—	—	—	平成19年度 施策評価 (庁内評価)	安全な道路利用は重要度が極めて高い A	C	C	C
平成20年度	予算	関係自治会協議 予算要求	—	—					
平成21年度	計画	実施設計	20,000	一般9,000 補助金11,000	平成19年度 施策評価 (外部評価)				
平成22年度	計画	橋梁工事、擦付道路 改修	130,000	一般6,500 補助金 65,000 起債58,500					

第4章 自然を守り住みよい郷土をつくろう		実施主体	(○)村直営 ()団体 ()その他		
3.道路の維持・整備	施 策	実施期間	継続	団体等	村
	(P67) ②生活道路の改良と歩行者等保護				

平成 20 年度実施計画				平成 19 年度実施状況					
1) 目的と到達目標		2) 事業内容(具体的な施策)			4) 平成19年度の施策の実施状況と成果・課題				
■目的 維持管理を徹底し、道路の安全と機能の長期化を図る		◇施工後かなりの年数が経っている村道の舗装修繕 ◇交通安全施設の設置 ◇道路の植栽の維持管理			■実施状況 ・村道環状線等舗装修繕 路肩修繕 L=525m ・村道陥没・舗装・目地修繕(約 50 箇所) 村道植栽等維持管理 1 式 ・交通安全施設設置 1 式 外灯設置 1 箇所 ■成果等 ・安全施設設置により交通事故の発生抑制に努めた。 ・敏速な対応で修繕箇所の増加を防いだ。 ・早期の修繕で橋(暗渠)の延命化に努めた。				
■到達目標 ・維持管理をし、施設の延命化を図る。 ・交通事故等の発生を防ぐ。					■課題 ・交通量の増加等により、村内に多数の修繕箇所が発生し、増加している。早急な整備により修繕箇所の増加を防止する必要がある。完成後かなりの年月が経過した橋梁を診断し、延命化する対策が必要となっている				
3) 実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)					5) 施策評価				
年度	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果	
平成 19 年度	実績 維持管理 道路舗装修繕	7,662	交通安全特別交付金 959 一般財源 6,703	平成 19 年度 施策評価 (庁内評価)	安全の確保と施設機能の長期化は重要度が高い B	早期修繕で施設の延命化を図った B	安全施設設置による事故発生抑制の効果あり B	C	
平成 20 年度	予算 維持管理 道路舗装修繕	6,596	交通安全特別交付金 801 一般財源 5,795						
平成 21 年度	計画 維持管理 道路舗装修繕	7,800	交通安全特別交付金 720 一般財源 7,080	平成 19 年度 施策評価 (外部評価)					
平成 22 年度	計画 維持管理 道路舗装修繕	7,800	交通安全特別交付金 650 一般財源 7,150						

第4章 自然を守り住みよい郷土をつくろう			実施主体	(○)村直営 ()団体 ()その他		
4.下水道の維持・普及	施 策	(P67) ①全戸加入の推進	実施期間	継続	団体等	

平成20年度実施計画				平成19年度実施状況					
1)目的と到達目標		2)事業内容(具体的な施策)		4)平成19年度の施策の実施状況と成果・課題					
■目的 一層の環境衛生推進等のため、水洗化の普及に努める。		◇下水道未接続世帯へ郵送によるアンケート調査を行なう。 ・概ね3年に1回、未接続の要因等調査		■実施状況 ・下水道未接続世帯 33 世帯(事業所を含む)に対し、アンケート調査を行なった。					
■到達目標 ・処理区域内全世帯の水洗化				■成果等 ・今後の下水道接続の意向や、現在の汚水処理方法及び接続できない要因を知ることができた。 ・数年前までは毎年行なっていたアンケート調査を、今回から3年に一度に変更した結果、前回よりもアンケート回収率が良かった。					
3)実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5)施策評価					
年度	実績	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成19年度	実績	役務費	5	一般財源	平成19年度 施策評価 (庁内評価)	C	C	C	C
平成20年度	予算		—						
平成21年度	計画		—		平成19年度 施策評価 (外部評価)				
平成22年度	計画	役務費	4	一般財源					

第4章 自然を守り住みよい郷土をつくろう			実施主体	(○)村直営 ()団体 ()その他		
4.下水道の維持・普及	施策	(P67) ②施設維持と費用の削減	実施期間	継続	団体等	

平成 20 年度実施計画				平成 19 年度実施状況					
1) 目的と到達目標		2) 事業内容(具体的な施策)		4) 平成19年度の施策の実施状況と成果・課題					
<p>■目的</p> <p>維持管理費削減のため、汚泥の減容化に努める。また、施設・設備を適正に管理し、施設機能の維持を図る。下水汚泥からコンポスト「西伯みのりの素」を作り、普及に努める。</p> <p>■到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・減容化も限界に近く、昨年並みの維持管理費削減必要。 ・修繕による施設機能の現状維持。 ・「西伯みのりの素」販売は、昨年並み。 		<ul style="list-style-type: none"> ◇民間業者との委託契約により、汚泥の減容化を行なう。 ◇施設・設備の修繕等を行なう。 ◇コンポスト「西伯みのりの素」の製造・普及を行なう。 		<p>■実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 17 年度から引き続いて、汚泥の減容化を行ない、必要に応じて、施設・設備の修繕等を行なった。また、南部町・大山町と共同で、「西伯みのりの素」を製造し販売を行なった。 <p>■成果等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 15 年度比で、維持管理費を約 4,200 千円削減と施設・設備の修繕により、施設機能を維持することができた。 ・「西伯みのりの素」を 1,100 千円販売することができた。 <p>■課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口の増加に伴う汚泥の増加により、コンポスト負担金が増加傾向にあり、今後の 2 町 1 村での汚泥発生量によっては、汚泥処理の方法などを検討必要。 ・民間業者との汚泥減溶化委託契約が平成 19 年度末までなので、平成 20 年度以降の減容化については検討必要。 ・施設等の老朽化のため、年々施設・設備の修繕が増えてきている。 ・量販店では、メーカーとの繋がり等から「西伯みのりの素」販路拡大の検討必要。 					
3) 実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5) 施策評価					
年度	実績	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成 19 年度	実績	施設修繕料、負担金	37,094	使用料、負担金	平成 19 年度 施策評価 (庁内評価)	C	C	C	C
平成 20 年度	予算	施設修繕料、負担金	39,215	使用料、負担金					
平成 21 年度	計画	施設修繕料、負担金	39,715	使用料、負担金	平成 19 年度 施策評価 (外部評価)				
平成 22 年度	計画	修繕、コンポスト負担金他	39,715	使用料、負担金					

第4章 自然を守り住みよい郷土をつくろう			実施主体	(○)村直営 ()団体 ()その他		
5.廃棄物処理・リサイクル	施策	(P68) ①分別収集の推進	実施期間	継続	団体等	

平成20年度実施計画				平成19年度実施状況					
1)目的と到達目標		2)事業内容(具体的な施策)		4)平成19年度の施策の実施状況と成果・課題					
<p>■目的 分別方法を検討し、資源ゴミの分別の充実を図る。</p> <p>■到達目標 ・分別品目、分別方法の検討及び実施。</p>		<p>◇分別品目、分別方法の検討及び実施 ・ゴミ問題を考える検討委員会で問題提起処理の方策について検討し方針をまとめる。また、検討した結果を各自治会に周知し、実施していく。</p>		<p>■実施状況 ・ゴミ問題を考える検討委員会 5月、9月、2月開催。</p> <p>■成果等 ・18年度廃棄物実態調査ではリサイクル率が県 15.7%に対し日吉津村は 46%の結果となっており、一般廃棄物における資源ゴミの割合は年々増加している。 ・住民の分別への意識も高まり、年々資源ゴミの収集実績が増加している。</p> <p>■課題 ・軟質プラスチック類、紙類、缶、ビン等の資源化できるものが、可燃及び不燃ゴミとして多く排出されている。広報等の周知に限らず、何らかの対策を講じる必要がある。</p>					
3)実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5)施策評価					
年度	実績	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成19年度	実績		—		平成19年度 施策評価 (庁内評価)	資源ごみの分別の充実を図る上で重要度が高い B	C	C	C
平成20年度	予算		—						
平成21年度	計画		—		平成19年度 施策評価 (外部評価)				
平成22年度	計画		—						

第4章 自然を守り住みよい郷土をつくろう			実施主体		
5.廃棄物処理・リサイクル	施 策	(P68) ②ごみの減量化の推進	(○)村直営 ()団体 ()その他		
			実施期間		H17～継続

平成20年度実施計画				平成19年度実施状況					
1)目的と到達目標		2)事業内容(具体的な施策)		4)平成19年度の施策の実施状況と成果・課題					
<p>■目的</p> <p>生ゴミの分別処理を中心に、減量化の方策を検証し、ゴミを減らす対策を講じる。</p> <p>また、減量化対策として「4R」を周知し、意識の高揚を図る。</p>		<p>◇生ゴミ処理機購入助成の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報誌、HPIによる周知 <p>◇コンポスト購入助成の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報誌、HPIによる周知 <p>◇試用生ゴミ処理機の貸し出し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報誌、HPIによる募集 <p>◇広報によるゴミ処理量や4Rの周知</p> <p>◇生ゴミ処理モデル事業の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冬季にモデル事業を実施 		<p>■実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生ゴミ処理機購入助成 2台 ・生ゴミ処理モデル事業(20世帯、6回の回収) 					
<p>■到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生ゴミ処理機購入助成の推進 ・コンポスト購入助成の推進 ・試用生ゴミ処理機の貸し出し ・広報によるゴミ処理量や4Rの周知 ・生ゴミ処理モデル事業の実施 		<p>■成果等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日吉津村の生ゴミ投入量の合計 534kgと米子市投入量との合計で、38袋の堆肥が出来上がった。なお、製品の品質及び効果については、農業試験場等にて栽培試験を実施している。 							
				<p>■課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生ゴミ処理モデル事業に関して、冬季に排出される生ゴミについても試験及び分析が必要。 					
3)実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5)施策評価					
年度	実績	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成19年度	実績	補助金、委託料等	376	一般財源	平成19年度 施策評価 (庁内評価)	可燃ゴミの減量化 対策として重要度 が高い B	C	C	モデル事業を通じて、減量化の意識が高まった B
平成20年度	予算	補助金	445	一般財源					
平成21年度	計画	補助金	110	一般財源	平成19年度 施策評価 (外部評価)				
平成22年度	計画	補助金	110	一般財源					

第4章 自然を守り住みよい郷土をつくろう			実施主体	(○)村直営 ()団体 ()その他		
5.廃棄物処理・リサイクル	施策	(P68) ③不法投棄の防止	実施期間	H18～継続	団体等	村

平成20年度実施計画				平成19年度実施状況				
1)目的と到達目標		2)事業内容(具体的な施策)		4)平成19年度の施策の実施状況と成果・課題				
■目的 不法投棄が頻発する日野川河川敷及び海岸線を重点に防止対策を講ずる。		◇県の廃棄物適正処理指導員等による重点地域のパトロール		■実施状況 ・海岸線に不法投棄防止用の網を設置。 ・不法投棄の処理件数 テレビ 2台、冷蔵庫 1台、エアコン 1台、バイク 1台、タイヤ 4本、バッテリー 3個				
■到達目標 ・不法投棄廃棄物の減少				■成果等 ・不法投棄物の捜索により、2名の投棄者の身元が判明し警察に通報。				
3)実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5)施策評価				
年度	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成19年度	実績 役務費	43	一般財源	平成19年度 施策評価 (庁内評価)	C	C	C	C
平成20年度		42	一般財源					
平成21年度		42	一般財源					
平成22年度		42	一般財源					
	計画			平成19年度 施策評価 (外部評価)				

第4章 自然を守り住みよい郷土をつくろう			実施主体		
6.環境にやさしい暮らし	施 策	(P70) ①環境問題への関心	(○)村直営 ()団体 ()その他		
			実施期間		継続

平成20年度実施計画				平成19年度実施状況				
1)目的と到達目標		2)事業内容(具体的な施策)		4)平成19年度の施策の実施状況と成果・課題				
■目的 地球にやさしい生活を目指し、さまざまな啓発活動を実施する。		◇村広報誌、CATVなどの広報媒体を活用した啓発活動 ・ふれあいフェスタでの啓発資料展示		■実施状況 ・ふれあいフェスタでの資料展示。				
■到達目標 ・村広報誌、CATVなどの広報媒体を活用した啓発活動				■成果等 ・環境問題への関心の高まりから、住民の環境への関心も高まっている。				
				■課題 ・年少時から環境問題に関心を持つことが重要であり、環境教育の推進が一層必要。				
3)実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5)施策評価				
年度	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成19年度	実績	—		平成19年度 施策評価 (庁内評価)	C	C	啓発活動や広報内容、目的意識に改善が必要 D	地域との連携不足 D
平成20年度	予算	—						
平成21年度	計画	—		平成19年度 施策評価 (外部評価)				
平成22年度	計画	—						

第4章 自然を守り住みよい郷土をつくろう			実施主体	(○)村直営 ()団体 ()その他		
6.環境にやさしい暮らし	施策	(P70) ②野外焼却の禁止	実施期間	H18～継続	団体等	

平成20年度実施計画				平成19年度実施状況					
1) 目的と到達目標		2) 事業内容(具体的な施策)		4) 平成19年度の施策の実施状況と成果・課題					
<p>■目的</p> <p>野外焼却に対する苦情が毎年数件寄せられている。ダイオキシン対策や苦情の無い環境を確立するため、啓発活動や現地指導を実施する。</p> <p>■到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報媒体による啓発活動 ・苦情に対する現地指導 		<p>◇広報媒体による啓発活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・村広報誌、CATV、防災無線等を活用し啓発を行なう。 <p>◇苦情に対する現地指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現地調査、現地確認を通じ、改善指導・勧告を行なう 		<p>■実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災無線放送 1回 <p>■成果等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原因者に焼却の中止を求め、直ちに効果があった。 <p>■課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野外焼却の根絶には時間が必要。今後も継続的に啓発活動や勧告を実施する。 					
3) 実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5) 施策評価					
年度	実績	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成19年度	実績		—		平成19年度 施策評価 (庁内評価)	C	C	C	C
平成20年度	予算		—						
平成21年度	計画		—		平成19年度 施策評価 (外部評価)				
平成22年度	計画		—						

第4章 自然を守り住みよい郷土をつくろう			実施主体	()村直営 (○)団体 (○)その他		
6.環境にやさしい暮らし	施策	(P70) ③環境美化の推進	実施期間	H11～継続	団体等	海岸クリーン作戦実行委員会

平成20年度実施計画				平成19年度実施状況					
1) 目的と到達目標		2) 事業内容(具体的な施策)		4) 平成19年度の施策の実施状況と成果・課題					
■目的 清掃活動を通じ、環境問題への関心を高める。		◇海岸クリーン作戦 ・チューリップマラソン実施前及び夏休み終了前の2回、海岸を中心としたクリーン作戦を実施 ◇ジャスコ主催「イオン・クリーンキャンペーン」への参加者募集 ・6月に実施される、ジャスコ主催の海岸清掃にあわせて、広報誌等により参加者を募集。		■実施状況 ・クリーン作戦4月、8月実施(各500人)					
■到達目標 ・海岸クリーン作戦の実施 ・ジャスコ主催「イオン・クリーンキャンペーン」への参加者募集				■成果等 ・1回の実施毎に軽トラック11台分以上のゴミが回収された。					
				■課題 ・清掃活動直後からゴミが散乱している。現状は、村内のボランティア活動により支えられており、車両の進入禁止等の抜本的な対策が必要。					
3) 実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5) 施策評価					
年度	実績	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成19年度	実績		—		平成19年度 施策評価 (庁内評価)	海岸の景観を保つ うえで重要度が高い			村の行事として定着
平成20年度	予算		—			B	C	C	B
平成21年度	計画		—		平成19年度 施策評価 (外部評価)				
平成22年度	計画		—						

第4章 自然を守り住みよい郷土をつくろう			実施主体	(○)村直営 ()団体 ()その他		
6.環境にやさしい暮らし	施策	(P70) ④行政機関の取り組み	実施期間	継続	団体等	

平成 20 年度実施計画				平成 19 年度実施状況				
1) 目的と到達目標		2) 事業内容(具体的な施策)		4) 平成19年度の施策の実施状況と成果・課題				
■目的 日吉津村地球温暖化対策実行計画の目標のとおり、行政が率先して温室効果ガスの排出を抑制する。		◇日吉津村地球温暖化対策実行計画達成 ・村の事務事業全般の見直し ・冷暖房の温度管理・消灯の徹底をする。		■実施状況 ・夏季・冬季の公共施設内の冷暖房の温度管理。消灯の徹底。ゴミの分別等によるゴミの減量化。エコ商品の購入。				
■到達目標 ・日吉津村地球温暖化対策実行計画の目標数値を達成する。		◇エコ商品の購入、ゴミの分別の徹底等によるゴミの減量化 ◇地球温暖化に対する研修会等の学習の場を設置 ・職員の意識の高揚を図る。		■成果等 ・冷暖房の温度管理、消灯の徹底により、温室効果ガスのみならず、経費の削減にも繋がった。また、ごみの減量化、リサイクルの実施により負担金、購入費等を減らすことができた。				
				■課題 ・昨年の猛暑により、前年比の光熱費が増加。出先機関の取組がまだまだ足りていない。各施設にも責任者が必要。職員間でも地球温暖化に対する意識の違いがある。				
3) 実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5) 施策評価				
年度	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成 19 年度	実績	-		平成 19 年度 施策評価 (庁内評価)	行政が率先する取り組みは村民への啓発にもなり重要度が高い B	予算はなかったが職員への取り組みにより実施できた B	C	C
平成 20 年度	予算	-						
平成 21 年度	計画	-		平成 19 年度 施策評価 (外部評価)				
平成 22 年度	計画	-						

第4章 自然を守り住みよい郷土をつくろう			実施主体	(○)村直営 ()団体 ()その他		
7.公害の防止	施策	(P71) ①環境保全協定の遵守	実施期間	継続	団体等	村

平成20年度実施計画				平成19年度実施状況					
1)目的と到達目標		2)事業内容(具体的な施策)		4)平成19年度の施策の実施状況と成果・課題					
■目的 環境保全協定を交わしている王子製紙及びジャスコに対し、基準が遵守されているか定期的な測定により監視する。		◇協定項目の定期測定 ・王子製紙 悪臭検査、騒音測定、硫酸化物測定、降下ばいじん測定(年12回) 排水水質検査(2ヶ月に1回) 排水臭気検査、ばい煙測定(年2回) ・ジャスコ 浄化槽排水水質検査(年3回)		■実施状況 ・王子製紙 過去にばい煙排出量が協定値超過を超過していたことが判明。(7月報告) 高濃度アルカリ液流出事故(7月)、10号ボイラ窒素酸化物協定値超過(12月)。 ・ジャスコ 浄化槽排出水の浮遊物質量が協定値を超過(8月)					
■到達目標 ・協定項目の定期測定 王子製紙、ジャスコ				■成果等 ・定期検査の実施により、基準や協定値について検証が出来ている。 ・王子製紙との環境保全協定を一部改正し、窒素酸化物許容値を時間値に指定し、報告の義務についても明確にした。					
				■課題 ・10号ボイラでの事故が相次いでいる、引き続き定期測定を実施すると共に、報告を受けた改善措置についても現地確認等を行う。					
3)実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5)施策評価					
年度	実績	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成19年度	実績	委託料等	1,347	一般財源	平成19年度 施策評価 (庁内評価)	環境保全のための定期的な測定による監視は重要度が高い B	C	C	C
平成20年度	予算	委託料等	1,340	一般財源					
平成21年度	計画	委託料等	1,340	一般財源	平成19年度 施策評価 (外部評価)				
平成22年度	計画	委託料等	1,340	一般財源					

第4章 自然を守り住みよい郷土をつくろう			実施主体	(○)村直営 ()団体 ()その他		
7.公害の防止	施策	(P72) ②その他の苦情への指導	実施期間	H18～継続	団体等	

平成20年度実施計画				平成19年度実施状況					
1)目的と到達目標		2)事業内容(具体的な施策)		4)平成19年度の施策の実施状況と成果・課題					
■目的 法律等に基づく明確な基準の無い苦情や、基準があっても基準値以下の苦情に対して、現状を把握し、自治会や他団体の協力を得ながら和解出来る対策を講じる。		◇苦情解決 ・苦情の内容の把握、現地指導等を経て、協力団体の指導を仰ぎながら和解策を講ずる。		■実施状況 ・生活排水関係 1件 ・騒音 2件 ・廃棄物関係 4件					
■到達目標 ・苦情解決				■成果等 ・苦情の申し出によるものは全て解決。					
				■課題 ・生活様式の変化や個人の価値観の相違により、今後も苦情の増加が予想されることから、苦情対策処理担当も高度な知識の習得が求められる。					
3)実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5)施策評価					
年度	実績	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成19年度	実績		—		平成19年度 施策評価 (庁内評価)	苦情への和解策を講じることは重要度が高い B	C	C	C
平成20年度	予算		—						
平成21年度	計画		—		平成19年度 施策評価 (外部評価)				
平成22年度	計画		—						

第4章 自然を守り住みよい郷土をつくろう			実施主体		
8.消防・防災体制と国民保護	施 策	(P72)	()村直営 (○)団体 (○)その他		
		①地域防災計画の具現化とマニュアルづくり	実施期間	H18～継続	団体等

平成20年度実施計画				平成19年度実施状況					
1)目的と到達目標		2)事業内容(具体的な施策)		4)平成19年度の施策の実施状況と成果・課題					
<p>■目的</p> <p>災害時に住民が自分の役割を認識し、行政と連携して迅速な対応ができるような体制を作ること。</p> <p>■到達目標</p> <p>・災害時(震災・風水害・火災)に実効性のある対応が迅速にとれるようマニュアルを作成する。</p>		<p>◇住民非難マニュアルの作成</p> <p>・地域防災計画、国民保護法に基づき、各自治会のマニュアル作成。また、役員会、意見交換会等を実施する。</p> <p>・住民非難マニュアルを受けて、適宜「地域防災計画」の見直しを図る。</p>		<p>■実施状況</p> <p>・日上2の「住民非難マニュアル」が完成した。</p> <p>・日上1、今吉自治会において「住民非難マニュアル」の作成に取り掛かった。</p> <p>■成果等</p> <p>・日上2の「住民非難マニュアル」が完成した。</p> <p>■課題</p> <p>・訓練等を実施し、「住民非難マニュアル」の実用性を高める。</p> <p>・「地域防災計画」の見直しを図る。</p>					
3)実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5)施策評価					
年度	実績	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成19年度	実績		—		平成19年度 施策評価 (庁内評価)	自治会での防災体制の確立は重要度が高い B	予算はないがマニュアルを完成できた。 B	日上2自治会のマニュアル作成という成果があった B	完成マニュアルをもとに他自治会も動き出した B
平成20年度	予算		—						
平成21年度	計画	マニュアル印刷	100		平成19年度 施策評価 (外部評価)				
平成22年度	計画	マニュアル印刷	100						

第4章 自然を守り住みよい郷土をつくろう			実施主体	(○)村直営 ()団体 ()その他		
8.消防・防災体制と国民保護	施策	(P72) ②災害に備える体制の整備	実施期間	H18～継続	団体等	

平成20年度実施計画				平成19年度実施状況					
1)目的と到達目標		2)事業内容(具体的な施策)		4)平成19年度の施策の実施状況と成果・課題					
■目的 災害時における避難所の体制について、充実・整備を図る。		◇物資の備蓄と保管場所確保 ・非常用の食料、生活必需品などの物資の備蓄と保管場所の確保に努める。		■実施状況 ・日上2自治会において防災倉庫の設置に取り組んだ。					
■到達目標 ・備蓄倉庫等の保管場所の確保とその充実を図る。				■成果等 ・日上2自治会で防災倉庫、リヤカー、発電機などを整備した。					
3)実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5)施策評価					
年度	実績	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成19年度	実績	備品購入	1,100	宝くじ助成事業	平成19年度 施策評価 (庁内評価)	災害に備える体制整備は重要度が高い	自主防災組織との意見交換会で人的繋がりが生まれた	日上2自治会で防災倉庫が完成した	全自治会で防災組織設立に向けての取り組みが始まる
平成20年度	予算		—			B	B	B	B
平成21年度	計画	備品購入	1,500	宝くじ助成事業	平成19年度 施策評価 (外部評価)				
平成22年度	計画		—						

第4章 自然を守り住みよい郷土をつくろう			実施主体	(○)村直営 ()団体 ()その他		
8.消防・防災体制と国民保護	施策	(P72) ③自主防災組織の育成と訓練等の実施	実施期間	H18～継続	団体等	各自治会自主防災組織

平成20年度実施計画				平成19年度実施状況					
1)目的と到達目標		2)事業内容(具体的な施策)		4)平成19年度の施策の実施状況と成果・課題					
■目的 火災発生時の初期対応の要として自主防災組織の育成を図る。また、防災訓練を実施し、火災発生時の対応の実効性を高める。		◇自治会、自主防災組織への情報提供。 ◇消化訓練の実施。 ◇資材の提供(消火ホース、格納箱等) ◇各消火栓の点検(立上式、地下式) ◇救急救命等の講習の検討		■実施状況 ・日上1、日上2、日下自治会において消火訓練を実施。(消火器使用) ・古くなった消防資材の交換。					
■到達目標 ・各自治会で消化訓練等を実施する。(村消防団・西部広域消防局)				■成果等 ・各自治会の住民20～30名が参加。ほぼ全員に消火器の使用を体験してもらった。(西部広域消防局に訓練用消火器を貸してもらった)					
3)実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5)施策評価					
年度	実績	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成19年度	実績	備品購入費	214	一般財源(交付金)	平成19年度 施策評価 (庁内評価)	自主防災組織の育成は、重要性が極めて高い A	C	3自治会しか訓練が実施できていない D	C
平成20年度	予算	備品購入費	431	一般財源					
平成21年度	計画	備品購入費	431	一般財源	平成19年度 施策評価 (外部評価)				
平成22年度	計画	備品購入費	431	一般財源					

第4章 自然を守り住みよい郷土をつくろう			実施主体	(○)村直営 ()団体 ()その他		
8.消防・防災体制と国民保護	施 策	(P73) ④消防団等防火体制の充実	実施期間	H18～継続	団体等	

平成20年度実施計画				平成19年度実施状況					
1)目的と到達目標		2)事業内容(具体的な施策)		4)平成19年度の施策の実施状況と成果・課題					
■目的 防災体制の充実と整備、消防団の育成を図る。		◇消防団員の確保(広報による募集) ◇資器材、消火栓等の整備 ◇火災予防週間における啓発活動		■実施状況 ・消防団員の確保 ・防災訓練、水出し訓練、操法訓練 ・啓発活動(消防車での村内巡回)					
■到達目標 ・消防団員の充実と資器材充実を図る。				■成果等 ・女性団員2名、男性団員1名の入団 ・鳥取県西部消防ポンプ操法大会準優勝 ・平成19年度の火災発生件数0件					
				■課題 ・団員数が条例定数35名に未到達。更なる団員確保に努める。 ・自治会を通して、各自治会でのバランスの良い団員の配置。					
3)実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5)施策評価					
年度		支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成19年度	実績	報酬、費用弁償等	4085	一般財源	平成19年度 施策評価 (庁内評価)	C	C	女性団員の入団があり、火災発生も0件数だった	C
平成20年度	予算	報酬、費用弁償等	4,671	一般財源					
平成21年度	計画	報酬、費用弁償等	4,671	一般財源	平成19年度 施策評価 (外部評価)				
平成22年度	計画	報酬、費用弁償等	4,671	一般財源					

第4章 自然を守り住みよい郷土をつくろう			実施主体	(○)村直営 ()団体 ()その他		
8.消防・防災体制と国民保護	施策	(P73) ⑤国民保護法に基づく村民の安全対策	実施期間	H18～継続	団体等	

平成20年度実施計画				平成19年度実施状況					
1)目的と到達目標		2)事業内容(具体的な施策)		4)平成19年度の施策の実施状況と成果・課題					
<p>■目的</p> <p>テロ等の武力攻撃事態に対し、住民の避難をいかに行うか、関係機関と連携して行う避難誘導等の手順を定めた「避難マニュアル」の作成し、計画の推進を行う。</p> <p>■到達目標</p> <p>・県の「避難マニュアル」が完成次第、関係機関と連携して行う避難誘導等の手順を定めた「避難マニュアル」の作成。村民の国民保護への関心を高める</p>		<p>◇国民保護計画に基づき体制の整備を進める。</p> <p>◇広報等により国民保護について住民への啓発活動を行う。</p> <p>◇「避難マニュアル」の作成</p> <p>・県の避難マニュアルが完成次第、それに沿った具体的に運用できるもの</p>		<p>■実施状況</p> <p>・平成18年度完成の国民保護計画の広報及びホームページによる公表。</p> <p>・日上2自治会の「住民避難マニュアル」に国民保護を盛り込んだ。</p> <p>■成果等</p> <p>・策定した国民保護計画の議会への報告。</p> <p>・国民保護を盛り込んだ上2自治会の「住民避難マニュアル」の完成。</p> <p>■課題</p> <p>・有事の際の職員体制のマニュアル、避難マニュアル作成、訓練の実施、住民への啓発活動。</p>					
3)実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5)施策評価					
年度		支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成19年度	実績	旅費等	15	一般財源	平成19年度 施策評価 (庁内評価)	有事の際の住民避難マニュアル作成は重要度が高い B	協議会としての活動なし D	避難マニュアル、職員の体制の整備が必要 D	C
平成20年度	予算	報酬費、旅費等	84	一般財源					
平成21年度	計画	報酬費、旅費等	84	一般財源	平成19年度 施策評価 (外部評価)				
平成22年度	計画	報酬費、旅費等	84	一般財源					

第4章 自然を守り住みよい郷土をつくろう		実施主体	(○)村直営 ()団体 ()その他		
9.交通安全対策	施 策	(P73) ①主要道路、とくに通学路を中心とした交通安全施設の整備	実施期間	継続	団体等

平成 20 年度実施計画				平成 19 年度実施状況				
1)目的と到達目標		2)事業内容(具体的な施策)		4)平成19年度の施策の実施状況と成果・課題				
■目的 交通事故から村民を守るため、道路等の交通安全施設を整備し、事故に遭わないようにする。		◇村内の主要道路、特に通学路を中心に交通安全施設の整備・点検の実施 ・役場を中心に交通安全協会と連携をとり実施。		■実施状況 ・カーブミラーの取付け(海川) ・各交通安全運動期間中の交通安全施設点検(ガードパイプ 60m 及び看板の設置) ・交差点等路面表示(23箇所)及び一時停止表示 ■成果等 ・地域住民の要望によりカーブミラーを付け、交差点で確認し易くなったとの評価を受けた。また、風や車両によるものと思われるカーブミラーの歪みは随時修正を行った。 ・宮川沿い(富吉線)転落防止用ガードパイプの継続設置は自治会よりの要望であり一定の表を得ている。				
■到達目標 ・現状維持				■課題 ・ジャスコ付近で相変わらず事故が起きており、施設整備にも限界が感じられる。運転者の意識改善が必要だが、対象が不特定多数で難しい。少しでも運転者の注意を喚起する工夫が必要。				
3)実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5)施策評価				
年度	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成 19 年度	実績 工事請負費	2,308	一般財源	平成 19 年度 施策評価 (庁内評価)	交通事故防止のための自治会要望の最重要案件で重要度は極めて高い A	C	年次的・計画的に進め、転落防止策として成果があった B	歩道もなく、人・車等通行量が多い中で、安全施設整備施策として好感 A
平成 20 年度	予算 工事請負費	1,675	一般財源					
平成 21 年度	計画 工事請負費	1,500	一般財源	平成 19 年度 施策評価 (外部評価)				
平成 22 年度	計画 工事請負費	1,500	一般財源					

第4章 自然を守り住みよい郷土をつくろう		実施主体	()村直営 (○)団体 (○)その他		
9.交通安全対策	施策	(P73) ②各年代に応じた交通安全教育の推進	実施期間	継続	団体等 交通安全協会

平成20年度実施計画				平成19年度実施状況					
1)目的と到達目標		2)事業内容(具体的な施策)		4)平成19年度の施策の実施状況と成果・課題					
<p>■目的 交通安全教育を通じてひとりでも多くの村民の交通安全意識を高め、事故を減少させる。</p> <p>■到達目標 ・村内外に関わらず、村民の交通事故件数の減少。</p>		<p>◇交通安全協会を中心に関係各機関と連携を取りながら、村民の交通安全意識を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝の通園・通学時の該当指導 ・各年代に応じた交通安全教室を実施 		<p>■実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校交通安全教室(5/2) ・保育所交通安全教室(7/13) ・各交通安全運動期間中の街頭指導・自転車指導及び交通安全広報活動 <p>■成果等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校・保育所で交通安全教室を行い、交通安全意識を高めるようにした。 ・朝の街頭指導により児童・生徒だけでなく、車の運転者にも安全意識の啓発を行った。 <p>■課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通安全教室を行っても指導内容がマンネリ化し、関心がなかなか向かない。人形や機材を使用して警察署も工夫をしているが、高齢者や保護者の安全意識も徹底しておらず、子どもに示す家庭の交通安全意識の改善が必要と思われる。 					
3)実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5)施策評価					
年度	実績	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成19年度	実績	報酬 587 備品 1278 旅費・需用費等 265	2,310	一般財源	平成19年度 施策評価 (庁内評価)	児童・高齢者等をはじめ、交通安全意識の高揚は重要度が極めて高い	経費的には不要(ボランティア的な性格で事業を実施)だが成果あり		
平成20年度	予算	報酬 587 旅費・需用費等 323	910	一般財源		A	A	C	C
平成21年度	計画	報酬 587 旅費・需用費等 413	1,000	一般財源	平成19年度 施策評価 (外部評価)				
平成22年度	計画	報酬 587 旅費・需用費等 413	1,000	一般財源					

第4章 自然を守り住みよい郷土をつくろう		実施主体	()村直営 (○)団体 (○)その他		
9.交通安全対策	施 策	(P74) ③交通安全運動の積極的な推進	実施期間	継続	団体等 交通安全協会

平成 20 年度実施計画				平成 19 年度実施状況					
1) 目的と到達目標		2) 事業内容(具体的な施策)		4) 平成19年度の施策の実施状況と成果・課題					
<p>■目的</p> <p>年4回の交通安全運動を積極的に推進することにより、村民がより一層交通安全に関心を持ってもらえるようにする。</p> <p>■到達目標</p> <p>・村内外に関わらず、村民の交通事故件数の減少。</p>		<p>◇村民の交通安全意識を高める。</p> <p>・年4回の交通安全運動での街頭広報・街頭指導・防災無線による広報等</p> <p>・引き続き、交通死亡事故ゼロ更新11年継続中。</p>		<p>■実施状況</p> <p>・交通安全運動期間中防災無線を流し、街頭広報(5/17、7/18、9/26、12/17)を行った。また、9号線の信号設置・通行方向の指定やジャスコ工事に伴う交通規制及び注意の広告を新聞の折り込みで行った。</p> <p>・交通安全指導車(ミニパト)の新規更新を図った。</p> <p>■成果等</p> <p>・街頭広報時にはチラシだけでなく、反射材も配布して夜間の安全対策の意識啓発を行った。また、9号線の信号機設置に伴う折り込み広告は村内だけではなく、米子市住民からも問い合わせがあった。</p> <p>■課題</p> <p>・街頭広報・防災無線のマンネリ化。歩行者・自動車だけでなく、自転車にも交通安全を意識してもらえよう、工夫が必要。</p>					
3) 実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5) 施策評価					
年度		支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成19年度	実績	報酬 587 備品 1278 旅費・需用費等 265	2,310	一般財源	平成19年度 施策評価 (庁内評価)	交通安全運動の積極的な推進は村民の関心ごととして重要度が極めて高い A	C	11年間交通死亡事故ゼロ期間更新中 (12年目に突入)	交通事故防止のため、住民・企業等による自主的な安全施設の整備が進められた B
平成20年度	予算	報酬 587 旅費・需用費等 323	910	一般財源					
平成21年度	計画	報酬 587 旅費・需用費等 413	1,000	一般財源	平成19年度 施策評価 (外部評価)				
平成22年度	計画	報酬 587 旅費・需用費等 413	1,000	一般財源					

第4章 自然を守り住みよい郷土をつくろう			実施主体		
10.安全・安心のむらづくり	施 策	(P74) ①防犯ネットワークづくりの推進	()村直営 ()団体 ()その他		
			実施期間		村内各種団体等
			H18～継続	団体等	

平成20年度実施計画				平成19年度実施状況				
1)目的と到達目標		2)事業内容(具体的な施策)		4)平成19年度の施策の実施状況と成果・課題				
■目的 役場、駐在所、各機関・団体などがそれぞれの立場で連携しあいながら、危険情報の共有化やネットワーク化を図る。		◇警察から委嘱されている団体等との連携や危険情報の共有化を図る。 ・防犯連絡所 ・日吉津駐在所連絡協議会 ・小・中PTA ・青少年育成団体		■実施状況 ・防犯連絡所 6箇所 ・日吉津駐在所連絡協議会 会員23名 事務局 駐在所 ・子どもの安全「かけこみ110番」の設置と推進				
■到達目標 ・関係機関との危険情報の共有化				■成果等 ・連絡会の開催により、危険情報の共有化が図られた。 ・かけこみ110番ののぼりの設置により、子どもの安全対策において、大きな啓発・抑止に繋がっていると考えられる。				
3)実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5)施策評価				
年度	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成19年度	実績	—		平成19年度 施策評価 (庁内評価)	危険情報の共有化は重要度が高い B	C	C	C
平成20年度	予算	—						
平成21年度	計画	—		平成19年度 施策評価 (外部評価)				
平成22年度	計画	—						

第4章 自然を守り住みよい郷土をつくろう			実施主体	(○)村直営 ()団体 ()その他		
10.安全・安心のむらづくり	施策	(P75) ②防犯意識の高揚と防犯活動の推進	実施期間	H18～継続	団体等	防犯関係団体等

平成20年度実施計画				平成19年度実施状況					
1)目的と到達目標		2)事業内容(具体的な施策)		4)平成19年度の施策の実施状況と成果・課題					
■目的 防犯意識の高揚を図り、地域ぐるみの暴力追放や青少年非行防止活動を促進する。		◇防犯意識の高揚を図り、地域ぐるみの暴力追放や青少年の非行防止活動など各種防犯活動を促進する。 ・広報誌や各種イベント等		■実施状況 ・青少年育成村民会議委員研修会の開催(10月) ・少年非行防止フォーラムへの後援及び参加(11月)					
■到達目標 ・各種防犯活動の推進				■成果等 ・地域でこどもを守り、育てていくため、青少年の健全育成に係わる組織が連携し、更なる青少年健全育成の活性化を図った。					
				■課題 ・地域ぐるみでの防犯意識の高揚が求められることから、広報・啓発活動を積極的に実施する必要がある。					
3)実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5)施策評価					
年度	実績	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成19年度	実績		—		平成19年度 施策評価 (庁内評価)	暴力追放や非行防止活動の促進のため重要度が高い		主體的活動実態は無く、活動も不十分	
平成20年度	予算		—			B	C	D	C
平成21年度	計画		—		平成19年度 施策評価 (外部評価)				
平成22年度	計画		—						

第4章 自然を守り住みよい郷土をつくろう			実施主体	(○)村直営 ()団体 ()その他		
10.安全・安心のむらづくり	施策	(P75) ③安心・安全のコミュニティづくりの推進	実施期間	H18～継続	団体等	各自治会

平成 20 年度実施計画				平成 19 年度実施状況					
1) 目的と到達目標		2) 事業内容(具体的な施策)		4) 平成19年度の施策の実施状況と成果・課題					
<p>■目的</p> <p>一人ひとりが地域の課題に関心を持ち、それぞれが何らかの役割を果たしながら、地域の安全を守る取組みをすすめ、暖かな関係や地域づくりを推進する。</p> <p>■到達目標</p> <p>・安心・安全な地域社会の実現</p>		<p>◇日吉津村生活安全条例の理念を実現する事業及び住民がそれぞれの責務を認識し、役割を分担しながら、共に安全で安心な地域社会の実現を目指す</p> <p>・意識づくり、組織づくり、運動づくりに取り組む。</p>		<p>■実施状況</p> <p>・地域のコミュニティ計画づくりの大きなテーマのひとつとして情報提供した。</p> <p>■成果等</p> <p>・富吉や今吉、日上 2 などでは、重要なテーマとして検討協議され、見守り活動などが実施されつつある。</p> <p>・箕蚊帳中学校区安全推進委員会及び小学校PTA安全見守り隊への支援を行なうことで、青色回転灯パトロール、安全マップづくりなど子どもの安全対策が推進できた。</p> <p>■課題</p> <p>・アパートが多数新設され、自治会に加入されない居住者も増加している。顔の見えるコミュニティ形成のため、地域の繋がりを重視した取組みを講じる必要がある。</p>					
3) 実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5) 施策評価					
年度	実績	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成 19 年度	実績		—		平成 19 年度 施策評価 (庁内評価)	地域の安全を守る取組みは地域づくり推進のため重要度が高い	自主活動により活動が展開されている	C	C
平成 20 年度	予算		—						
平成 21 年度	計画		—		平成 19 年度 施策評価 (外部評価)				
平成 22 年度	計画		—						

第4章 自然を守り住みよい郷土をつくろう			実施主体	(○)村直営 ()団体 ()その他		
10.安全・安心のむらづくり	施策	(P75) ④防犯灯等の整備	実施期間	継続	団体等	各自治会

平成20年度実施計画				平成19年度実施状況					
1) 目的と到達目標		2) 事業内容(具体的な施策)		4) 平成19年度の施策の実施状況と成果・課題					
<p>■目的</p> <p>住民ニーズの多様化や犯罪への不安増加により、毎年防犯灯の新設要望が寄せられている。防犯灯の設置は、優先性を検討しつつ整備に努める。</p>		<p>◇防犯灯(蛍光灯)、街路灯(水銀灯)の設置及び維持管理</p> <p>・20年度以降の5カ年にて、各自治会毎に蛍光灯の灯具すべてを新しいものと交換。</p>		<p>■実施状況</p> <p>・電気代 1,056円</p> <p>・修繕料 585円</p>					
<p>■到達目標</p> <p>・防犯灯(蛍光灯)、街路灯(水銀灯)の設置及び維持管理</p>				<p>■成果等</p> <p>・防犯灯を修繕することにより、地域住民が安心して生活できる。</p>					
3) 実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5) 施策評価					
年度	実績	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成19年度	実績	需用費	1,640	一般財源	平成19年度 施策評価 (庁内評価)	C	C	修繕依頼に迅速に対応出来た	C
平成20年度	予算	需用費	1,928	一般財源					
平成21年度	計画	需用費	1,928	一般財源	平成19年度 施策評価 (外部評価)				
平成22年度	計画	需用費	1,928	一般財源					

<第5章 進んで学び、明日の文化を築こう>

1. 新しい地域創造・コミュニティづくり

施 策	担当課	P	備 考
①コミュニティ計画づくりの推進	地域振興課	1	
②自治公民館の積極的活用	総務課	2	

2. 地域特性を活かした活性化

施 策	担当課	P	備 考
①海浜運動公園の利用促進	地域振興課	3	
②国道431号沿線を中心とした活性化	地域振興課	4	
③村内外に発信する活性化イベント	地域振興課	5	
④ケーブルテレビを活用したむらづくり	地域振興課	6	

3. 国際理解・交流と国内地域間交流

1)国際理解・交流

施 策	担当課	P	備 考
①国際交流協会等への支援と国際理解の推進	地域振興課	7	
②内なる国際化の推進と交流	地域振興課	8	

2)国内地域間交流

施 策	担当課	P	備 考
①交流連携による地域力の向上	地域振興課	9	

4. 地域情報化と電子自治体の推進

施 策	担当課	P	備 考
①ケーブルテレビによる情報提供	地域振興課	10	
②電子自治体への体制づくり	総務課	11	
〃 (ホームページ)	地域振興課	12	
③個人情報の保護	総務課	13	

第5章 進んで学び、明日の文化を築こう			実施主体	(○)村直営 ()団体 ()その他		
1.新しい地域創造・コミュニティづくり	施策	(P78) ①コミュニティ計画づくりの推進	実施期間	H16～継続	団体等	各地区の推進組織と連携

平成 20 年度実施計画				平成 19 年度実施状況						
1)目的と到達目標		2)事業内容(具体的な施策)		4)平成19年度の施策の実施状況と成果・課題						
<p>■目的</p> <p>一人でも多くの村民が、地域コミュニティに関心を持ち、自ら地域の将来を考える取り組みとして、自治会毎の「コミュニティ計画づくり」を推進する。</p> <p>■到達目標</p> <p>・支援スタッフを見直し、未着手への働きかけや情報提供を行う</p> <p>・取り組みが継続された地域の「コミュニティ計画」の作成を支援する</p>		<p>◇地域づくりアドバイザー事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 自治会毎のコミュニティ推進委員会への指導・助言など <p>◇むらづくり実践交流集会の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> コミュニティ計画づくりの推進のための講演会 コミュニティ推進委員会の実践発表 		<p>■実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> むらづくり実践交流集会(3/22)を実施…コミュニティの必要性や参画と協働の意義の再確認及び自治基本条例の策定状況報告を行った。 日上2が「住民避難マニュアル」の作成、配布(H20.1月)。 今吉「暖談塾」も子育て支援や災害時の避難体制づくりに着手。 <p>■成果等</p> <ul style="list-style-type: none"> 住民避難マニュアルの作成により、災害発生時の自主的な対応に地区住民が戸惑うことなく、助け合えるような意識付けが出来た。 住民の手づくりによるマニュアルの完成で、コミュニティ組織の重要性が再確認できた。 <p>■課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 未着手の地区もあり、村民全体への浸透には至っていない。村としての「支援スタッフ」も含め、この取り組みの再認識を図る必要がある。 						
3)実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5)施策評価						
年度	実績	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果	
平成 19 年度	実績	補助金等	27	一般財源 27	平成 19 年度 施策評価 (庁内評価)	参画と協働によりコミュニティ推進は重要度が極めて高い	A	C	引き続きコミュニティ推進組織が取組まれている	コミュニティの推進とともに自治基本条例に着手
平成 20 年度	予算	報償費、補助金等	698	特定財源 300 一般財源 398						
平成 21 年度	計画	補助金等	350	一般財源 350	平成 19 年度 施策評価 (外部評価)					
平成 22 年度	計画	補助金等	350	一般財源 350						

第5章 進んで学び、明日の文化を築こう			実施主体		()村直営 (○)団体 (○)その他		
1.新しい地域創造・コミュニティづくり	施策	(P78) ②自治会公民館の積極的活用	実施期間		H19～23年度	団体等	各自治会

平成20年度実施計画				平成19年度実施状況					
1)目的と到達目標		2)事業内容(具体的な施策)		4)平成19年度の施策の実施状況と成果・課題					
■目的 自治会公民館の部分的な改良によるバリアフリー化経費を助成し、高齢者等でも利用しやすい施設とし、自治会公民館活動を助長する。		◇平成20年度実施予定の自治会公民館(下口、今吉)バリアフリー化事業基準 ・助成対象経費 公民館を利用する際、車椅子等での利用ができるようにするための改修工事に係る費用 ・助成基準 事業費の3分の2補助(補助上限200万円)		■実施状況 ・日上2自治会が公民館のトイレの改修、段差解消、手摺の設置等を行い、バリアフリー化の改修工事を行った。					
■到達目標 ・下口、今吉自治会が公民館のバリアフリー化事業を計画(H20年度)				■成果等 ・日上2公民館のバリアフリー化工事により、車椅子や高齢者の方でも利用しやすいようトイレの改修、段差の解消、手摺の設置、車椅子に乗ったまま公民館へ入れるようスロープの設置を行った。					
3)実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5)施策評価					
年度		支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成19年度	実績	補助金	1,983	一般財源	平成19年度 施策評価 (庁内評価)	利用しやすい公民館とし自治会公民館活動を助長するため重要度が高い B	C	C	C
平成20年度	予算	補助金	4,000	一般財源					
平成21年度	計画	補助金	2,000	一般財源	平成19年度 施策評価 (外部評価)				
平成22年度	計画	補助金	2,000	一般財源					

第5章 進んで学び、明日の文化を築こう			実施主体	(○)村直営 ()団体 ()その他		
2.地域特性を活かした活性化	施策	(P82) ①海浜運動公園の利用促進	実施期間	継続(公園 S61 ～、河川敷 H4～)	団体等	

平成 20 年度実施計画				平成 19 年度実施状況					
1) 目的と到達目標		2) 事業内容(具体的な施策)		4) 平成19年度の施策の実施状況と成果・課題					
<p>■目的</p> <p>村の木である黒松林が美しい海浜運動公園を、たくさんの方に多目的に利用していただくため、利用促進に努める。</p> <p>■到達目標</p> <p>海浜運動公園のより一層の利用促進に努める。</p>		<p>◇施設の利用促進</p> <ul style="list-style-type: none"> 海浜運動公園は、財源の問題から施設の拡充については現在休止しているものの、キャンプ場や多目的な広場でのレクリエーション活動は広がりつつある。特にバンガローは年間を通じて利用がある。周辺および県外からのアクセスの良さ等から、将来に期待できる施設として、今後も活用に努める。 		<p>■実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ホームページや村広報誌等で広く情報発信をした。 業者による清掃等(バンガローの水周り、床ワックス)を実施し、イメージアップに努めた。 利用延べ人数:海浜運動公園 16,793 <p>■成果等</p> <ul style="list-style-type: none"> 前年度と比較し、使用料が若干上回った。 24時間リレーマラソンを後援することにより、ロコモのPR効果があった。 グラウンドゴルフの利用者(団体)を増やした。(うなばら荘とも連携したプランで利用者を増やした。) <p>■課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後、情報発信手段をどのように増やし、利用増につなげていくか。 新規利用者、リピーターの増をどのように図っていくか。 					
3) 実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5) 施策評価					
年度	実績	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成 19 年度	実績	賃金、需用費等	8,402	一般 3,690 雑入 559 使用料 4,153	平成 19 年度 施策評価 (庁内評価)	今後も利用促進に 期待ができる		利用人数等が増加し 目的が達成され た	
平成 20 年度	予算	賃金、需用費等	6,205	使用料 3,700 雑入 416 一般 2,090		B	C	B	C
平成 21 年度	計画	賃金、需用費等	7,508	使用料 3,800 雑入 420 一般 3,288	平成 19 年度 施策評価 (外部評価)				
平成 22 年度	計画	賃金、需用費等	6,563	使用料 3,900 雑入 420 一般 2,243					

第5章 進んで学び、明日の文化を築こう			実施主体	(○)村直営 ()団体 ()その他		
2.地域特性を活かした活性化	施策	(P82) ②国道431号沿線を中心とした活性化	実施期間	H18～継続	団体等	

平成20年度実施計画				平成19年度実施状況				
1)目的と到達目標		2)事業内容(具体的な施策)		4)平成19年度の施策の実施状況と成果・課題				
■目的 県西部の玄関口という恵まれた位置環境を活かし、国道431号沿道を中心とした活性化を図る。		◇地区計画の推進 ◇都市計画の上位計画で、県が定める米子境港都市計画区域マスタープランの見直しに着手する ◇県内全域で「大規模集客施設適正立地広域ビジョン」を策定する		■実施状況 ・ジャスコ増床に係る関係機関との協議、調整 ・米子境港都市計画基礎調査の実施 ・地区計画の検討				
■到達目標 ・国道431号沿道は、土地利用計画で商業区域として位置付けられており、本計画に基づき、沿道の活性化を図る。				■成果等 ・ジャスコ増床計画に係る各種許認可の許可を受け、平成20年秋に増床オープン予定。 ・県が平成20年度に着手予定の「米子境港都市計画区域マスタープラン」の見直しの基礎資料となる都市計画基礎調査が完了した。 ・地区計画の候補地として数カ所が検討されている。				
				■課題 ・区域マスタープランの見直しにあたっては、県及び構成市町村との協議、調整が必要。 ・地区計画の推進及び地区計画制度の住民への周知				
3)実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5)施策評価				
年度	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成19年度	実績	—		平成19年度 施策評価 (庁内評価)	国道431号沿道を中心とした活性化は重要度が極めて高い A	ジャスコ増床の関係機関協議、調整に時間を要したが成果が高まった B	ジャスコ増床が決定し、平成20年秋にオープン予定 A	C
平成20年度	予算	—						
平成21年度	計画	—		平成19年度 施策評価 (外部評価)				
平成22年度	計画	—						

第5章 進んで学び、明日の文化を築こう			実施主体	()村直営 (○)団体 (○)その他		
2.地域特性を活かした活性化	施策	(P82) ③村内外に発信する活性化イベント	実施期間	H19～継続	団体等	イカダレース実行委員会

平成 20 年度実施計画				平成 19 年度実施状況				
1) 目的と到達目標		2) 事業内容(具体的な施策)		4) 平成19年度の施策の実施状況と成果・課題				
<p>■目的</p> <p>水辺の楽校を中心にイベントなど交流の場を設け、村内外からの参加者を得て地域の活性化を図る</p> <p>■到達目標</p> <p>・イベントの開催に向けた、実行団体等との協議。</p> <p>・水辺の楽校の活用について、各団体や村民を交えて検討。</p>		<p>◇イベントの開催(水辺の楽校)</p> <p>・日野川まつりイカダレース実行委員会を中心として、イベントの企画・実施</p> <p>・その他の各種団体によるイベントを支援</p>		<p>■実施状況</p> <p>・水辺の楽校の整備が完了し、チューリップマラソンの開催やターゲットバードゴルフ全国大会の誘致が実施された。</p> <p>■成果等</p> <p>・イカダレースは未実施。</p> <p>■課題</p> <p>・水辺の楽校を活かした、日野川まつりイカダレースなどのイベントの企画検討が必要。併せて、実行委員会などスタッフの掘り起しが必要。</p>				
3) 実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5) 施策評価				
年度	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成 19 年度	実績	-		平成 19 年度 施策評価 (庁内評価)	水辺の楽校を中心とした、村内外の人の交流の場は重要度が高い B	C	イカダレースは未実施。実行委員会等掘り起こし課題 D	C
平成 20 年度	予算 補助金	100	一般財源					
平成 21 年度	計画 補助金	100	一般財源	平成 19 年度 施策評価 (外部評価)				
平成 22 年度	計画 補助金	100	一般財源					

第5章 進んで学び、明日の文化を築こう			実施主体		(○)村直営 ()団体 ()その他		
2.地域特性を活かした活性化	施策	(P83) ④ケーブルテレビを活用したむらづくり	実施期間	H14～継続	団体等	(株)中海テレビ放送	

平成 20 年度実施計画				平成 19 年度実施状況					
1) 目的と到達目標		2) 事業内容(具体的な施策)		4) 平成19年度の施策の実施状況と成果・課題					
<p>■目的</p> <p>ケーブルテレビの活用をすすめ、村民参加による番組作りや情報を発信する。</p> <p>■到達目標</p> <p>・村民が多く出演する番組づくり。 ・村の施策などについて分かりやすく情報提供する。</p>		<p>本村の独自のチャンネル(3チャンネル)を活用し、30分程度の自主制作による番組づくりを村民参加のもと、すすめる(村民が多く出演する番組づくりや、村の施策についてわかりやすく説明する番組づくり)。</p> <p>・毎週1本 30分程度の番組を自主制作。</p> <p>・議会中継(年4回の定例会の開会日、一般質問)</p>		<p>■実施状況</p> <p>・村民が多く出演する番組づくりに取り組む。 ・チューリップマラソン、子ども会活動、老人クラブ活動、各自治会コミュニティ活動、村敬老会、村民運動会、TBG全国大会、消防団活動選挙期日前投票のお知らせ 等</p> <p>■成果等</p> <p>・村民が多く出演する番組づくりに心がけ、特に小学校の学習活動について紹介した。 ・キャンプ場の紹介や、期日前投票のお知らせなど、村からの広報番組を放送した。 ・視聴者から「字幕の内容が良い」「BGMが良い」等の感想をいただいている。</p> <p>■課題</p> <p>・村の施策などの情報を、具体的な映像で紹介する広報番組づくりを。 ・村民に関心を持って見ていただけるような、解りやすい番組づくり。</p>					
3) 実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5) 施策評価					
年度	実績	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成19年度	実績	委託料等	2080	一般財源	平成19年度 施策評価 (庁内評価)	村民の地域活動等を分かりやすく伝えることは重要度が極めて高い A	中海テレビへ委託する事で、最少人数・経費で実施できた B	毎週1本30分番組の編集について定着出来た。 B	C
平成20年度	予算	委託料等	2,080	一般財源					
平成21年度	計画	委託料等	2,080	一般財源	平成19年度 施策評価 (外部評価)				
平成22年度	計画	委託料等	2,080	一般財源					

第5章 進んで学び、明日の文化を築こう		実施主体	()村直営 (○)団体 (○)その他		
3.国際理解・交流と国内地域間交流	施	(P83)	実施期間	H元～継続	団体等
1)国際理解・交流	策	①国際交流協会等への支援と国際理解の推進			

平成20年度実施計画				平成19年度実施状況				
1)目的と到達目標		2)事業内容(具体的な施策)		4)平成19年度の施策の実施状況と成果・課題				
<p>■目的</p> <p>村民の国際理解がすすむよう、国際交流協会を中心に、各種・各層の交流事業を実施する。</p> <p>■到達目標</p> <p>・協会の活動が村民に周知され、理解を得られるように、講演などイベントを企画した際にCATVや広報等によりPRするなど、村として支援する。</p>		<p>◇村国際交流協会(会員37名)を中心に各種事業へ取り組む。</p> <p>・講師等を招いて韓国等の国際理解の講座や交流活動、語学講座を開催する。</p> <p>◇ふれあいフェスタにおいて、活動の紹介展示。</p> <p>◇ハローほうき国際交流フェスティバルに参加し、バザー等に参加。</p>		<p>■実施状況</p> <p>・韓国語講座の開催(受講者19名)。 ・ふれあいフェスタでの活動紹介展示。 ・ベトナム旅行の前に講師を招いて研修会を開催(参加者16名)。 ・ベトナム研修旅行(18名参加) ・ハローほうき国際フェスティバルへの参加(出店などで4名参加)。</p> <p>■成果等</p> <p>・韓国語講座は受講者に好評である。 ・ベトナム研修旅行は国際交流協会員により企画し、無事に実行できた。</p> <p>■課題</p> <p>・事務局は役場職員が担当している。事務局を含め自主運営が望まれる。 ・5部会に分かれて部会制をとっているが、一度も部会を開かないところも。 ・全般的に活動への会員の参加率が低い。</p>				
3)実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5)施策評価				
年度	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成19年度	実績 補助金	4	一般財源	平成19年度 施策評価 (庁内評価)	国際交流・国際理解は今後の人づくりの点からも重要度が高い B	事務局を自主運営としたいが、実現できていない D	年々活動が少なく なり、補助金も使い 切れてない D	C
平成20年度	予算 補助金	40	一般財源					
平成21年度	計画 補助金	40	一般財源	平成19年度 施策評価 (外部評価)				
平成22年度	計画 補助金	40	一般財源					

第5章 進んで学び、明日の文化を築こう			実施主体	(○)村直営 ()団体 ()その他		
3.国際理解・交流と国内地域間交流 1)国際理解・交流	施策	(P83) ②内なる国際化の推進と交流	実施期間	継続	団体等	

平成20年度実施計画				平成19年度実施状況				
1)目的と到達目標		2)事業内容(具体的な施策)		4)平成19年度の施策の実施状況と成果・課題				
■目的 諸外国を理解し、村民の国際人権感覚を醸成させる。		◇内なる国際理解を進めるよう、講座の開催等の実施 ・県からの国際交流員の派遣 ◇希望者を対象に韓国語講座を開催 ◇国や各種団体から送られてくる国際貢献事業などの紹介。		■実施状況 ・韓国語講座、ベトナム研修会、ハローほうき国際交流フェスティバルの参加 ・ふれあいフェスタにおいて、活動紹介展示 ・ベトナム研修旅行の実施				
■到達目標 ・国際交流協会の海外研修旅行をイベントなどで紹介し、参加者が直に感じてきた体験を村民に知っていただき、国際理解を推進する。				■成果等 ・韓国語講座は受講者に好評で、10回の講座が終了した後、延長講座を7回実施した。 ・ベトナム研修旅行に行った人から感想文の提出をしてもらい、日本とは違う文化や外国の貧困の状況を見たりし、感じることも多かったようだ。				
3)実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5)施策評価				
年度	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成19年度	実績	-		平成19年度 施策評価 (庁内評価)	村民の国際人権感覚の醸成は重要度が高い B	C	特段の取り組みが 図れなかった D	C
平成20年度	予算	-						
平成21年度	計画	-		平成19年度 施策評価 (外部評価)				
平成22年度	計画	-						

第5章 進んで学び、明日の文化を築こう			実施主体	(○)村直営 ()団体 ()その他		
3.国際理解・交流と国内地域間交流	施	(P84)	実施期間	継続	団体等	
2)国内地域間交流	策	①交流連携による地域力の向上				

平成 20 年度実施計画				平成 19 年度実施状況					
1)目的と到達目標		2)事業内容(具体的な施策)		4)平成19年度の施策の実施状況と成果・課題					
<p>■目的</p> <p>交流人口の増加などを踏まえ、住民自治の先進地との連携や民間地域間交流の推進を図る。</p>		<p>◇本村の地域活動および各種施策の実現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自立の地域活動について、先進的な市町村との交流活動を推進し、今後の実現に活かす 		<p>■実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治基本条例に関する取り組みについて、先進地を視察 11/25 朝来市(旧生野町) 2/6.7 名張市、米原市 					
<p>■到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先進地との情報交換の機会をつくり、適宜交流活動につなげる 				<p>■成果等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先進地視察を実施し、今後の参考となる情報が得られた。 					
				<p>■課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先進地視察は実施したが、交流活動とはしていない。 ・多くの村民が参加する交流活動に、着手できていない。 					
3)実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5)施策評価					
年度	実績	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成 19 年度	実績	旅費	99		平成 19 年度 施策評価 (庁内評価)	先進地との連携や民間地域間交流の推進は重要度が高い B	C	先進地視察は実施したが、適宜交流活動ができていない D	C
平成 20 年度	予算		-						
平成 21 年度	計画		-		平成 19 年度 施策評価 (外部評価)				
平成 22 年度	計画		-						

第5章 進んで学び、明日の文化を築こう			実施主体		(○)村直営 ()団体 ()その他		
4.地域情報化と電子自治体の推進	施策	(P85) ①ケーブルテレビによる情報提供	実施期間	H14～継続	団体等	(株)中海テレビ放送	

平成 20 年度実施計画				平成 19 年度実施状況					
1)目的と到達目標		2)事業内容(具体的な施策)		4)平成19年度の施策の実施状況と成果・課題					
<p>■目的</p> <p>情報化社会への対応を目指し、ケーブルテレビの村専用チャンネルを設け、村議会中継や自主制作放送等の番組を発信する。</p>		<p>◇日吉津 3 チャンネルにて、映像放送及び文字放送の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イベント、村民活動、保育所、小学校、福祉等 <p>◇番組を繰り返し放送</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的には 30 分、番組内容によっては 1 時間のもを制作し、1 週間同じものを放送 <p>◇議会中継を中海放送に委託</p>		<p>■実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イベント、村民活動、文字放送などで 30 分または 1 時間の番組を制作し、1 週間繰り返し放送する。 ・地域アドバイザー事業、遊休農地対策事業、ゴミ処理の説明、村づくり推進大会、子育て支援センターの活動、等。 					
<p>■到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・村の施策などを村民にわかりやすく紹介する。 				<p>■成果等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・村民が多く出演する番組づくりに心がけ、取り組む。 ・キャンプ場の紹介や、期日前投票のお知らせなど、村からの広報番組を行なった。 ・視聴者から「字幕の内容が良い」「BGMが良い」等の感想をいただいている 					
<p>■課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・村の施策などの情報を、具体的な映像で紹介する広報番組づくりを。 ・村民に関心を持って見ていただけるような、解りやすい番組づくり。 									
3)実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5)施策評価					
年度	実績	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成 19 年度	実績	委託料等	2,080	一般財源	平成 19 年度 施策評価 (庁内評価)	行政サービス等の 情報発信は重要度 が極めて高い A	C	C	C
平成 20 年度	予算	委託料等	2,080	一般財源					
平成 21 年度	計画	委託料等	2,080	一般財源	平成 19 年度 施策評価 (外部評価)				
平成 22 年度	計画	委託料等	2,080	一般財源					

第5章 進んで学び、明日の文化を築こう			実施主体	(○)村直営 ()団体 ()その他		
4.地域情報化と電子自治体の推進	施策	(P85) ②電子自治体への体制づくり	実施期間	継続	団体等	

平成20年度実施計画				平成19年度実施状況					
1)目的と到達目標		2)事業内容(具体的な施策)		4)平成19年度の施策の実施状況と成果・課題					
■目的 ユビキタス社会に向けての情報基盤整備に努める。		◇電子申請、電子決裁等電子自治体への体制づくりのための基盤整備。		■実施状況 ・電子自治体への体制づくりのための検討を鳥取県情報センターや県下の市町と行った。					
■到達目標 ・電子自治体体制への基盤整備				■成果等 ・電子自治体への体制づくりのための検討を鳥取県情報センターや県下の市町と行ないシステムを共同利用できないか検討をおこなった。					
				■課題 ・県下の市町と合同で取り組む方が経済的と思うが、国の電子自治体への指針に基づき、OSやシステムの再構築を検討する必要がある。					
3)実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5)施策評価					
年度	実績	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成19年度	実績		-		平成19年度 施策評価 (庁内評価)	電子自治体への取り組みは重要度が高い B	C	C	
平成20年度	予算		-						
平成21年度	計画	電子申告システム	20,000	一般財源	平成19年度 施策評価 (外部評価)				
平成22年度	計画	電子決済システム	20,000	一般財源					

第5章 進んで学び、明日の文化を築こう		実施主体	(○)村直営 ()団体 ()その他		
4.地域情報化と電子自治体の推進	施策	実施期間	H15～継続	団体等	
	(P85) ②電子自治体への体制づくり(ホームページ)				

平成20年度実施計画				平成19年度実施状況				
1)目的と到達目標		2)事業内容(具体的な施策)		4)平成19年度の施策の実施状況と成果・課題				
■目的 行政サービスの電子化を進めるとともに、情報発信と情報開示、さらには電子自治体への体制づくりを進める。		◇掲載内容のさらなる充実(追加・更新等)を行い、情報公開度を高める。 ・予算書、決算書の掲載 ・各種施策の推進状況の掲載 ・村例規集の掲載 ◇各種手続の電子化の推進を図る。		■実施状況 ・平成19年10月に、アクセシビリティ(高齢や障害の有無にかかわらず、誰でもホームページを通じて情報が得られる環境)向上のためにホームページをリニューアルした。				
■到達目標 ・利用者サイドから利用しやすいホームページづくりと行政からの情報提供の充実を目指す。				■成果等 ・アクセシビリティが向上した。 ・操作が簡単な専用ソフト、及び各課がタイムリーに更新できるシステムの導入により、追加・更新作業の迅速性の向上が図られた。 ・掲載内容の充実と各種申請様式を掲載することにより、利便性の向上が図られた。				
3)実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5)施策評価				
年度	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成19年度	実績 委託料他	404	一般財源	平成19年度 施策評価 (庁内評価)	ホームページは情報発信手段として重要度が極めて高い A	専用ソフト導入により、追加・更新作業の迅速性向上 A	リニューアルによりアクセシビリティ向上、掲載内容充実 B	C
平成20年度	予算 委託料他	69	一般財源					
平成21年度	計画 委託料他	70	一般財源	平成19年度 施策評価 (外部評価)				
平成22年度	計画 委託料他	70	一般財源					

第5章 進んで学び、明日の文化を築こう			実施主体	(○)村直営 ()団体 ()その他		
4.地域情報化と電子自治体の推進	施策	(P85) ③個人情報の保護	実施期間	継続	団体等	

平成20年度実施計画				平成19年度実施状況					
1)目的と到達目標		2)事業内容(具体的な施策)		4)平成19年度の施策の実施状況と成果・課題					
■目的 情報セキュリティの強化に努める。		◇個人情報の遵守、周知徹底のため職員の研修を行う。		■実施状況 ・パスワードによる他課情報の閲覧防止、ウイルス対策ソフトの導入等の施策やメール配信の職員研修を実施した。					
■到達目標 ・情報漏洩の防止				■成果等 ・パスワードによる他課情報の閲覧防止、ウイルス対策ソフトの導入等の施策やメール配信の職員研修を実施し、情報漏洩の防止に努めた。					
3)実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				5)施策評価					
年度	実績	支出の積算内訳	予算額	財源内訳(特財等)	評価項目	目的等の重要度	コストパフォーマンス	目標等の達成度	関連波及効果
平成19年度	実績	手数料	426	一般財源	平成19年度 施策評価 (庁内評価)	情報漏洩の防止のため、個人情報の保護は重要度が高い B	ウイルス対策ソフトを導入した B	C	C
平成20年度	予算	手数料	426	一般財源					
平成21年度	計画	手数料	426	一般財源	平成19年度 施策評価 (外部評価)				
平成22年度	計画	手数料	426	一般財源					